

ノ謄本ヲ送達シテ其權利防衛ノ爲ニ相手方ヲモ呼出ス可シ  
切迫ナル危険ノ場合ニ於テハ適當ナル時間ニ相手方ヲ呼出スコト  
ヲ得サリシトキト雖モ證據調ヲ妨クルコト無シ

第三百七十條 證據調ハ本章第六節第七節及ヒ第九節ノ規定ニ從ヒ  
テ之ヲ爲ス

證據調ノ調書ハ證據調ヲ命シタル裁判所ニ之ヲ保存ス可シ各當事  
者ハ證據調ノ調書ヲ訴訟ニ於テ使用スル權利アリ

受訴裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ再度ノ證據調ヲ命シ又ハ  
既ニ調ヘタル證據ノ補充ヲ命スルコトヲ得

第三百七十一條 證據調ハ第三百六十五條ノ條件ナキトキト雖モ相  
手方ノ承諾ニ因リ之ヲ許スコトヲ得

第三百七十二條 申立人カ相手方ヲ指定セザルトキハ申立人自己ノ

過失ニ非スシテ相手方ヲ指定シ能ハサルコトヲ説明スル場合ニ限  
リ其申請ヲ許ス

申請ヲ許容シタルトキハ裁判所ハ其知レサル相手方ノ權利防衛ノ  
爲ニ臨時代理人ヲ任スルコトヲ得

(解) 證據保全ノ申請ヲ爲ストキハ裁判所ハ其申請ニ付テノ許否ノ決定ヲ爲サザル可カラズ然シテ此決定ハ口  
頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得ルナリ  
證據保全ニ於ケル證據調モ一般ノ證據調ト同一ノ方法ニ因リテ之ヲ爲スヲ以テ相當ト爲スカ如クナレモ素ト證  
據保全ハ人證鑑定檢證ノ三者ニ限リタルヲ以テ其方法モ亦人證鑑定檢證ノ三者ニ用フル規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス  
モノトス

第三百七十一條ニ第三百六十五條ノ條件ナキトキトアルハ即チ證據ノ紛失スル恐又ハ證據ヲ使用シ難キ恐ナキ場  
合ノ意義ニシテ此等ノ場合ト雖モ實際上事實ヲ速ニ確定スルコトヲ要スルコトアルヘシ斯ル場合ニ於テ關係人  
ノ合意ノ申立アレハ證據保全ノ手續ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

第三百七十二條ハ相手方ノ未定ナル場合ニ適用ス可キ規定ニシテ相手方ヲ指定セザルモ自己ノ過失ニアラサルノ  
理ヲ説明シタルニ於テハ申請ヲ許スナリ然リ而シテ其申請ヲ許容シテ證據保全ヲ許シ裁判所ニ於テ證據調ヲ爲  
スルハ其知レサル相手方ノ權利ヲ保護セシムル爲メニ臨時代理人ヲ任スルコトヲ得ルナリ

### 第二章 區裁判所ノ訴訟手續



第一節 通常ノ訴訟手續

區裁判所ノ訴訟手續ヲ二種ニ區別シ第一節ニ通常ノ訴訟手續ヲ規定シ第二節ニ特別ノ訴訟手續即チ督促手續ヲ規定シタリ通常ノ訴訟手續トハ普通一般ノ訴訟ト同一ナル訴訟ノ方法ニ依リテ救済ヲ求ムル時ノ手續ヲ云ヒ督促手續トハ別ニ訴訟ヲ爲スニ非ス直ニ義務ノ履行ヲ義務者ニ向テ督促スルノ手續ヲ云フナリ

第三百七十三條 區裁判所ノ通常ノ訴訟手續ニ付テハ區裁判所ノ構成又ハ第一編及ヒ本節ノ規定ニ依リ差異ノ生セサル限リハ地方裁判所ノ訴訟手續ニ付テノ規定ヲ適用ス

第三百七十四條 訴ハ書面又ハ口頭ヲ以テ裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得

第三百七十五條 起訴アリタルトキハ裁判所書記ハ訴狀ヲ被告ニ送達スル手續ヲ爲ス  
準備書面ノ交換ハ之ヲ爲スコトヲ要セス

第三百七十六條 原告若クハ被告ハ其申立及ヒ事實上ノ主張ニシテ

豫メ通知スルニ非サレハ相手方ニ於テ之ニ對シ陳述ヲ爲シ得ハカラサルモノヲ口頭辯論ノ前直接ニ相手方ニ通知スルコトヲ得

第三百七十七條 口頭辯論ノ期日ト訴狀送達トノ間ニ少ナクトモ三日ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス急迫ナル場合ニ於テハ此時間ヲ二十四時マテニ短縮スルコトヲ得

送達ヲ外國ニ於テナス可キトキハ事情ニ應シテ時間ヲ定ムヘシ

(解) 本法ハ地方裁判所ノ手續ヲ以テ一般トシ區裁判所ニ於ル或手續ヲ以テ例外ノモノト爲セリ蓋シ區裁判所ハ可成簡易ニシテ迅速ヲ旨トスレハナリ

通常ノ手續ニ於テハ訴狀ヲ裁判所ニ出シテ之ヲ爲スモノナレ區裁判所ニ於テハ最モ輕便ヲ旨トスルニヨリ書面又ハ口頭ヲ以テ起スコトヲ得ルナリ

訴ノ提起アリタルトキハ裁判所書記ハ訴狀ヲ被告ニ送達セサル可カラサルモ區裁判所ノ事件ハ法律上簡易ノモノト推測スルヲ以テ準備書面ノ交換等ハ要セサルモノトシタリ

第三百七十六條ニ所謂申立及ヒ主張ハ相手方カ之ニ對シ答辯ヲ爲スコトヲ要ス可キモノヲ指示シ直接ニ相手方ニ通知トハ即チ裁判所ニ書面ヲ差出スコトヲ且執達吏ニ依リ送達ノ手續ヲ盡スコトヲク要セス自身カ直チニ普通ノ書翰ヲ以テ通知スルコトヲ得可キモノト解スヘキナリ



二百七十七條ハ口頭辯論ノ期日ト訴狀送達ノ間ハ地方裁判所ニ於テハ二十日ヲ要スルモ區裁判所事件ハ簡易ノ事件ナルヲ以テ三日トシ尙ホ急迫ナル場合ニ二十四時マテニ短縮スルコトヲ得ルモノトナシタルナリ

第三百七十八條 當事者ハ通常ノ裁判日ニ於テハ豫メ期日ノ指定ナクシテ裁判所ニ出頭シ訴訟ニ付キ辯論ヲ爲スコトヲ得

此ノ場合ニ於テ訴訟提起ハ口頭ノ演述ヲ以テ之ヲ爲ス

第三百七十九條 數箇ノ妨訴ノ抗辯ヲ本案ノ辯論前同時ニ提出ス可キ規定ハ裁判所管轄違ノ抗辯ニ限り之ヲ適用ス

被告ハ妨訴ノ抗辯ニ基キ本案ノ辯論ヲ拒ム權利ナシ然レトモ裁判所ハ職權ヲ以テ右抗辯ニ付キ分離シタル辯論ヲ命スルコトヲ得

第三百八十條 第二百二十二條、第二百六十六條乃至第二百七十二條ノ規定ハ區裁判所ノ訴訟手續ニ之ヲ適用セス  
然レトモ原告若クハ原告ノ申立及ヒ陳述ハ裁判所ノ意見ニ從ヒ訴

訟關係ヲ十分ニ明確ナラシムル爲メ必要ナルモノニ限り調書ヲ以テ之ヲ明確ナラシム可シ

第三百八十一條 訴ヲ起サントスル者ニ和解ノ爲メ請求ノ目的物ヲ開示シテ相手方ヲ其普通裁判籍ヲ有スル區裁判所ニ呼出ス可キコトヲ得其申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

當事者雙方出頭シ和解ノ調ヒタルトキハ調書ヲ以テ之ヲ明確ナラシム可シ

和解ノ調ハサルトキハ當事者雙方ノ申立ニ因リ其訴訟ニ付キ直チニ辯論ヲ爲ス此場合ニ於ケル訴ノ提起ハ口頭ノ演述ヲ以テ之ヲ爲ス

相手方カ出頭セス又ハ和解ノ調ハサルトキハ此カ爲ニ生シタル費用ハ訴訟費用ノ一分ト看做ス



(解) 三百七十八條ハ係争事件ニ付キ當事者カ別ニ準備ヲ爲サスシテ輕便且急速ニ事件ヲ完結セシメ得ヘキ方法ヲ設ケシ規定ナリ

地方裁判所ニ於テハ妨訴ノ抗辯ハ被告ノ本案ニ付テノ辯論前ニ提出スヘク且數個ノ妨訴ノ抗辯ヲ爲サントスル片ハ同時ニ提出スヘキモノナルモ區裁判所ニ於テハ簡易ノ事件アルヲ以テ訴訟ノ遲延ヲ防クテ目的トシ本案ノ辯論前ニ此抗辯ニ付キ別ニ判決ヲ爲サヘルヲ通例トスルノ精神ヲ以テ何時ニテモ右抗辯ヲ提出スルコトヲ得ヘキ規定ヲ第一項ニ設ケ而シテ此抗辯ノ提出ニ基キ本案ノ辯論ヲ拒ムコトヲ得サル規定ヲ第二項ニ設ケシモノナリ

三百八十條ハ區裁判所ノ事件ハ簡易ノモノナルヲ以テ準備書面ノ交換計算事件ノ準備手續等ノ規定ハ適用セサルヲ普通トシ若シ其事件稍々錯雜シテ之ヲ調査ニ記スルニアラスンハ訴旨ヲシテ充分ニ明確ナラシムルコト能ハサルトモハ裁判所ノ意見ニ由テ訴訟關係十分ニ明確ナラシムル爲メ必要ナル事項ニ限り調査ヲ以テ之ヲ明確ナラシムヘキモノトス

三百八十一條ハ地方裁判所ノ事物ノ管轄ニ屬スルト區裁判所ノ事物ノ管轄ニ屬スルト中間ハ係争ノ請求ニ付キ直チニ訴ヲ起サスシテ先ツ區裁判所ニ於テ和解ヲナシ之ヲ完結スコキロトヲ試ミ得ヘク若シ和解ノ調ハサルトキハ申續キ直チニ訴訟ヲ起シ辯論ヲ爲シヘ得キコトニ關スル規定ヲナシタルナリ

### 第二節 督促手續

督促手續ハ非訴訟事件ニ似テ非ナルモノナリ訴訟手續中ノ一ノ特別訴訟手續ナシテ判明ナル請求ヲ通常ノ訴訟手續ニ依ラス簡易ナル方法ヲ以テ事件ヲ完結シ其執行ヲ得スコトヲ得セシムル手續ナリ即チ金錢ノ支拂其他ノ代替物若クハ有價證券ノ數量ヲ給付スヘキ義務アル債務者カ強チ之ヲ爭フニ非スト雖モ懈怠又ハ其他ノ差支ニ

依リ其義務ヲ履行セサルトキハ債權者ハ訴ヲ起シ執行シ得ヘキ判決ヲ得テ右ノ義務ヲ履行セシムル方如キ正則ニ依ラス簡易且許多ノ費用及ヒ日數ヲ要セシテ同一ノ目的ヲ達シ得ヘキ方法ナリ

第三百八十二條 一定ノ金額ノ支拂其他ノ代替物若クハ有價證券ノ

一定ノ數量ノ給付ヲ目的トスル請求ニ付キ債權者ハ通常ノ訴訟手續ニ依ラスシテ督促手續ニ依リ條件附ノ支拂命令ヲ債務者ニ對シ發センコトヲ申立ルコトヲ得

申請ノ旨趣ニ依レハ申請者反對給付ヲ爲スニ非サレハ其請求ヲ主張スルコトヲ得サルトキ又ハ支拂命令ノ送達ヲ外國ニ於テ爲シ若クハ公示送達ヲ以テ爲ス可キトキハ督促手續ヲ許サス

(解) 督促手續ハ裁判所ニ專屬スルモノニシテ他ノ裁判所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス又督促手續ハ其債權ノ多寡ニ依ラス之ヲ爲スコトヲ得ルナリ

此手續ニヨリ支拂命令ヲ發シ得可キ種類ハ

- 一、一定ノ金額ノ支拂ナル場合
- 二、他替物ノ支拂ナル場合
- 三、有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ目的トスル場合

### 第二編 第一審ノ訴訟手續



是レナリ其支拂ト云ヒ又ハ給付ト云フモ等シク或ル物ヲ渡スノ意義ニシテ金錢ニ付テハ支拂ナル語ヲ用井金錢ニ非ラサル物ニ付テハ給付ナル語ヲ用井タルニ過キス

又督促手續ハ簡易ナル方法ヲ以テ迅速ニ完結スヘキコトヲ目的トスルモノナレハ申請者カ反對給付ヲ爲スニ非ラサレハ請求ヲ爲スコトヲ得サル場合ニ於テハ申請前ニ申請者其者ヨリ義務履行セサレハ未タ請求權ノ生セサルモノハ督促手續ヲ許サス

又異議申立ノ期間ヲ短クシテ規定スル程ナレハ外國ニ於テ送達ヲ爲シ又ハ公示送達ヲ爲スコトヲ要スル場合ノ如キ事件ニハ固ヨリ適當セサルニヨリ之ヲ許ササルモノトセリ

第三百八十三條 支拂命令ハ區裁判所之ヲ發ス

此命令ハ區裁判所ノ第一審ノ事物ノ管轄ノ制限ナキモノト看做シ通常ノ訴訟手續ニ於ケル訴ノ提起ニ付普通裁判籍又ハ不動産上裁判籍ノ屬ス可キ區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第三百八十四條 支拂命令ヲ發スルコトノ申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

此申請ハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 當事者及ヒ裁判所ノ表示

第二 請求ノ一定ノ數額、目的物及ヒ原因ノ表示若シ請求ノ數額ナルトキハ其各箇ノ一定ノ數額、目的物及ヒ原因ノ表示

第三 支拂命令ヲ發センコトノ申立

第三百八十五條 裁判所ハ申請ヲ調査シ其申請カ前三條ノ規定ニ適當セス又ハ申請ノ旨趣ニ於テ請求ノ理由ナク又ハ現時理由ナキコトノ顯ハルルトキハ其申請ヲ却下ス

請求ノ一分ノミニ付支拂命令ヲ發スルコトヲ得サルトキハ亦其申請ヲ却下ス然レトモ數箇ノ請求中或ルモノニ理由ナクシテ其他ノモノニ理由アリト見ユルトキハ其理由アリト見ユルモノニ限り申請ヲ許容ス

右却下ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス然レトモ通常



ノ訴訟手續ニ依リ訴追スルヲ妨クルコト無シ

(解) 第三百八十六條第一項ハ支拂命令ヲ發スルニ付テノ事物ノ管轄ヲ定メタルモノニシテ即チ區裁判所ヲ以テ其管轄裁判所トス而シテ第二項ノ規定ニ依リ請求ノ多寡及ヒ性質ヲ論セス區裁判所ノ管轄ニ專屬スルモノトセシ故支拂命令ハ區裁判所ノ事物ノ專屬管轄ナリ

第二項ハ區裁判所中何レノ裁判所カ管轄ナルヤノ規定則チ土地ノ管轄ニ關スル規定ナリ

第三百八十四條ハ支拂命令ノ申請方法及ヒ申請ニ付テノ事項ヲ定メタルナリ

第三百八十五條カ支拂命令ノ申請ヲ却下スル場合ヲ規定シタリ其申請ヲ却下スルト雖モ爲メニ再ヒ申請ヲ爲スノ權利ヲ失ハス且通常ノ訴訟手續ニ依リ訴追スルコトヲ得キモノトス故ニ却下ノ命令ニ對シ不服ノ申立ヲ許可スルモノトナシタルナリ

第三百八十六條 支拂命令ハ豫メ債務者ヲ審訊セスシテ之ヲ發ス

支拂命令ニハ第三百八十四條第一號及ヒ第二號ニ掲ケタル申請ノ要件ヲ記載シ且即時ノ強制執行ヲ避ケント欲セハ此命令送達ノ日ヨリ十四日ノ期間内ニ請求ヲ満足セシメ及ヒ其手續ノ費用ニ付キ定ムル數額ヲ債權者ニ辨濟ス可ク又ハ裁判所ニ異議ヲ申立ツ可キ旨ノ債務者ニ對スル命令ヲ記載ス可シ

前項ノ期間ハ爲替ヨリ生スル請求ニ付テハ二十四時間其他ノ請求ニ付テハ申立ニ因リ三日マテニ之ヲ短縮スルコトヲ得

(解) 支拂命令ナルモノハ素ト訴訟ニアラサルヲ以テ債務者ヲ審訊スルコトナシ然レモ時ニ狡猾ナル徒カ事實ニ及スル申立ヲ爲スコトナキニシモアラサルヲ以テ一方ニ異議ノ方法ヲ設ケ只申請者ノ請求理由アルヤ否ヤヲ調査シテ發スルコト、セリ支拂命令ニヨリ債權者ニ辨濟ス可キ期間ハ通例十四日ヲ以テ期間ト爲スト雖モ爲替ヨリ生スル請求ニ付テハ二十四時間ニ短縮シ其他ノ請求ニ付テハ申立ニ因リ切迫ナルモノニ限り之ヲ三日迄ニ短縮スルコトヲ得ルナリ

第三百八十七條 權利拘束ノ效力ハ支拂命令ヲ債務者ニ送達スルヲ以テ始マル

支拂命令ノ送達ハ之ヲ債權者ニ通知ス可シ

第三百八十八條 債務者ハ支拂命令ニ對シ書面又ハ口頭ヲ以テ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第三百八十九條 債務者カ請求ノ全部又ハ一分ニ對シ適當ナル時間ニ異議ヲ申立ツルトキハ支拂命令ノ效力ヲ失フ然レトモ權利拘束



ノ效力ヲ存續ス

數箇ノ請求中或ルモノニ對シ異議ヲ申立テタルトキハ支拂命令ハ其他ノ請求及ヒ之ニ相當スル費用ノ部分ニ付キ效力ヲ有ス

第三百九十條 適當ナル時間ニ異議ヲ申立テタル場合ニ於テ請求ニ付キ起ス可キ訴カ區裁判所ノ管轄ニ屬スルトキハ其訴ハ支拂命令ノ送達ト同時ニ區裁判所ニ之ヲ起シタルモノト看做ス其口頭辯論ノ期日ハ第三百七十七條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ定ム

第三百九十一條 請求ニ付キ起ス可キ訴カ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル場合ニ於テハ適當ナル時間ニ異議ノ申立アリタルコトヲ債權者ニ通知ス可シ  
債權者其通知書ノ送達アリタル日ヨリ起算シ一个月ノ期間内ニ管轄裁判所ニ訴ヲ起ササルトキハ權利拘束ノ效力ヲ失フ

(解) 支拂命令ハ債務者ニ送達スルノミナラス債權者ニモ通知セサル可カラサルモノトス

第三百八十八條ハ債務者ニ於テ支拂命令ニ對シ不服ナルトキハ異議ヲ申立ツル權利アルコト並ニ其申立ヲ爲スル法ヲ規定シタルニ過キス

第三百八十九條ハ請求ノ一分ニ對シ異議ヲ申立ツルハ支拂命令ノ全部其効力ヲ失フモノトス斯ク規定スル理由ハ支拂命令ナルモノハ請求ノ一分ニ理由ナキハ之ヲ廢スルコトヲ得サル原則ナルヲ以テ之ニ基キタルモノナラン之ニ反シ數箇ノ請求ニ付キ支拂命令ヲ發シタル場合ニ於テハ其或ルモノニ付キ異議ヲ申立ツルモ他ノ異議ナキ請求ハ獨立スルモノナル故之ニ影響ヲ及ボサザルモノトス

第三百九十條ハ區裁判所ノ管轄ニ屬スル請求ニ付キ適當ナル時間ニ異議ノ申立アレハ支拂命令送達ノ時ニ溯リ同時ニ其命令ヲ發シタル區裁判所ニ起訴アリシモノト看做ス故ニ事件カ其裁判所ニ繫屬シ通常ノ訴訟手續ニ依リ之ヲ完結ス可キモノトス

第三百九十一條ハ其請求額地方裁判所ニ屬ス可キ場合ハ命令書ノ送達ト同時ニ訴ヲ提起シタルモノト見做スヲ得ス區裁判所ハ其異議ノ申立アリタルコトヲ債務者ニ通知シ債務者ハ此通知ニ違フテ更ニ訴ヘテ起サザル可カラス若シ此ヲ通知書ノ送達アリタル日ヨリ起算シテ一ヶ月内ニ管轄裁判所ニ訴ヲ起サハルトキハ權利拘束ノ効力ヲ失フニ至ルモノナリ

第三百九十二條 督促手續ノ費用ハ適當ナル時間ニ異議ノ申立アリタル場合ニ於テハ起ス可キ訴訟ノ費用ノ一分ト看做ス

前條ノ場合ニ於テ期間内ニ訴ヲ起ササルトキハ手續ノ費用ハ債權



者ノ負擔ニ歸ス

第三百九十三條 支拂命令ハ其命令中ニ掲ケタル期間ノ經過後債權者ノ申請ニ因リ之ヲ假ニ執行シ得ヘキコトヲ宣言ス但假執行ノ宣言前債務者異議ヲ申立テサルトキニ限ル

右假執行ノ宣言ハ支拂命令ニ付ス可キ執行命令ヲ以テ之ヲ爲ス其執行命令ニハ債權者ニ於テ計算スル手續ノ費用ヲ掲ク可シ  
債權者ノ申請ヲ却下スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

(解) 督促手續ハ素ト訴訟ニアラサルヲ以テ之ニ依リテ生シタル費用ハ訴訟費用ト見做スコトヲ得サルモノ、如クナレバ債務者ニ於テ異議ヲ述ヘタルトキハ訴訟ト爲ル可キヲ以テ矢張り訴訟費用ノ一部ト見做シ敗訴者ニ於テ之ヲ辯償セサル可カラス然レモ若シ債權者力適當ノ時間内ニ於テ訴ヲ起サ、ルトキハ其手續ノ費用ハ債權者ノ負擔ニ歸スルモノトス  
支拂命令ハ其性質上條件附ノ欠席判決ニシテ其條件ヲ除去セシメテ假ニ執行ヲ爲シ得ルニ至ラサルモノナリ勿論假ニ執行ヲ爲スニハ單ニ異議申立ノ期間經過シタルノミヲ以テ其執行力ヲ生スルモノナラス必ス假執行ノ宣言ヲ要スルモノトス此假執行ノ宣言ヲ爲スニ付テノ要スル條件ハ

第一、命令書中ニ掲ケタル期間ノ經過シタルコト

第二、債權者ヨリ假執行ノ申請ヲ爲シタルコト

第三、其宣言前債務者異議ヲ申立テサリシコト  
是レナリ

第三百九十四條 執行命令ハ假執行ノ宣言ヲ付シタル關席判決ト同

一ナリトス其執行命令ニ對シテハ第二百五十五條乃至第二百六十四條ノ規定ニ從ヒテ故障ヲ申立ツルコトヲ得請求カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ區裁判所ハ其故障ヲ法律上ノ方式及ヒ期間ニ於テ申立テタルヤノ點ノミニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ爲ス此場合ニ於テハ第三百九十一條第二項ニ定メタル期間ハ故障ヲ許ス判決ノ確定ヲ以テ始マル

第三百九十五條 時期ニ後レテ申立テタル異議ハ命令ヲ以テ之ヲ却下ス此却下ノ命令ニ對シテ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス



(解) 第三百九十四條ハ執行命令ニ付キテ異議ヲ申立テ得ルコトヲ規定シタルモノナリ通常ノ訴訟手續ヨリ生シタル執行命令ニ對シテハ強制執行ノ部ニ規定シタル手續ニ依ルニアラサレハ故障ヲ申立ツルコトヲ得スト雖モ支拂命令ニ因レル執行命令カ債權者ノミノ請求ニ依テ下附シタルモノナレハ恰モ欠席判決ト同一ナリ故ニ一般ノ規則ニ從ヒテ故障ヲ爲スコトヲ得ルナリ

請求カ地方裁判所ノ管轄ニ屬スルトキハ區裁判所カ故障ノ許否ノミニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ爲スコキ爲メ當事者ヲ呼出シ普通ノ手續ニ依リ口頭辯論ヲ開ク可キモノトス

時期ニ後レテ申立タル異議ハ命令ヲ以テ之ヲ却下シ其却下ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ許サヘルナ

### 第三編 上訴

上訴トハ確定力ヲ有スコキ裁判ニシテ其未タ確定セサルモノニ對シ上級裁判所ニ不服ヲ申立テ權利ノ救済ヲ受クル方法ヲ云フ上訴ハ控訴上告及ヒ抗告ノ三種アリ其各種ノ詳細ハ以下陳述スル所ノ各章ノ説明ヲ見テ知ルヘシ

#### 第一章 控訴

控訴ハ第一審裁判所ノ終局判決ニ對シ不利益ヲ受ケタリト思料スル者ヨリ二審裁判所ヘ再ヒ審理セラレンコトヲ求ムル所ノ訴ナリ

第三百九十六條 控訴ハ區裁判所又ハ地方裁判所ノ第一審ニ於テ爲シタル終局判決ニ對シテ之ヲ爲ス

第三百九十七條 終局判決前ニ爲シタル裁判ハ亦控訴裁判所ノ判斷ヲ受ク但此法律ニ於テ不服ヲ申立ツルコトヲ得スト明記シタルトキ又ハ抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ルトキハ此限ニ在ラス

(解) 控訴ハ凡テ第一審ノ判決ニ對シテ不服ヲ唱フルモノナルヲ以テ區裁判所ノ判決ニ對シテハ地方裁判所ニ控訴シ地方裁判所ノ判決ニ對シテハ控訴院ニ控訴ヲ爲スコキモノトス控訴ハ如何ナル種類ノ判決ニ對シテ之ヲ



爲スコトヲ得ルカト云フニ獨立ノ扣訴ハ凡テ終局判決又ハ中間判決ニテモ終局判決ト見做ス可キ判決ノミニ付  
キテ爲スコトヲ得ルナリ

扣訴ハ形式上終局判決ニ對シテノミ之ヲ許スモノトス依テ中間判決判定及ヒ裁判長若クハ受命判事ノ命令ニ對  
シテハ形式上扣訴ヲ爲シ能ハサルナリ然レモ實體上ハ終局判決前ニ爲シタル裁判則チ終局判決ヲ準備スル裁判  
ニ對シテモ終局判決ニ對スル扣訴ト共ニ不服ヲ申立ツルコトヲ得ヘキモノトス在併訴訟法ニ於テ特ニ不服ヲ申  
立ツルコトヲ得スト明記シタルモノ又抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル場合モ扣訴スルコトヲ許サザルナ  
リ

第三百九十八條 闕席判決ニ對シテハ期日ヲ懈怠シタル者ヨリ控訴

ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス但故障ヲ許ササル闕席判決ニ對  
シテハ懈怠ナカリシコトヲ理由トスルトキニ限り控訴ヲ以テ不服  
ヲ申立ツルコトヲ得

(解) 缺席判決ヲ受ケタル者則チ缺席者ハ缺席判決ニ對シ故障申立ノ方法ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ  
ヲ以テ扣訴ヲ許サザルヲ通例トス然レモ故障ヲ許サザル缺席判決ノ規定アルヲ以テ此場合ニハ例外トシテ懈怠  
ナカリシコトヲ理由トスルトキニ限り扣訴ヲ許スモノトス

第三百九十九條 控訴ハ口頭辯論ノ前ニ於テハ被控訴人ノ承諾ナク

シテ之ヲ取下クルコトヲ得

控訴ノ取下ハ上訴權ヲ喪失スル結果ヲ生ス

第四百條 控訴期間ハ一个月トス此期間ハ不變期間ニシテ判決ノ送

達ヲ以テ始マル

判決ノ送達前ニ提起シタル控訴ハ無効トス

第二百四十二條ノ規定ニ從ヒ控訴期間内ニ追加裁判ヲ以テ判決ヲ

補充シタルトキハ控訴期間ノ進行ハ最初ノ判決ニ對スル控訴ニ付

テモ追加裁判ノ送達ヲ以テ始マル

(解) 三百九十九條ハ扣訴ノ取下ニ關スル規定ニシテ控訴カ口頭辯論前ニ在テハ控訴ヲ爲スト否トハ各人ノ自  
由ナルヲ以テ相手方ノ承諾ナクモ取下クルコトヲ得ルナリ在併口頭辯論後ハ相手方タルモノ既ニ權利上ノ申  
立ヲ爲シタルモノナルヲ以テ自由ニ取下クルコトヲ許サザルモノトス  
控訴取下ハ訴ノ取下ト異ナリ訴ノ取下ナルモノハ常ニ請求權マテモ拋棄シタルモノト推測スルコトヲ得サルモ  
控訴ノ取下ハ一度下級裁判所ノ判決ヲ受ケ上訴ヲナシタルモノナルヲ以テ其上訴ヲ取下クルトキハ第一審ノ判  
決確定シ上訴權喪失スルノ結果ヲ生スルナリ



第四百條ハ控訴ノ期間及ヒ其起算點ヲ規定シタルナリ

第四百一條 控訴ノ提起ハ控訴狀ヲ控訴裁判所ニ差出シテ之ヲ爲ス

此控訴狀ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 控訴セラルル判決ノ表示

第二 此判決ニ對シ控訴ヲ爲ス旨ノ陳述

此他控訴狀ハ準備書面ニ關スル一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ作り且判決ニ對シ如何ナル程度ニ於テ不服ナルヤ及ヒ判決ニ付キ如何ナル變更ヲ爲ス可キヤノ申立ヲ掲ケ若シ新ニ主張セントスル事實及ヒ證據方法アルトキハ其新ナル事實及ヒ證據方法ヲモ掲ク可シ

第四百二條 判然許ス可カラサル控訴又ハ判然法律上ノ方式ニ適セス若クハ其期間ノ經過後ニ起シタル控訴ハ裁判長ノ命令ヲ以テ之ヲ却下ス

此却下ノ命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

(解) 第四百一條ハ控訴ノ提起及ヒ控訴狀ヲ作成スル方法ヲ規定シタルモノナリ

第四百二條ニ所謂判然許ス可カラザル控訴トハ控訴ヲ爲シ得ヘキ事件外ノモノ、意義ナリ例ヘハ普通ノ中間判決及ヒ決定、命令等ニ對シテハ獨立シテ控訴ヲ爲スコトヲ許サス又終局判決ト雖モ缺席判決ニ丹リ故障ヲ許ス可キモノナルトキハ之ニ對シテ控訴ヲ許サミルノ類ナリ又判然法律上ノ方式ニ適セストハ第四百一條ニ掲グル要件具備セサルモノ、謂ニシテ又判然其期間ノ經過後ニ起シタル控訴トハ第四百條第一項ニ規定スル一个月ノ不變期間ヲ徒過シテ提起シタル控訴ノ謂ナリ

第四百三條 控訴狀ノ送達ト口頭辯論ノ期日トノ間ニ存スルコトヲ

要スル時間ニ付テハ第九十四條ノ規定ヲ適用シ答辯書ヲ差出ス可キ期間ノ催告ニ付テハ第九十九條ノ規定ヲ適用ス

前項ノ場合ニ於テモ亦第二百三條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第四百四條 答辯書ハ準備書面ニ關スル一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ作り且被控訴人ノ一定ノ申立及ヒ其主張セントスル新ナル事實及ヒ證據方法ヲ掲ク可シ



第四百五條 被控訴人ハ自己ノ控訴ヲ拋棄シタルトキ又ハ控訴期間ノ經過シタルトキト雖モ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得

闕席判決ニ對シ附帶控訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトニ付テハ第三百九十八條ノ規定ニ從フ

第四百六條 左ノ場合ニ於テハ附帶控訴ハ其效力ヲ失フ

第一 控訴ヲ不適法トシテ判決ヲ以テ棄却シタルトキ

第二 控訴ヲ取下ケタルトキ

然レトモ被控訴人カ控訴期間内ニ附帶控訴ヲ爲シタルトキハ之ヲ獨立ノ控訴ト看做ス

第四百七條 答辯書ニ新ナル事實若クハ證據方法ヲ掲ケ又ハ附帶控訴ヲ爲ス旨ノ陳述ヲ掲ケタルトキハ之ヲ控訴人ニ送達ス可シ

(解) 四百三條四百四條ニ關スル事柄ハ既ニ各條ノ下ニ説明シ來リシテ以テ更ニ説明ヲ要スル點ナシ

四百五條乃至四百七條マテハ附帶控訴ニ關スル規定ニ係ル凡ソ控訴ハ獨リ控訴人ヨリ爲シタルノミナラス當事者双方ヨリ第一審裁判ニ對シ不服ヲ申立ツルコトヲ得ルナリ然シテ獨立シテ控訴ヲ爲シタルトキ主タル控訴ト云ヒ主タル控訴ニ附帶スルヲ附帶控訴ト云フ被控訴人ハ自己ノ控訴ヲ拋棄シタルトキト雖モ主タル控訴ノ豫備中ナルニ於ケル附帶控訴ヲ爲スコトヲ得ルナリ

第四百六條ハ附帶控訴ノ消滅スル場合ニ關スル規定ナリ

答辯書ハ相手方ニ送達スルヲ以テ通例ト爲スモ殊ニ新ナル事實若クハ證據方法ヲ掲ケタルトキハ其之レニ對シテ辯解ノ準備ヲ爲サシムル爲メニ相手方ニ送達セサル可カラサルナリ

第四百八條 右ノ外控訴ノ訴訟手續ニハ地方裁判所ノ第一審ノ訴訟手續ノ規定ヲ準用ス但本章ノ規定ニ依リ差異ノ生スルモノハ此限ニ在ラス

第四百九條 當事者ノ雙方ヨリ控訴ヲ起シタルトキハ其兩控訴ニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ同時ニ爲スヲ以テ通例トス

第四百十條 口頭辯論ハ其期日ニ於テ被控訴人ノ控訴期間ノ未タ經過セサルトキハ其申立ニ因リ期間ノ滿了マテ之ヲ延期ス



闕席判決ヲ受ケタル原告若クハ被告ヨリ其判決ニ對シ故障ヲ申立テ相手方ヨリ控訴ヲ起シタルトキハ控訴ニ付テノ辯論及ヒ裁判ハ故障ノ完結マテ職權ヲ以テ之ヲ延期ス

(解) 四百八條ハ地方裁判所ノ第一審ノ訴訟手續ハ各種ノ訴訟手續ノ標準ト爲ス可キ精神ナルヲ以テ控訴ノ訴訟手續ニ付テモ性質上之ヲ適用シ得ヘキ限リハ右手續ニ依ル可キモノトセリ  
四百九條乃至四百十二條ハ控訴裁判所ニ於ケル特別ノ手續ヲ規定シタルモノナリ  
四百十條ニ被控訴人ノ控訴期間未タ經過セサルトキトアルハ則チ控訴人ト被控訴人ト其控訴期間ヲ異ニスル場合ヲ指示シタルモノニシテ此場合ト控訴狀送達ヨリ二十日後三十日前ニ口頭辯論ノ期日ヲ指定シ又ハ切迫ナル危險ノ場合ニ於テ控訴狀送達ヨリ二十四時間後三十日前ニ期日ヲ定メタル時ニ生ス則チ此場合ニ於テハ被控訴人ノ控訴期間ハ未タ經過セサル可シ何トナレハ其期間ハ判決ノ送達アリタルヨリ一ヶ月ヲ經過シ始メテ終了スルモノナレハナリ全第二項ハ一ノ缺席判決ニ對シ懈怠者ヨリハ第二百五十五條ノ規定ニ從ヒ第一審裁判所ニ故障ヲ申立テ其相手方則チ不備忘者ヨリハ第三百九十六條ノ規定ニ從ヒ控訴ヲ爲シタル場合ノ規定ニシテ此場合ニ於テハ前項ノ場合ト異ナリ控訴裁判所ハ職權ヲ以テ第一審ニ於ケル故障ノ完結スルマテ辯論及ヒ裁判ノ延期ヲ命スルモノトス

第四百十一條 控訴裁判所ニ於ケル訴訟ハ不服ノ申立ニ因リ定マリタル範圍内ニ於テ更ニ之ヲ辯論ス

第四百十二條 當事者ハ其控訴ノ申立及ヒ不服ヲ申立テラレタル裁判ノ當否ヲ明瞭ナラシムル爲メ必要ナル限リハ口頭辯論ノ際第一審ニ於ケル辯論ノ結果ヲ演述ス可シ  
演述ノ不正確又ハ不完全ナル場合ニ於テハ裁判長ハ其更正若クハ補完ヲ爲サシメ又必要ナル場合ニ於テハ辯論ヲ再開シテ之ヲ爲サシム可シ

第四百十三條 訴ノ變更ハ相手方ノ承認アルトキト雖モ之ヲ許サス  
第四百十四條 妨訴ノ抗辯ハ職權ヲ以テ調査ス可カラサルモノニシテ且原告若クハ被告カ其過失ニ非スシテ第一審ニ於テ提出シ能ハサリシコトヲ疏明スルニ限リ之ヲ主張スルコトヲ得  
本案ノ辯論ハ妨訴ノ抗辯ニ基キ之ヲ拒ムコトヲ得ス然レトモ裁判所ハ職權ヲ以テ妨訴ノ抗辯ニ付キ分離シタル辯論ヲ命スルコトヲ



得

第四百十五條 當事者ハ第一審ニ於テ主張セザリシ攻撃防禦ノ方法殊ニ新ナル事實及ヒ證據方法ヲ提出スルコトヲ得

第四百十六條 新ナル請求ハ第九十六條第二號及ヒ第三號ノ場合又ハ相殺スルコトヲ得ヘキモノニシテ且原告若クハ被告カ其過失ニ非スシテ第一審ニ於テ提出シ能ハザリシコトヲ疏明スルトキニ限リ之ヲ起スコトヲ得

第四百十七條 事實又ハ證書ニ付キ第一審ニ於テ爲サザリシ陳述又ハ拒ミタル陳述ハ第二審ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

(解) 第四百十一條以下四百十七條マテハ控訴審ニ於ケル訴訟ノ性質トシテ爲スコキ手續ノ規定ナリ  
第四百十一條ニ所謂不服ノ申立ニ因リ定マリタル範圍トハ第二百二十二條ノ規定ニ從ヒ申立ツル所ノ事項ニ因リ其範圍定マルノ意義ナリ  
第四百十二條ニ所謂辯論ノ結果トハ審ニ各當事者ノ口頭ノ供述ノミナラス其攻撃若クハ防禦ノ方法且其證據調ノ結果ニ涉リ事實上及ヒ法律上ノ關係ヲモ包含スルノ意義ナリ

第四百十四條ハ妨訴抗辯ニ關スル規定ナリ妨訴抗辯ハ原告ニ於テ辯論ヲ始メサル前ニ提出スルモノニシテ其原則ハ第一審ニ於テ提出ス可キモノナリトス故ニ控訴ニ至テハ安リニ之ヲ提出スルコトヲ許サス左ノ二條件ヲ具備スルトキニ限り許スナリ

第一、職權ヲ以テ調査ス可カラサルモノナルコト  
第二、原告若クハ被告カ過失ニアラスシテ第一審ニ於テ提出シ能ハサルコトヲ疏明シタルコト  
是レナリ

第四百十五條ハ第一審ニ於テ主張セサルノ攻撃防禦ノ方法ト雖モ控訴審ニ至テ之ヲ提出スルコトヲ得ル旨ヲ定メタルナリ

第四百十六條ハ控訴審ニ於テハ第一審ニ提出セザリシ新ナル請求ヲ提出スルヲ許サ、ル例外ヲ定メタルモノナリ其例外ノ場合トハ

- 一、第九十六條第二號ノ規定ニ從ヒ本案又ハ附帶ノ請求ニ付キ訴ノ申立ヲ擴張シ又ニ同條第三號ノ規定ニ從ヒ最初求メタル物ノ減盡又ハ變更ニ因リ賠償ヲ求ムル時
  - 二、相殺スルコトヲ得ヘキモノニシテ且之ヲ提出セントスル者カ自己ノ過失ニ非ラスシテ第一審ニ於テ提出シ能ハザリシコトヲ疏明スルトキ
- 此二場合ニ限り控訴審ニ至リ新ニ主張スルヲ得ルモノトス控訴ハ訴ノ原因ヲ變更セサルニ於テハ如何ナル陳述ヲモ爲スコトヲ得ルモノナリ故ニ事實上ノ事ニ付キ第一審ニ於テ陳述セザリシ點及ヒ之ヲ拒ミタルノ事實又ハ證書ニ付キ其陳述ヲ拒ミタルトキト雖モ控訴ニ至テ之ヲ陳述スルコトヲ得ルナリ

第四百十八條 第一審ニ於テ爲シタル裁判上ノ自白ハ第二審ニ於テ



モ亦其効力ヲ有ス

第四百十九條 控訴裁判所ハ控訴ヲ許ス可キヤ否ヤ又控訴ヲ法律上ノ方式ニ從ヒ若クハ其期間ニ於テ起シタルヤ否ヤヲ職權ヲ以テ調査ス可シ若シ此要件ノ一ヲ缺クトキハ判決ヲ以テ控訴ヲ不適法トシテ棄却ス可シ

(解) 裁判上ノ自白トハ當事者カ自ラ裁判官ノ面前ニテ明言スルヲ謂フナリ

第四百十九條ハ口頭辯論ヲ聞カスシテ控訴ヲ受理ス可キヤ否ヤニ付キ職權ヲ以テ之ヲ審査スルコトヲ定メタルナリ

第四百二十條 第一審ノ裁判ハ變更ヲ申立テタル部分ニ限り之ヲ變更スルコトヲ得

第四百二十一條 第一審ニ於テ是認シ又ハ非認シタル請求ニ關スル總テノ爭點ニシテ申立ニ從ヒ辯論及ヒ裁判ヲ必要トスルモノハ第一審ニ於テ此爭點ニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ爲ササルトキト雖モ控訴

裁判所ニ於テ其辯論及ヒ裁判ヲ爲ス

(解) 控訴ハ覆審ニシテ當事者ノ申立ニヨリ始マリ申立ヲ爲サザル點ハ不法ノ廢アルモ變更スルヲ得ス申立テタル部分ニ限り變更スルヲ得ルモノトス  
在併全部又ハ一部ノ覆審ヲ求メタル場合ニ於テ第一審ニテ是認シタルカ又ハ非認シタル請求ニ關スル總テノ爭點ニシテ當事者ヨリ之ヲ申立ツルトキハ第一審ニ於テ辯論及ヒ裁判ヲ爲サザルトキト雖モ控訴審ニ於テハ之ヲ爲サザル可カラサルモノトス

第四百二十二條 控訴裁判所ハ左ノ場合ニ於テ事件ニ付キ尙ホ辯論

ヲ必要トスルトキハ其事件ヲ第一審裁判所ニ差戻ス可シ

第一 不服ヲ申立テラレタル判決カ關席判決ナルトキ

第二 不服ヲ申立テラレタル判決カ關席裁判ニ對スル故障ヲ不適

法トシテ棄却シタルモノナルトキ

第三 不服ヲ申立テラレタル判決カ妨訴ノ抗辯ノミニ付キ裁判ヲ

爲シタルモノナルトキ

第四 請求カ其原因及ヒ數額ニ付キ爭アル場合ニ於テ不服ヲ申立



テラレタル判決カ先ツ其原因ニ付キ裁判ヲ爲シタルモノナルト  
キ

第五 不服ヲ申立テラレタル判決カ證書訴訟及ヒ爲替訴訟ニ於テ  
敗訴ノ被告ニ別訴訟ヲ以テ追行ヲ爲ス權ヲ留保シタルモノナル  
トキ

第四百二十三條 第一審ニ於テ訴訟手續ニ付テノ規定ニ違背シタル  
トキハ控訴裁判所ハ其判決及ヒ違背シタル訴訟手續ノ部分ヲ廢棄  
シ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スコトヲ得

(解) 四百二十一條乃至四百二十三條ハ控訴審ニ於ケル調査ヲ爲ス可キモノヲ規定シタルモノニシテ四百二十  
一條ハ普通ノ場合ヲ規定シ四百二十二條及四百二十三條ハ其例外ヲ規定シ控訴裁判所ヨリ事件ヲ第一  
審裁判所ニ差戻ス可キ場合ヲ規定シタルモノナリ在併悉ク之ヲ差戻ス可シト云フニアラス尚ホ辯論ヲ必要ト認  
ムル事ニ限り事件ヲ差戻スコトヲ得ルモノトス

第四百二十四條 控訴ヲ理由ナシトスルトキハ判決ヲ以テ控訴ノ棄

却ヲ言渡ス可シ

第四百二十五條 判決ヲ控訴人ノ不利益ニ變更スルコトハ相手方カ  
控訴又ハ附帶控訴ノ方法ヲ以テ判決ニ付キ不服ヲ申立テタル部分  
ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第四百二十六條 第二百十條ノ規定ニ從ヒテ防禦ノ方法ヲ却下スル  
トキハ其防禦ノ方法ヲ主張スル權ハ之ヲ被告ニ留保ス可シ

判決ニ此留保ヲ掲ケサルトキハ第二百四十二條ノ規定ニ從ヒテ判  
決ノ補充ヲ申立ツルコトヲ得

留保ヲ掲ケタル判決ハ上訴及ヒ強制執行ニ付テハ終局判決ト看做  
ス

第四百二十七條 防禦ノ方法ニシテ被告ニ其主張ヲ留保スルモノニ  
付テハ其訴訟ハ第二審ニ繫屬ス



爾後ノ手續ニ於テ訴ヲ以テ主張シタル請求ノ理由ナカリシコトノ  
顯ハルルトキハ前判決ヲ廢棄シテ其訴ヲ棄却シ且申立ニ因リ判決  
ニ基キ支拂ヒタルモノ又ハ給付シタルモノヲ返還ス可キコトヲ言  
渡シ並ニ費用ニ付キ裁判ヲ爲ス可シ

(解) 控訴ハ一部ニ對スルト全部ニ對シテ不服ヲ申立ツルト同ハス罷審ノ上訴ノ理由ナシトスルハ判決ヲ  
以テ之ヲ棄却スルノ言渡ヲ爲ス可キモノトス

四百二十五條ハ未タ申立テサル事物ヲ原告若クハ被告ノ責ニ歸セシムルコトヲ得ストノ原則ヲ適用シタルモノ  
ナリ

四百二十六條四百二十七條ノ二ヶ條ハ留保ノ權ヲ掲ケタル場合ニ於ケル手續ヲ定メタルモノナリ第二十條ノ  
規定ニ從ヒテ妨訴ノ抗辯ヲ却下シタルトキハ即チ被告ヨリ時機ニ後レテ提出シタル妨訴ノ抗辯ニシテ若シ之ヲ  
許スニ於テハ訴訟ヲ遲延ス可ク且ツ被告ハ遲延セシメントスル故意ヲ以テ之ヲ提出シタルカ又ハ甚シキ怠慢ニ  
依リ早ク之ヲ提出セザリシコトノ心證ヲ得タルトキ之ヲ却下スル場合ヲ云フ此ノ場合ニ於テハ防禦ノ方法ヲ却  
下スルトキハ其之ヲ主張スル權ヲ被告ニ留保ス可キモノトス留保トハ一旦其防禦方法ニ取ルモ尚ホ之ヲ主  
張シ得ルノ權ヲ云フ

第四百二十八條 控訴人カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セサルトキハ出頭  
シタル被控訴人ノ申立ニ因リ闕席判決ヲ以テ控訴ノ棄却ヲ言渡ス

へん

第四百二十九條 被控訴人口頭辯論ノ期日ニ出頭セサル場合ニ於テ  
出頭シタル控訴人ヨリ闕席判決ノ申立ヲ爲ストキハ第一審裁判ノ  
憑據ト爲リタルモノニ牴觸セサル控訴人ノ事實上ノ供述ハ被控訴  
人之ヲ自白シタルモノト看做シ且第一審裁判所ノ事實上ノ確定ヲ  
補充シ若クハ辯駁スル爲メ控訴人ノ申立テタル適法ノ證據調ハ既  
ニ之ヲ爲シ及ヒ其結果ヲ得タルモノト看做シ闕席判決ヲ爲ス

(解) 此二ヶ條ハ第一審ノ訴訟手續ナル二百四十七條及二百四十八條ノ規定ト殆ント相等シキ規定ニシテ控訴  
審ニ於テ欠席判決ヲ爲ス場合ニ關スル手續ニ係ル第一審ニ於テハ第二百四十七條ニ依リ出頭セサル一方カ原告  
ナルトキハ裁判所ハ欠席判決ヲ以テ其訴ヲ却下ナ言渡スモノナリ是レト同シク第二審ニ於テモ控訴人カ口頭辯  
論ノ期日ニ出頭セサルトキハ出頭シタル被控訴人ノ申立ニ依リ欠席判決ヲ以テ控訴ノ棄却ヲ言渡ス可キモノ  
トス

四百二十九條ハ四百二十八條ト反對ニテ口頭辯論ノ期日ニ被控訴人ハ出頭セス控訴人カ出頭シ欠席判決ノ申立  
チ爲ス場合ナリ此場合ハ如何ト云フニ出頭シタル控訴人ヨリ欠席判決ノ申立ヲ爲ストキハ第一審裁判ノ憑據ト  
爲リタルモノニ牴觸セサル控訴人ノ事實上ノ供述ニ被控訴人之ヲ自白シタルモノト見做シ且第一審裁判所ノ



事實上ノ確定ヲ補充シ若クハ辯駁スル爲メ控訴人ノ申立テタル適法ノ證據調ハ既ニ之ヲ爲シ及ヒ其結果ヲ得タルモノト見做シテ欠附裁判ヲ爲スコトヲ得ルナリ故ニ若シ第一審裁判ノ憑據ト爲リタルモノニ抵觸スル控訴人ノ申立ハ之ヲ採用スルコトヲ得サルモノトス

第四百三十條 判決中ノ事實ノ摘示ニ付テハ前審ノ判決ヲ引用スルコトヲ得

第四百三十一條 控訴裁判所ノ書記ハ控訴狀ノ提出ヨリ二十四時間ニ第二審裁判所ノ書記ニ訴訟記録ノ送付ヲ求ム可シ

控訴完結ノ後其記録ハ第二審ニ於テ爲シタル判決ノ認證アル謄本ト共ニ第一審裁判所ノ書記ニ之ヲ返還ス可シ

(解)第二審ノ判決ニ於ケル事實上ノ摘示ハ第一審ノ供述ト異ナラス又前審ノ判決文ニ掲ケタルモノト同一ナルニ於テハ更ニ之ヲ摘示スルコトヲ要セス只第一審ノ判決ニ掲ケタルモノト同一ナリトノ旨ヲ記スルヲ以テ足レリトス然レモ苟クモ其異ナル所ノ陳述アルトハ之ヲ更ニ摘示セサル可ガラス若シ之ヲ摘示セサルニ於テハ適法ノ判決文トナルナリ四百三十一條ハ別ニ説明ヲ要スルノ點ナシ

第二章 上告

上告トハ控訴審ノ判決ニ對シ其法律上ノ瑕疵ノ當ヲ得タルヤ否ヤノ點ニ限リ更ニ上級審ノ判斷ヲ求ムル所トス

第四百三十二條 上告ハ地方裁判所及ヒ扣訴院ノ第二審ニ於テ爲シタル終局判決ニ對シテ之ヲ爲ス

第四百三十三條 終局判決前ニ爲シタル裁判ハ亦上告裁判所ノ判斷ヲ受ク但此法律ニ於テ不服ヲ申立ツルコトヲ得スト明記シタルトキ又ハ抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ルトキハ此限ニ在ラス

(解) 第四百三十二條ハ控訴審ノ訴訟手續ニ於ケル規定ト等シク裁判所構成法ノ規定ニ基キ上告ヲ爲シ得ヘキ判決ヲ明示シタル規ニナリ則チ地方裁判所ノ第二審ニ於テ爲シタル終局判決ニ對シテハ控訴院ニ又控訴院ノ第二審ニ於テ爲シタル終局判決ニ對シテハ大審院ニ上告ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

上告ハ形式上ヨリ云ヘハ第二審ノ終局判決ニ對シテノミ之ヲ許シ其終局判決ヲ違備スル爲メ終局判決前ニ爲シタル豫審ノ裁判則チ中間判決決定及ヒ命令ニ對シテハ獨立シテ上告ヲ爲スコトヲ許サス然レモ實體上ハ終局判決ニ對スル上告ト共ニ不服ヲ申立テ上告審ノ判斷ヲ受クルヲ得ルナリ

第四百三十四條 上告ハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得



第四百三十五條 法則ヲ適用セス又ハ不當ニ適用シタルトキハ法律ニ違背シタルモノトス

(解) 四百三十四條ハ上告ノ理由ニ付テノ一般ノ規定四百三十五條ハ所謂法律ニ違背シタル裁判ナルコトノ定義ヲ示シタルナリ

上告ハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限り爲スコトヲ得是レ上告ノ性質上因テ然ルモノニシテ事實問題ハ上告裁判所ノ判斷ヲ受クルコトヲ得ス事實上ノ問題ハ控訴裁判所ヲ以テ終審トシ其裁判ニ依テ確定スルモノトス故ニ上告裁判所ハ控訴裁判カ其裁判ノ憑據トシタル事實ヲ標準ト爲スチ原則トスルナリ

四百三十五條ハ四百三十四條ニ規定セシ法律違背ノ定義ヲ示シタル者ニシテ法律ノ違背トハ法則ヲ適用セス又ハ法則ヲ不當ニ適用シタルトキナリトセリ然シテ所謂法則ヲ適用セス又ハ不當ニ適用シトハ左ノ如キ事柄ヲ云フ

甲、法則ノ存在スルコト若クハ存在セサルコトヲ誤テ確定シタルコト  
乙、法律ノ規定ニ違背シテ事實ヲ確定シタルコト  
丙、確定シタル事實ニ付キ法則ノ適用ヲ誤リタルコト

是レナリ

第四百三十六條 裁判ハ左ノ場合ニ於テハ常ニ法律ニ違背シタルモノトス

第一 規定ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セザリシトキ

第二 法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタル判事カ裁判ニ

參與シタルトキ但忌避ノ申請又ハ上訴ヲ以テ除斥ノ理由ヲ主

張シタルモ其效ナカリシトキハ此限ニ在ラス

第三 判事カ忌避セラレ且忌避ノ申請ヲ理由アリト認メタルニ

拘ハラヌ裁判ニ參與シタルトキ

第四 裁判所カ管轄又ハ管轄違ヲ不當ニ認メタルトキ

第五 訴訟手續ニ於テ原告若クハ被告カ法律ノ規定ニ從ヒ代理

セラレタリシトキ

第六 訴訟手續ノ公行ニ付テノ規定ニ違背シタル口頭辯論ニ基

キ裁判ヲ爲シタルトキ

第七 裁判ニ理由ヲ付セサルトキ

(解) 本條規定以外ノ事項ニテモ苟モ法律ニ背キテ判決ヲ爲シ又ハ不當ニ訴訟ヲ取扱フトキハ上告ノ理由トナ



ル可キモノナルモ本條規定ノ事項ハ其違背ヲ裁判ニ關係ナシ及ホスト百トナ間ハ通常ニ法律ニ違背シタルモノトシテ絶對的ニ上告ノ理由タル可キモノト爲スナリ

第四百三十七條 上告期間ハ一个月トス此期間ハ不變期間ニシテ判決ノ送達ヲ以テ始マル

判決ノ送達前ニ提起シタル上告ハ無効トス

第四百三十八條 上告ノ提起ハ上告狀ヲ上告裁判所ニ差出シテ之ヲ爲ス

此上告狀ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 上告セララルル判決ノ表示

第二 此判決ニ對シ上告ヲ爲ス旨ノ陳述

此他上告狀ハ準備書面ニ關スル一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ作り特ニ判決ニ對シ如何ナル程度ニ於テ不服ナルヤ及ヒ判決ニ付キ如何ナ

ル程度ニ於テ破毀ヲ爲ス可キヤノ申立ヲ掲ケ且法則ヲ適用セス若クハ不當ニ適用シタルコトヲ上告ノ理由トスルトキ其法則ノ表示又ハ訴訟手續ニ付テノ規定ニ違背シタルコトヲ上告ノ理由トスルトキハ其欠缺ヲ明カニスル事實ノ表示又ハ法律ニ違背シテ事實ヲ確定シ若クハ遺脱シ若クハ提出シタリト看做シタルコトヲ上告ノ理由トスルトキハ其事實ノ表示ヲ掲ク可シ

(解) 四百三十七條ハ上告期間ニ關スル規定ナリ

四百三十八條ハ上告提起ノ方法ヲ定メタルモノナリ則チ上告ヲ爲サントセハ上告狀ヲ相當ノ裁判所ニ提出シテ之ヲ爲シ然シテ其上告狀ニハ判決ノ表示及ヒ此ノ判決ハ違法ナルヲ以テ上告ヲ爲ス者ノ陳述ヲ掲ケサル可カラズ其他ハ凡テ準備書面ニ於テ要スル方式ニ從テ之ヲ作り特ニ一定ノ申立トシテ全部ノ破毀ヲ求ムルヤ又ハ一部破毀ヲ求ムルヤヲ掲ケサル可カラザルナリ然リ而シテ法則ヲ適用セス若クハ不當ニ適用シタルコトヲ上告ノ理由トスルトキハ其法則ノ表示ヲ爲ス可シ又訴訟手續ニ付テノ規定ニ違背シタルコトヲ上告ノ理由トスルトキハ其欠缺ヲ明カニスル事實ノ表示ヲ掲ク可シ

第四百三十九條 上告裁判所ハ上告人ヲ呼出シ其陳述ヲ聽キ上告ヲ許ス可カラサルモノナルトキ又ハ法律上ノ方式及ヒ期間ニ於テ起



ササルトキ又ハ第四百三十四條ノ規定ニ依ラサルトキハ判決ヲ以テ之ヲ棄却ス可シ

上告人カ呼出ノ期日ニ出頭セサルトキハ上告ヲ取下ケタルモノト看做ス但出頭セサリシコトヲ期日ヨリ七日ノ期間内ニ十分ナル理由ヲ以テ辯解シタルトキハ更ニ期日ヲ改ム

(解) 上告裁判所ニ於テハ事實ヲ審理スルコトナク事實ハ確實ノモノト看做シ只其法律ニ背キタルヤ又ハ不當ニ適用シタルヤ否ヤヲ審査スルモノナルヲ以テ上告狀差出ノ初ニ於テ之ヲ被上告人ニ送達セサル前日先ツ期日ヲ定メテ上告人ノミヲ呼出シ其陳述ノミヲ聽キ上告ヲ受理ス可キモノナルヤ否ヤヲ決スルナリ然リ而シテ上告ヲ許ス可カラサルモノナルトキハ判決ヲ以テ其上告ヲ棄却ス可キモノトス

第四百四十條 上告狀ノ送達ト口頭辯論ノ期日トノ間ニ存スルコトヲ要スル時間ニ付テハ第九十四條ノ規定ヲ適用シ答辯書ヲ差出ス可キ時間ノ催告ニ付テハ第九十九條ノ規定ヲ適用ス  
前項ノ場合ニ於テモ亦第二百三條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第四百四十一條 答辯書ハ準備書面ニ關スル一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ作り且一定ノ申立ヲ掲ク可シ

第四百四十二條 被上告人ハ附帶上告ヲ爲スコトヲ得  
此附帶上告ニ付テハ附帶控訴ノ規定ヲ準用ス

第四百四十三條 答辯書ニ附帶上告ヲ爲ス旨ノ陳述ヲ掲ケタルトキハ之ヲ上告人ニ送達ス可シ

第四百四十四條 右ノ外上告ノ訴訟手續ニハ地方裁判所ノ第一審ノ訴訟手續ノ規定ヲ準用ス但本章ノ規定ニ依リ差異ノ生スルモノハ此限ニ在ラス

第四百四十五條 上告裁判所ハ當事者ノ爲シタル申立ノミニ付キ調査ヲ爲ス

第四百四十六條 上告裁判所ハ裁判ヲ爲スニ付キ控訴裁判所カ其裁



判ノ憑據トシタル事實ヲ標準トス此事實ノ外ハ第四百三十八條第三項ニ掲ケタル事實ニ限り之ヲ斟酌スルコトヲ得

證據調ヲ必要トスルトキハ上告裁判所ハ之ヲ命ス可シ

(解) 四百四十條四百四十一條ハ控訴ニ關スル四百三條四百四條ノ規定ト全一ナルヲ以テ別ニ説明ヲ要セス

四百四十二條四百四十三條ハ訴帶上告ニ關スル控訴ニシテ是レ亦説明ヲ要スルノ點ナシ

四百四十四條モ控訴ニ關スル四百八條ノ控訴ト同一ニシテ既ニ述ヘタル如ク第一審ノ訴訟手續ハ普ク各審級ノ訴訟手續ノ標準ト爲ス可キ標準ナルカ故上告ノ訴訟手續ニ付テモ性質上適用シ得ヘキ限リハ相當ニ之ヲ適用ス可キモノトセリ

四百四十五條四百四十六條ノ二條ハ上告裁判所ニ於ケル調査方法ヲ定メタルナリ上告裁判所ハ當事者ノ申立ノミニ付キ調査ヲ爲ス可キモノニシテ其他ニ至リテハ調査ヲ爲スコトヲ得サルナリ

上告裁判所ニ於テ裁判ヲ爲スニハ如何ナル標準ヲ以テ之ヲ爲スカト云フニ控訴裁判所カ裁判ノ憑據トナシタル事實ヲ標準トス是レ事實ノ認定ハ訴訟審ニ委シタルモノナルカ故ナリ然レモ第四百廿八條ノ三項ノ場合ニ係ル事項ニ限リ斟酌ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

第四百四十七條 上告ヲ理由アリトスルトキハ不服ヲ申立テラレタル判決ヲ破毀ス可シ

其違背シタル部分ニ限り訴訟手續ヲモ亦破毀ス可シ

第四百四十八條 判決ヲ破毀スル場合ニ於テハ第四百五十一條ノ規定ヲ除ク外更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メ事件ヲ控訴裁判所ニ差戻シ又ハ之ヲ他ノ同等ナル裁判所ニ移送ス可シ

事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ハ新口頭辯論ニ基キ裁判ヲ爲スコトヲ要ス

第四百四十九條 當事者ハ破毀セラレタル判決ノ以前ニ於ケル口頭辯論ニ當リ提出スルコトヲ得ヘカリシ事項ヲ新口頭辯論ニ際シ提出スル權利アリ

第四百五十條 事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ハ上告裁判所ノ爲シタル法律ニ係ル判斷ニシテ判決ヲ破毀スル基本ト爲シタルモノヲ以テ新ナル辯論及ヒ裁判ノ基本ト爲ス義務アリ



(解) 上告裁判所ニ於テ破毀ヲ爲ス場合ハ事實ノ未タ確定セサルトキハ之ヲ他ノ裁判所ニ移シテ更ニ事實ノ審理ヲ爲サシムルノ要アルトキニ於テ之ヲ破毀シテ以テ他ノ裁判所ニ移スモノナリ上告ヲ受理ク名シタルトキ更ニ口頭辯論ヲ開キ其上告ヲ理由アリトスルトキハ原判決ヲ破毀スルモノナリ若シ又本案ヲ破毀セス只訴訟手續ニ關スル場合ナルトキハ其部分ニ限り訴訟手續ヲ破毀ス可キモノトス然シテ判決ヲ破毀スル場合ニ於テハ上告審カ直チニ裁判ヲ爲ス場合ヲ除ク外更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メニ原控訴審ニ之ヲ否戻スカ又ハ同等ナル他ノ控訴審ニ移スモノナリ

上告審ニ於テ原判決ヲ破毀セラレタルトキハ原判決ハ消滅ニ歸シ當テ者ハ第二審ノ訴訟中ニ際ルチ以テ新ノ證據ヲ提出シテ辯論ヲ爲スコトヲ得ルナリ

四百五十條ノ規定ハ裁判所據成法ノ規定ヲ敗壞シ且大審院ノ裁判ニ適用スルノミナラス控訴院ニ於ケル上告審ノ裁判ニモ適用セシム可キ爲メ本法ニモ之ヲ設クルヲ必要トセシモノナリ而シテ此法律ノ主限トニル所ハ控訴裁判所ハ判決ヲ破毀スル基本ト爲シタル上告裁判所ノ法律ニ係ル判斷ニ盡束セラル、チ原則トスルニ在ルナリ

第四百五十一條 上告裁判所ハ左ノ場合ニ於テ事件ニ付キ裁判ヲ爲ス可シ

第一 確定シタル事實ニ法律ヲ適用スルニ當リ法律ニ違背シタル爲ニ判決ヲ破毀シ且其事件カ裁判ヲ爲スニ熟スルトキ

第二 無訴權ノ爲メ又ハ裁判所ノ管轄ナル爲ニ判決ヲ破毀フルトキ

第四百五十二條 上告ヲ理由ナシトスルトキハ之ヲ棄却ス可シ

第四百五十三條 裁判カ其理由ニ於テ法律ニ違背シタルトキト雖モ他ノ理由ニ因リ裁判ノ正當ナルトキハ上告ヲ棄却ス可シ

第四百五十四條 左ノ諸件ニ關スル控訴ノ規定ハ上告ニ之ヲ準用ス

第一 闕席判決ニ對スル不服ノ申立

第二 控訴ノ取下

第三 當事者ノ雙方ヨリ控訴ヲ起シタル場合ニ於ケル訴訟手續及ヒ控訴ト故障トヲ同時ニ爲シタルトキノ訴訟手續

第四 口頭辯論ノ延期

第五 口頭辯論ノ際ニ於ケル當事者ノ演述



第六 妨訴ノ抗辯ニ付テノ辯論

第七 控訴ヲ起シタル者ノ不利益ト爲ル裁判ヲ爲ス可カラサル

コト

第八 記録ノ送付並ニ返還

(解) 四百五十一條ハ上告審ニ於テ直ニ裁判ヲ爲ス場合ヲ定メタルモノナリ本條ノ場合ニ於テハ之ヲ他ノ裁判所ニ移シテ更ニ審理セシムルノ必要ナリ上告裁判所ニ於テ直ニ判決シ得ルヲ以テ之ヲ移送スルコトナキナ

上告ヲ理由ナシトスルトキハ之ヲ棄却スルニ本則トスルモ四百五十三條ハ例外法ヲ設ケ其理由ニ於テ法律ニ違背シタルトキト雖モ他ノ理由ニテ裁判正當ナルトキハ棄却ス可キモノトセリ是レ之ヲ爲ストキハ反テ無益ノ手數ヲ煩ハスヲ以テ其勞ヲ省キ速ニ事件ノ結局ヲ告ケンコトヲ慮リタルナリ

四百五十四條ハ既ニ一審二審ノ手續ノ條下ニ於テ述ヘ來リシ事情ナルヲ以テ敢テ説明ヲ加ヘス

第三章 控訴

本章ハ抗告ニ關スル規定ニシテ抗告ハ判決ニ非ラサル裁判(則チ決定命令)ニ對スル上訴ノ方法ナリトス

第四百五十五條 抗告ハ訴訟手續ニ關スル申請ヲ口頭辯論ヲ經スシ

ヲ却下シタル裁判ニ對シ其他法律ニ於テ特ニ掲ケタル場合ニ限り

之ヲ爲スコトヲ得

第四百五十六條 抗告ニ付テハ直近ノ上級裁判所其裁判ヲ爲ス

抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ其裁判ニ因リ新ナル獨立ノ抗告理由

ヲ生シタルトキニ非サレハ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

(解) 四百五十五條ハ抗告ヲ爲スコトヲ得ル場合ヲ定メタルモノニシテ全條ニ依レハ抗告ヲ爲シ得ル場合ハ

イ、訴訟手續ニ關スル申請ヲ口頭辯論ヲ經スシテ却下シタル裁判ニ對スル場合

ロ、此法律ニ於テ特ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキ明文ヲ掲ケサル場合はレナリ

四百五十六條一項ハ抗告ノ管轄裁判所ヲ規定シ第二項ハ抗告裁判所ノ裁判ニ對シテ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ル

ヤニ付テノ規定ニシテ本條ノ制限ヲ遵守スルニ於テハ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノトセリ其制限トハ何ゾト

曰フニ他ナシ新ナル獨立ノ抗告理由ノ生シタルトキ是レナリ

第四百五十七條 抗告ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判

所又ハ裁判長ノ屬スル裁判所ニ抗告狀ヲ差出シテ之ヲ爲ス

訴訟カ區裁判所ニ繫屬シ若クハ當テ繫屬シタルトキ又ハ證人鑑定

人ヨリ若クハ證書ヲ提出スル義務アリト宣言ヲ受ケタル第三者ヨ



リ 抗告ヲ爲ストキハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第四百五十八條 抗告ハ新ナル事實及ヒ證據方法ヲ以テ證據ト爲スコトヲ得

第四百五十九條 不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判長カ再度ノ考案若クハ新ナル提供ニ基キ抗告ヲ理由アリトスルトキハ不服ノ點ヲ更正シ又理由ナシトスルトキハ裁判所又ハ裁判長ハ意見ヲ付シテ三日ノ期間内ニ抗告ヲ抗告裁判所ニ送付シ又適當トスル場合ニ於テハ訴訟記録ヲモ送付ス可シ

(解) 四百五十七條及ヒ四百五十八條ハ共ニ抗告ヲ爲ス方法ニ關スル規定ナリ

抗告ハ抗告狀ヲ其不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判長ノ屬スル裁判所ニ差出シテ之ヲ爲スヲ通例トシ口頭ヲ以テ抗告スルヲ變例トス其變例ノ場合如何ト曰フニ

イ、訴訟カ區裁判所ニ繫屬シタル若クハ曾テ繫屬シタルトキ

ロ、證人鑑定人ヨリ抗告ヲ爲ストキ

ハ、證書ヲ提出スルノ義務アリト宣言ヲ受ケタル第三者ヨリ抗告ヲ爲ストキ

是レナリ

第四百五十九條ハ抗告ハ他ノ上訴ト異ナリ裁判ヲ下セシ裁判所又ハ裁判長ニ許言スルモノナルニヨリ其裁判所又ハ裁判長ニ於テ再考ノ上抗告ヲ理由アリトセハ自己ノ裁判ニ罷束セラルコトナク其不服ノ點ヲ更正シ理由ナシトスルトキハ意見ヲ付シテ抗告裁判所ニ送付ス可キモノトス

第四百六十條 抗告ハ此法律ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタル場合ニ限リ執行停止ノ效力ヲ有ス

然レトモ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判長ハ抗告ニ付テノ裁判アルマテ其執行ノ中止ヲ命スルコトヲ得  
抗告裁判所ハ抗告ニ付テノ裁判ヲ爲ス前ニ不服ヲ申立テラレタル裁判ノ執行中止ヲ命スルコトヲ得

第四百六十一條 抗告ハ急迫ナル場合ニ限リ直チニ抗告裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得

抗告裁判所ハ裁判ヲ爲ス前ニ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタ



ル裁判所又ハ裁判長ノ意見及ヒ記録ヲ要求スルコトヲ得  
抗告裁判所ハ事件ヲ急迫ナラスト認ムルトキハ不服ヲ申立テラレ  
タル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判長ニ其事件ヲ送付シ且其旨ヲ  
抗告人ニ通知ス可シ

(解) 検査ノ方法ニ依リ不服ノ申立アルモ執行停止セサルチ原則ト爲スモ或ル場合ニ於テハ特ニ執行ヲ中止ス  
ルチ必要ナリトスルトキハ法律ヲ以テ規定シタル場合ニ限り執行停止ノ効力ヲ生スルモノトス然レモ法律ニ規  
定シタル場合ニアラサルモ不服ヲ申立テラレタル裁判所又ハ裁判長ノ意見ニ依リ中止ノ必要アリト思料スルト  
キハ中止ヲ命スルヲ得ルモノトス

抗告ノ提出ハ不服ヲ申立ラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判長ノ屬スル裁判所ニ之ヲ爲スチ本則トスルモ  
四百六十一條ハ其例外ヲ規定シ急迫ナル場合ニ限り直ニ抗告裁判所ニ爲スコトヲ得ルモノトセリ求併抗告裁判  
所テ於テ其事件ヲ急迫ナラスト認ムルトキハ不服ヲ申立テラレル裁判ヲ爲シタル裁判所ハ裁判長ニ其事件ヲ  
送付ス可キモノトス

第四百六十二條 抗告裁判所ハ口頭辯論ヲ經スシテ裁判ヲ爲スヲ以  
テ通例トス

抗告裁察所ハ抗告人ト反對ノ利害關係ヲ有スル者ニ抗告ヲ通知シ

テ書面上ノ陳述ヲ爲サシムルコトヲ得

陳述ハ口頭ヲ以テ抗告ヲ爲シ得ヘキ場合ニ於テハ亦口頭ヲ以テ之  
ヲ爲スコトヲ得

抗告裁判所ハ口頭辯論ノ爲ニ當事者ヲ呼出スコトヲ得

第四百六十三條 抗告裁判所ハ抗告ヲ許ス可キヤ否ヤ又法律上ノ方  
式ニ從ヒ若クハ其期間ニ於テ提出シタルヤ否ヤヲ職權ヲ以テ調査  
ス可シ

若シ此要件ノ一ヲ缺クトキハ抗告ヲ不適法トシテ棄却ス可シ

第四百六十四條 抗告ヲ適法ニシテ且理由アリトスルトキハ抗告裁  
判所ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ廢棄シテ自ラ更ニ裁判ヲ爲シ  
又ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判長ニ委  
任シテ裁判ヲ爲サシムルコトヲ得



抗告裁判所ノ裁判ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所  
又ハ裁判長ニ之ヲ通知ス可シ

第四百六十五條 受命判事若クハ受託判事ノ裁判又ハ裁裁所書記ノ  
處分ノ變更ヲ求ムルニハ先ツ受訴裁所ノ裁判ヲ求ム可シ

抗告ハ受訴裁判所ノ裁判ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得  
第一項ノ規定ハ大審院ニモ亦之ヲ適用ス

第四百六十六條 即時抗告ノ場合ニ於テハ左ノ特別ノ規定ニ從フ  
抗告ハ七日ノ不變期間内ニ之ヲ爲スコシ其期間ハ裁判ノ送達ヨリ  
始マリ第二百五十三條第六百八十條及ヒ第七百六十九條第三項ノ  
場合ニ於テハ裁判ノ言渡ヨリ始マル抗告裁判所ニ抗告ヲ提出シタ  
ルトキハ急迫ナラスト認メタル場合ニ於シモ亦不變期間ヲ保存ス  
再審ヲ求ムル訴ニ付テノ要件存スルトキハ不變期間内滿了後ト雖

モ此訴ノ爲メ定メタル期間内ハ抗告ヲ爲スコトヲ得

前條第一項ノ場合ニ於テハ抗告提出ノ爲メ定メタル方法ニ依リ不  
變期間内ニ受訴裁判所ノ裁判ヲ求ムルコトヲ要ス受訴裁判所ハ其  
申請ヲ正當ト認メサルトキハ之ヲ抗告裁判所ニ送附ス可シ

〔解〕 抗告裁判所ニ於テハ職權ヲ以テ抗告ヲ許スコキモノナルヤ否ヤ又法律上ノ方式ニ依テ抗告ヲ爲シタルヤ  
又ハ期間内ニ抗告ノ提起アリタルヤ否ヤヲ調査シ若シ違法ノ抗告ナルニ於テハ之ヲ不適法トシテ棄却ス可キモ  
ノトス

抗告裁判所カ抗告ヲ調査シタル後適法ニシテ且ツ理由アリトスルトキハ其不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ廢棄シ  
テ自ら更ニ裁判ヲ爲スコシ又ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所ニ委任シテ裁判ヲ爲サシムルコト  
ヲ得ルナリ

受命判事若クハ受託判事ノ裁判所書記ノ處分ニ付キテ變更ヲ求メントスルトキハ直ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ス先  
ツ受訴裁判所ニ不服ノ理由ヲ申立テ、其裁判ヲ求メサル可カラズ然シテ尚ホ其受訴裁判所ノ裁判ニ對シテ不服  
ナルトキ初メテ抗告ヲ提起スルコトヲ得ルモノナリ此ノ規定タル第一審第二審ノ裁判所ノミナラス大審院ニモ  
亦之ヲ適用ス可キモノトス

即時抗告ヲ爲スコキ場合ハ法本中ニ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキ明文アル場合ニ限ル而シテ右即時抗告ヲ爲ス  
コトヲ得ヘキ明文アル事項ニ基キ生シタル抗告ハ第一ノ抗告ノ場合ナルト第二以上ノ抗告ノ場合ナルトナ間ハ  
ス四百六十六條ノ特別ナル規定ヲ適用ス可キモノトス



第四編 再編

本編ハ再審ヲ求ムル訴ニ付テノ訴訟手續ニシテ再審トハ確定ノ終局判決ヲ以テ終結シタル訴訟ヲ再ヒ審理スルヲ云フナリ

第四百六十七條 確定ノ終局判決ヲ以テ終結シタル訴訟ハ取消ノ訴

又ハ原狀回復ノ訴ニ因リ之ヲ再審スルコトヲ得

當事者ノ一方又ハ雙方ヨリ此兩訴ヲ起シタルトキハ原狀回復ノ訴

ニ付テノ辯論及ヒ裁判ハ取消ノ訴ニ付テノ裁判カ確定スルマテ之

ヲ中止ス可シ

(解) 本條ハ再審ハ如何ナル場合ニ於テ之ヲ求ムルヲ得ルヤノコトヲ定メタルモノナリ再審ヲ求ムルノ方法ニ  
个アリ曰ク取消ノ訴曰ク原狀回復ノ訴之レナリ而シテ此ノ方法ヲ以テ訴ヲ爲シ得可キ場合ハ之ヲ第四百六十八  
條及ヒ第四百六十九條ニ於テ規定シタリ

第二項ヲ設ケシ理由ハ取消ノ訴ヲ提起シタルノ理由正當ナリトシテ之ヲ完結スルトキハ最早原狀回復ノ訴訟ニ  
付テハ辯論及ヒ裁判ヲ爲スノ必要ナキニ至ルカ故ナリ

第四百六十八條 左ノ場合ニ於テハ取消ノ訴ニ因リ再審ヲ求ムルコ

トヲ得

第一 規定ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セサリシトキ

第二 法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタル判事カ裁判ニ

參與シタルトキ但忌避ノ申請又ハ上訴ヲ以テ除斥ノ理由ヲ主

張シタルモ其效ナカリシトキハ此限ニ在ラス

第三 判事カ忌避セラレ且忌避ノ申請カ理由アリト認メラレタ

ルニ拘ハラヌ裁判ニ參與シタリシトキ

第四 訴訟手續ニ於テ原告若クハ被告カ法律ノ規定ニ從ヒ代理

セラレサリシトキ

第一號及ヒ第三號ノ場合ニ於テ上訴若クハ故障ヲ以テ取消ヲ主張シ

待ヘカリシトキハ取消ノ訴ヲ許サス

(解) 本條ハ取消ノ訴ニ因リ再審ヲ求メ得ヘキ場合ヲ規定シタルモノナリ即チ已ニ確定シタル判決ニ對シ再審



ノ訴ヲ以テ之レカ取消ヲ主張セントスルニハ本條ニ規定シタル各項中其一ノ原由ヲ具フルヲ要スルコト、爲セ  
リ即チ此ノ各原由ハ裁判ヲ爲スニ至ル其基礎ニ不法アルヲ理由トシ其裁判ノ取消ヲ求メルモノナリ

第四百六十九條 左ノ場合ニ於テハ原狀回復ノ訴ニ因リ再審ヲ求ム  
ルコトヲ得

- 第一 刑法ニ掲ゲタル職務上ノ義務ニ違背シタル罪ヲ訴訟ニ關シ犯シタル判事カ裁判ニ參與シタリシトキ
- 第二 原告若クハ被告ノ法律上代理人若クハ訴訟代理人又ハ相手方若クハ其法律上代理人若クハ訴訟代理人カ罰セラル可キ行爲ヲ訴訟ニ關シテ爲シタリシトキ
- 第三 判決ノ憑據ト爲リタル證書カ偽造又ハ變造ナリシトキ
- 第四 證人若クハ鑑定人カ供述ニ因リ又ハ通事カ判決ノ憑據ト爲リタル通譯ニ因リ偽證ノ罪ヲ犯シタリシトキ

第五 判決ノ憑據ト爲リタル刑事上ノ判決カ他ノ確定ト爲リタル刑事上ノ判決ヲ以テ廢棄若クハ破毀セラレタリシトキ

第六 原告若クハ被告カ同一ノ事件ニ付テノ判決ニシテ前ニ確定ト爲リタルモノヲ發見シ其判決カ不服ヲ申立テラレタル判決ト抵觸スルトキ

第七 相手方若クハ第三者ノ所爲ニ依リ以前ニ提出スルコトヲ得サリシ證書ニシテ原告若クハ被告ノ利益ト爲ル可キ裁判ヲ爲スニ至ラシム可キモノヲ發見シタルトキ

第一號乃至第四號ノ場合ニ於テハ罰セラル可キ行爲ニ付テ判決カ確定ト爲リタルトキ又ハ證據欠缺外ナル理由ヲ以テ刑事訴訟手續ノ開始若クハ實行ヲ爲シ得サルトキニ限り再審ヲ求ムルコトヲ得

(解) 本條ハ原狀回復ノ訴ヲ起シ得ヘキ原由ヲ定メタルモノニシテ本條ニ列記シタル七項ノ原由存スル場合ニ



於テハ原狀回復ノ訴トシテ再審ヲ求ムルヲ得ルコト、爲セリ此原狀回復ノ訴ナルモノハ實體法ニ違背アリ則チ公平ヲ欠クカ爲メ確定判決ニ對シ互ニ調査ヲ求ムル方法ナリ而シテ本條ニ掲ケタル事項中第一號乃至第四號ハ罰セラル可キ行爲アリシコトヲ原狀回復ノ訴ノ理由トスル場合ニ係リ此等ノ事項ニ付テハ本條末項ノ規定ニ依リ制限アリ尤中第二號乃至第四號ノ場合ノ如キハ罰セラル可キ行爲カ不服ヲ申立テラレタル判決ニ影響ヲ及ホス可キコトヲ要ス可シ又第五號乃至第七號ハ新タル理由ヲ發見シタル場合ナリ

第四百七十條 原狀回復ノ訴ハ原告若クハ被告カ自己ノ過失ニ非スシテ前訴訟手續ニ於テ殊ニ故障又ハ控訴若クハ附帶控訴ニ依リ原狀回復ノ理由ヲ主張スルコト能ハサリシトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

第四百七十一條 不服ヲ申立テラレタル判決前ニ同一ノ裁判所又ハ下級ノ裁判所ニ於テ爲シタル裁判ニ關スル不服ノ理由ハ再審ヲ求ムル訴ト共ニ之ヲ主張スルコトヲ得但不服ヲ申立テラレタル判決カ其裁判ニ根據スルトキニ限ル

(解) 第四百七十條ハ原狀回復ノ訴ニ付キ制限ニ加ヘタルモノニシテ本條ニ所謂自己ノ過失ニアラスシテトハ原

告若クハ被告本人ノ過失ニ非サル場合ノミナ指シタルモノニ非ラス代理人ノ過失モ包含スルモノトス  
第四百七十一條ハ原狀回復ヲ求ムル訴訟ノ判決前ニ於テ同一ノ裁判所又ハ下級ノ裁判所ニ於テ爲シタル裁判ニ關スル不服ノ理由ハ或ル場合則チ原狀回復ヲ求ムル處ノ判決カ其裁判ニ根據スルトキニ限リテ再審ヲ求ムル訴ト共ニ之ヲ主張スル得ルコトヲ定メタリ

第四百七十二條 再審ヲ求ムル訴ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所ノ管轄ニ專屬ス  
同一ノ事件ニ付キ一分ハ下級ノ裁判所又ハ一分ハ上級ノ裁判所ニ於テ爲シタル數箇ノ判決ニ對スル訴ハ上級ノ裁判所ノ管轄ニ專屬ス  
督促手續ニ依リテ區裁判所ノ發シタル執行命令ニ對シ再審ヲ求ムル訴ハ其命令ヲ發シタル區裁判所ノ管轄ニ專屬ス然レトモ其請求カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ請求ニ付テノ訴訟ヲ管轄スル裁判所ニ專屬ス



(解) 本條ハ取消ノ訴及ヒ原狀回復ノ訴ニ付テノ管轄ヲ規定シ此管轄裁判所ハ條文ニ明定セシ如ク不服ヲ申立テラレタル裁判所上級ノ裁判所、支拂命令ヲ發シタル區裁判所、請求ニ付テノ訴訟ヲ管轄スル裁判所ノ別アルモ總テ其管轄ノ專屬トナセシヲ以テ當事者ノ合意ニ依リ他ノ裁判所ニ右訴ヲ提起スルコトヲ得サルハ勿論若シ管轄違ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトアレハ裁判所ハ職權ヲ以テ之ヲ却下ス可キモノトス

第四百七十三條 訴ノ提起及ヒ其後ノ訴訟手續ニハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケサル限リハ其訴ニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ爲ス可キ裁判所ノ訴訟手續ニ關スル規定ヲ準用ス

(解) 本條ハ訴訟手續ニ關スル法規ニシテ即チ訴ノ提起トハ出訴ヲ爲ス方法ノコトニテ其後ノ手續等凡テ訴訟ノ手續ハ再審ノ訴ニ於テハ殊ニ本條以下ニ於テ別段ノ規定ヲ爲シタルモノ之レアラサル以上ハ其裁判所ニ於テ行フヘキ普通ノ訴訟手續ニ從ヒ辯論ヲ命ジ及ヒ裁判ヲ爲ス可キモノトス

第四百七十四條 訴ハ一个月ノ不變期間内ニ之ヲ起ス可シ此期間ハ原告若クハ被告カ不服ノ理由ヲ知リタル日ヲ以テ始マル若シ原告若クハ被告カ判決ノ確定前ニ不服ノ理由ヲ知リタルトキハ判決ノ確定ヲ以テ始マル

判決確定ノ日ヨリ起算シテ五ヶ年滿了後ハ訴ヲ爲スコトヲ得ス前二項ノ規定ハ第四百六十八條第四號ノ場合ニ之ヲ適用セス此場合ニ於テ其訴ノ期間ハ原告若クハ被告又ハ其法律上代理人カ送達ニ因リ判決アリタルコトヲ知リタル日ヲ以テ始マル

第四百七十五條 訴狀ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 取消又ハ原狀回復ノ訴ヲ受クル判決ノ表示

第二 取消又ハ原狀回復ノ訴ヲ起ス旨ノ陳述

此他訴狀ハ準備書面ニ關スル一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ作り且不服ノ理由ノ揭示此理由及ヒ不變期間ノ遵守ヲ明白ナラシム事實ニ付テノ證據方法又如何ナル程度ニ於テ不服ヲ申立テラレタル判決ヲ廢棄若クハ破毀ス可キヤノ申立又本案ニ付キ如何ナル裁判ヲ爲ス可キヤノ申立ヲモ掲ク可シ



第四百七十六條 判然許ス可カラサル訴又ハ判然法律上ノ方式ニ適  
セス若クハ其期間ノ經過後ニ起シタル訴ハ裁判長ノ命令ヲ以テ之  
ヲ却下ス可シ

此却下ノ命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

(解) 第四百七十四條ハ再審ノ訴ヲ提起スル期間ヲ定メテ一ヶ月トセリ第二項ハ此期間ノ起算點ヲ定メ第三項ハ  
第二項ノミニテハ實際ナキニ至ルヲ以テナリ第四項ハ其例外ヲ規定シタルモノナリ  
第四百七十五條ハ抗訴ノ手續ニ於ケル第四百一條及ヒ上告ノ手續ニ於ケル四百三十八條ノ規定ト均シク再審ノ訴  
狀ヲ作成スル方法ヲ規定シタルモノナリ  
第四百七十六條再審ノ訴ヲ受ケタル裁判所ノ調査方法ヲ定メタルモノニシテ明瞭ニ其訴ヲ許ス可カラサルモノナ  
ルトキ又ハ明瞭ニ法律上ノ方式ニ適セサル訴ナルトキ又ハ其訴ヲ起シタル時ヨリ期間ヲ經過シタルモノナルコ  
ト明瞭ナルトキニ於テハ裁判長ノ命令ヲ以テ訴狀ヲ却下ス可キモノトス

第四百七十七條 原告ハ口頭辯論ノ期日ニ於テ相手方ノ陳述ノ有無  
ニ拘ハラズ再審ヲ求ムル理由及ヒ法律上ノ期間ノ遵守ヲ明白ニス  
ル事實ヲ説明ス可シ

第四百七十八條 許ス可カラサル訴又ハ法律上ノ方式ニ適セス若ク  
ハ其期間ノ經過後ニ起シタル訴ハ職權ヲ以テ判決ニ因リ不適法ト  
シテ之ヲ棄却ス可シ

第四百七十九條 本案ニ付テノ辯論及ヒ裁判ハ不服申立ノ理由ノ存  
スル部分ニ限り更ニ之ヲ爲ス可シ

裁判所ハ本案ニ付テノ辯論前ニ再審ヲ求ムル理由再ヒ許否ニ付キ  
辯論及ヒ裁判ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ本案ニ付テノ辯論ハ  
再審ヲ求ムル理由及ヒ許否ニ付テノ辯論ノ履行ト看做ス

第四百八十條 原告ノ不利益ト爲ル判決ノ變更ハ相手方カ再審ヲ求  
ムル訴ヲ起シテ變更ヲ申立テタルトキニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ  
得ス

第四百八十一條 訴カ上告裁判所ニ屬スルトキハ上告裁判所ハ再審



ヲ求ムル理由及ヒ其許否ニ付テノ辯論ノ完結カ係争事實ノ確定及  
ヒ斟酌ニ繫ルトキト雖モ其完結ヲ爲ス可シ

(解) 四百七十七條以下ハ口頭辯論ノ期日ヲ開キシ爾後ノ手續ヲ定メタルナリ  
再審ハ確定ノ判決ヲ動カサンコトヲ求ムルモノナルヲ以テ法律ニ於テ定メタル再審ノ理由ヲ有セサルカ又ハ法  
律上ノ方式ヲ備エザルトキ又ハ已ニ法定ノ期間ヲ經過シタルモノナルトキハ裁判所ハ之レニ對シ調査ヲ爲スノ  
責任ナク又之ヲ調査ス可キ制限ヲ有セサルモノト云ハサル可カラズ故ニ相手方ノ申立ニ關セス職權ヲ以テ不適  
法トシ以テ棄却ス可キモノトス

四百七十九條ハ再審ノ訴ニ付キ調査ヲ爲スベキ限度ヲ定メタルモノナリ  
四百八十條ハ控訴ノ手續ニ於ケル四百二十五條ノ規定ト同一ノ精神ニ出テタルモノナリ  
四百八十一條ハ再審ヲ求ムル訴訟ノ本案カ上告裁判所所屬スル場合ニ關スル規定ニシテ上告裁判所ハ元來法律  
上ノ問題ノミヲ裁判スルヲ通例トナスモ上告裁判所ニ向テ再審ヲ求ムル訴ノ提起アリタルトキハ果シテ再審ヲ  
求ムル理由アルヤ否ヤノ問題ニ付テハ其點ニ限り事實上ニ涉リ辯論ヲ遂ケ之ヲ完結セサルヲ得サルハ自然ノ勢  
ヒニシテ是特ニ本條ノ規定ヲ設ケタル所以ナリ

第四百八十二條 上訴ハ訴ニ付キ裁判ヲ爲シタル裁判所ノ判決ニ對  
シ一般ニ爲スコトヲ得ヘキトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

第四百八十三條 第三者カ原告及ヒ被告ノ共謀ニ因リ第三者ノ債權

ヲ詐害スル目的ヲ以テ判決ヲ爲サシメタリト主張シ其判決ニ對シ  
不服ヲ申立ツルトキハ原狀回復ノ訴ニ因レル再審ノ規定ヲ準用ス  
此場合ニ於テハ原告及ヒ被告ヲ共同被告ト爲ス

(解) 四百八十二條ハ再審ノ訴ニ付キ判決ヲ與ヘタル其判決ニ關スル上訴ノコトヲ定メタルナリ此上訴ハ普通  
上訴ノ場合ト同シク訴ニ付キ裁判ヲ爲シタル裁判所ノ判決ニ對シ一般ニ爲スコトヲ得可キトキニ限り之ヲ爲シ得  
ルモノトセリ  
四百八十三條ハ本來再審ノ性質ヲ有スルモノニアラス再審ハ確定判決ヲ受ケタル當事者ニ之ヲ求ム可キナ本則  
トス然ルニ第三者カ之ヲ求メ得可キ規定ヲ茲ニ設ケシモノハ民法ノ原則ニ基ツキ第三者ニ於テ原告及ヒ被告ガ  
訴訟ノ目的ヲ以テ或ル判決ヲ受ケタルトキハ之レヲ理由トシ其取消ヲ求ムル場合ヲ規定シタルモノナリ



### 第五編 証書訴訟及ヒ爲替訴訟

証書訴訟トハ証書ノミヲ以テ請求ヲ證明シ得ヘキ者ノ爲メニ簡易手續ニ依リ事件ヲ完結スルコトヲ得ル訴訟ナリトス爲替訴訟ト云フモ大體ハ証書訴訟中ニ包含スルモノニシテ其中ノ特別ノ名稱ニ過キス

第四百八十四條 一定ノ金額ノ支拂其他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ目的トスル請求ハ其請求ヲ起ス理由タル總テノ必要ナル事實ヲ証書ニ依リ證スルコトヲ得ヘキトキハ証書訴訟ヲ以テ之ヲ主張スルコトヲ得

(解) 本條ハ証書訴訟提起ノ條件ヲ定メタルナリ其條件ハ如何ト云フニ

イ、請求ノ目的カ金錢又ハ代替物ナルコト

ロ、其金額又ハ數量カ一定シタルコト

ハ、其請求ノ理由タル凡テノ事實ヲ証書ニ依リ證明シ得ルコト

是レナリ

第四百八十五條 訴訟ニハ証書訴訟トシテ訴フル旨ノ陳述ヲ掲ケ且証書ノ原本又ハ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

第四百八十六條 本案ノ辯論ハ妨辯ノ抗辯ニ基キ之ヲ拒ムコトヲ得ス然レトモ裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ此抗辯ニ付キ辯論ノ分離ヲ命スルコトヲ得

第四百八十七條 反訴ハ之ヲ爲スコトヲ得ス

証書ノ眞否及ヒ第四百八十四條ニ掲ケタル以外ノ事實ニ關シテハ証書ノミヲ以テ適法ノ證據方法ト爲スコトヲ得

書證ノ申出ハ証書ノ提出ヲ以テノミ之ヲ爲スコトヲ得

第四百八十八條 原告ハ口頭辯論ノ終結ニ至ルマテハ被告ノ承諾ヲ要セスシテ通常ノ手續ニテ訴訟ヲ繫屬セシメテ証書訴訟ヲ止ムルコトヲ得

第四百八十九條 訴ヲ以テ主張シタル請求カ理由ナシト見エ又ハ被告ノ抗辯ニ因リ理由ナシト見ユルトキハ原告ノ請求ヲ却下ス可シ



證書訴訟ヲ許ス可カラサルトキ殊ニ適法ノ證據方法ヲ以テ原告ノ義務タル證據ヲ申立テス又ハ完全ニ之ヲ舉ケサル場合ニ於テハ被告カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セス又ハ法律上ノ理由ナキ異議若クハ證書訴訟ニ於テ許ササル異議ノミヲ以テ訴ニ對シ抗辯シタルトキト雖モ此訴訟ニ於テハ其訴ヲ許ササルモノトシテ之ヲ却下ス可シ

(解) 四百八十五條ハ起訴ノ方法ヲ定メタルモノナリ

四百八十六條ハ證書訴訟ハ事實正確且ツ急達ヲ要スルヲ以テ妨訴ノ抗辯ニヨリ拒ムコトヲ得サルモノトス併若シ裁判所ニ於テ分離ノ必要アリト見認ムルトキハ職權又ハ申立ニ依リ妨訴抗辯ノミニ付キ先ツ判決ヲ爲シ得ルモノトセリ

四百八十七條モ亦證書證書ニ關スル特別ノ規定ニシテ證書訴訟ニ於テハ反訴ハ一切之ヲ爲シ得サルモノト定メタリ

四百八十八條ハ證書訴訟ナルモノハ請求ヲ證書訴訟ニ因リテノミ主張スルヲ得ス凡テノ事實モ證書ニ因リテノミ證明シ得ラルトキニ限ルモノナルヲ以テ若シ原告ニ於テ證書ノミヲ以テ十分其事實ヲ證明スルニ足ラスト思量スルトキニ於テハ之ヲ通常ノ訴訟手續ニ從フテ請求スルヲ得セシメタルナリ

四百八十九條モ亦證書訴訟ニ付キ格段ナル規定ヲ設ケタルモノニシテ第一項ハ訴ヲ以テ主張シタル請求ニシテ其理由ナシト見ユルトキハ被告抗辯ノ有無ニ拘ハラズ原告ノ請求ヲ訴ト共ニ絶對的ニ却下ス可キ規定第二項ハ

請求其モノハ通常ノ訴訟手續ニ依リ更ニ訴フルヲ得ヘキモ證書訴訟トシテハ之ヲ許サザルモノトシテ訴ヲ却下ス可キ規定ナリ

第四百九十條 證書訴訟ニ於テ適法ノ證據方法ヲ以テ被告ノ義務タル證據ヲ申出テス又ハ完全ニ之ヲ舉ケサルトキハ被告ノ異議ハ證書訴訟ニ於テ許ササルモノトシテ之ヲ却下ス可シ

第四百九十一條 主張シタル請求ヲ争ヒタル被告ニハ敗訴ノ言渡ヲ受ケタル總ノ場合ニ於テ其權利ノ行使ヲ留保ス可シ

判決ニ此留保ヲ掲ケサルトキハ第二百四十二條ノ規定ニ依リ判決ノ補充ヲ申立ツルコトヲ得

留保ヲ掲ケタル判決ハ上訴及ヒ強制執行ニ付テハ之ヲ終局判決ト看做ス

第四百九十二條 被告ニ權利ノ行使ヲ留保シタルトキハ訴訟ハ通常



ノ訴訟手續ニ於テ緊屬ス

此手續ニ於テ證書訴訟ヲ以テ主張シタル請求ノ理由ナカリシコトノ顯ハルルトキハ前判決ヲ廢棄シ原告ノ請求ヲ却下シ且其生セシメタル費用ノ全部又ハ一分ノ辨濟ヲ原告ニ言渡シ又前判決ニ基キ被告ヨリ支拂ヒ又ハ給付シタルモノノ辨濟ヲ申立ニ因リ原告ニ言渡ス可シ

右手續ニ於テ原告若クハ被告カ出頭セサルトキハ關席判決ニ關スル規定ヲ準用ス

〔辭〕前條ハ原告ニ敗訴ナシ言渡ス規定ナリシカ四百九十條及ヒ四百九十一條ハ被告ニ敗訴ナシ言渡ス規定ナリ四百九十條ニ於テハ被告カ異議ヲ主張スル場合ニ於テ證書訴訟ニ必要ナル法式ニ從ヒ其證據ヲ申立テス又ハ完全ニ之ヲ舉ケザルトキハ之ヲ證書訴訟ニ於テハ許サ、ルモノトシテ却下ス可キコト、定メタルナリ  
四百九十一條ハ被告ニ敗訴ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テ更ニ通常ノ訴訟手續ニヨリ進行ヲ爲シ得ヘキ權利ヲ留保ス可キコトニ關スル規定シテ即チ當事者ノ審訊ヲ制限スル結果ヨリ生スルモノナリ  
四百九十二條ハ證書訴訟ニ於テ被告カ本案ノ請求ヲ争ヒタル爲メニ對シ前條ノ規定ニ依リ權利ノ留保ヲ爲シ

タル場合ヲ規定シ此場合ニ於テハ其訴訟ハ通常ノ訴訟手續ニ於テ緊屬スルモノト定メタリ故ニ通常ノ訴訟手續ニ依リ被告ハ更ニ本案ニ對シ之レカ争ヒヲ爲スコトヲ得ルモノナリ之レ前條ノ規定ヨリシテ自然ニ生ズル處ノ結果ナリトス

第四百九十三條 第四百二十六條及ヒ第四百二十七條ノ規定ハ證書

訴訟ニ之ヲ適用セス

第四百九十四條 商法ニ規定シタル手形ニ因ル請求ヲ證書訴訟ヲ以テ主張スルトキハ爲替訴訟トシテ以下二條ニ掲クル特別ノ規定ヲ適用ス

第四百九十五條 爲替ノ訴ハ支拂地ノ裁判所又ハ被告カ其普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所ニ之ヲ起スコトヲ得

數人ノ爲替義務者カ共同ニテ訴ヲ受ク可キトキハ支拂地ノ裁判所又ハ被告ノ各人カ其普通裁判所ヲ有スル地ノ裁判所各之ヲ管轄ス  
第四百九十六條 訴狀ニハ爲替訴訟トシテ訴フル旨ヲ掲クルコトヲ



要ス

訴ノ許ス可キモノナルトキハ直チニ口頭辯論ノ期日ヲ定ム  
口頭辯論ノ期日ト訴狀送達トノ間ニハ少ナクトモ二十四時ノ時間  
ヲ存スルコトヲ要ス

〔解〕 四百九十三條ハ普通控訴ノ場合ニ於テ時機ニ後レテ防禦方法ヲ提出シタルトキ其證據方法ニ就キ留保ノ  
判決ヲナス四百二十六條四百二十七條ノ規定ハ證據訴訟ノ場合ニハ適用セサルコトヲ定メタルナリ  
四百九十四條以下ハ證據訴訟中特ニ爲替訴訟ニ關スル規定ヲナシタルモノナリ四百九十四條ハ別ニ説明ヲ有ス  
可キ點ナク四百九十五條ハ爲替訴訟ハ爲替ノ支拂ヲ約シタル地ノ裁判所又ハ被告普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判  
所ニ於テ原告ノ選擇ニヨリ何レニテモ其訴ヲ起スコトヲ得ルモノトシ又數人ノ義務者ニ對シ共同ニテ訴ヲ起ス  
ルハ其爲替支拂地ノ裁判所又ハ被告ノ各人カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所各管轄權ヲ有スルモノトナシタル  
如キ管轄ニ關スル便宜ヲ原告ニ與ヘタルナリ  
四百九十六條ハ爲替訴訟提起ノ方法及ヒ準備ノ期間ヲ定メタルモノニシテ要スルニ爲替訴訟ハ商業上特ニ簡易  
手續ヲ以テ迅速ニ事件ヲ完結スルノ必要アルヲ以テナリ

### 第六編 強制執行

強制執行トハ強制ノ方法ヲ以テ義務ヲ履行セシムルヲ云フ抑義務者ハ義務ノ旨趣ニ基キ其義務ヲ履行セハ即チ  
可ナリ苟モ義務者ニシテ故ナク義務ヲ履行セサルニ於テハ強制以テ執行ヲ命ズルハ必要タリ強制執行ハ實ニ此  
必要ニ應センカ爲メ制定セラレタルモノナリ

#### 第一章 總則

第四百九十七條 強制執行ハ確定ノ終局判決又ハ假執行ノ宣言ヲ付  
シタル終局判決ニ因リテ之ヲ爲ス

〔解〕 本條ハ強制執行ヲ爲スコトヲ得ル場合ヲ定ム

(一) 確定ノ終局判決ニ依リテ之ヲ爲ス確定トハ法律ニ定メタル上訴期間ヲ經過セシ状態ヲ云ヒ終局判決トハ訴訟  
ノ全部又ハ一部ヲ完結セシムルヲ云フ蓋シ終局判決トハ中間判決ニ對シテ云フ語ニシテ中間判決トハ訴訟ノ  
中途ニ生シタル事柄ニ付キ與フル處ノ裁判タリ而シテ強制執行ハ確定ノ終局判決ニアラサレハ爲スコトヲ得  
ス

(二) 假執行ノ宣言ヲ付シタル終局判決ニ因リテ之ヲ爲ス假執行トハ本執行即チ確定ノ終局判決ニ對シテ云フ語ニ  
シテ未確定ノ終局判決ニ因ル強制執行ヲ稱シテ假執行ト云フ

元來此判決ハ未確定ナルヲ以テ之ニ對シテハ被告ハ故障又ハ上訴ヲ提起シ得ヘシ尚ホ其結果ニヨリ更ニ判決  
ヲ以テ假執行ヲ許シタル本案ノ判決又ハ假執行ノ宣言ノミヲ廢棄破毀變更スルコトヲ得ルハ勿論ナリ



第四百九十八條 判決ハ適法ナル故障ノ申立又ハ適法ナル上訴ノ提起ニ付キ定メタル期間ノ滿了前ニモ確定セサルモノトス  
判決ノ確定ハ故障若クハ上訴ヲ其期間内ニ申立若クハ提起スルニ因リ之ヲ遮斷ス

〔解〕 本案ハ判決ノ確定期ヲ定メタル規定ナリ即チ判決ノ確定トハ故障又ハ上訴ニ付キ定メタル期間滿了後ノ状態ヲ云フ其期間滿了前ニハ決シテ確定セス然レトモ一定ノ期間内ニ適法ナル故障又ハ上訴ノ提起アリタキハ確定ノ遮斷トナリテ判決ハ確定ノ効ヲ奏セサルモノトス

第四百九十九條 原告若クハ被告カ判決ノ確定ニ付キ證明書ヲ求ムルトキハ第一審裁判所ノ書記ハ記録ニ基キ之ヲ付與ス  
訴訟カ猶ホ上級審ニ於テ繫屬中ナルトキハ上級裁判所ノ書記ハ判決ノ確定ト爲リタル部分ノミニ付キ證明書ヲ付與ス  
判決ニ對シ上得ノ提起ナキ場合ニ非サレハ證明書ヲ付與スルコトヲ得サルトキニ限リ上訴ヲ管轄スル裁判所ノ書記カ不變期間内ニ

上訴ニ提起ナキコトヲ認メタル證明書ヲ以テ足ル

〔解〕 本條ハ判決確定ノ證明書ニ關スル規定ナリ

判決確定ノ證明書ハ裁判所書記訴訟記録ニ基キ附與スヘキモノナレハ原告被告ニ論ナクモ證明書ヲ求メントセハ須ラク訴訟記録ノ現存スル審級ニ求メサルヘカラス而シテ書類ハ第一審ニ在ルハ普通ナルモ上級審ニ繫屬セルコトナキヲ保シ難シ此ノ場合ニハ判決ノ確定トナリタル部分ニ付キ上級審ニ於テ付與スヘキモノナリ  
次に判決ニ對シ上訴ノ提起ナキ場合ニアラサレハ證明書ヲ付與スルコトヲ得サルトキニ限リ上訴ヲ管轄スル裁判所ノ書記カ不變期間内ニ上訴ノ提起ナキコトヲ認メタル證明書ヲ以テ第一審ノ書記ヨリ付與スヘキ證明書ニ代フルモ敢テ差支ナカルヘシ

第五百條 原狀回復又ハ再審ヲ求ムル申立アルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ保證ヲ立テシメ又ハ保證ヲ立テシメスシテ強制執行ヲ一時停止ス可キコトヲ命シ又ハ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ爲ス可キコトヲ命シ及ヒ保證ヲ立テシメテ其爲シタル強制處分ヲ取消ス可キヲ命スルコトヲ得  
保證ヲ立テシメスシテ爲ス強制執行ノ停止ハ其執行ニ因リ償フコ



ト能ハサル損害ヲ生ス可キコトヲ疏明スルトキニ限り之ヲ許ス  
右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得其裁判ニ對シテハ  
不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

(解) 本條ハ強制執行ノ停止又ハ取消ヲナスニハ保證ヲ立テシムベキトナ規定セリ

元來判決ハ一旦確定セハ強制執行ヲナスコトヲ得然レトモ原狀回復及ヒ再審ノ原因アル判決ハ上訴ヲ以テ打破  
スルヲ得ルカ故ニ一般ノ確定判決ト大ニ趣ヲ異ニセリ今右ニ説明セン

(一) 強制執行ノ停止ハ敗訴者ノ申立ニヨリ保證ヲ立テシメ敗訴者ヲシテ其執行ニ代フベキモノトス又保證ヲ立テ  
シメスシテ爲ス停止ハ其執行ノタメ償フヲ得サル損害ヲ生スベキ場合ニ限り之ヲ爲ス可キモノトス

(二) 強制執行ノ實施ハ勝訴者ニ關スルコトシテ之レ即チ敗訴者ニ保證ヲ立テシメ強制執行保證ノ停止ヲ命スルト  
同一理ニ出テ、此場合モ亦損害ヲ生スベキ時ニ限ルモノトナ

(三) 強制執行取消ノ申立ハ取消ニ付利益ヲ受クル敗訴者ナリ故ニ保證ヲ立テシメ強制執行ヲ取消サシムルハ是亦  
取消ノ爲メ勝訴者ニ損害ヲ受ケサラシメンカ爲ニ外ナラス

次ハ未項ニ於テ右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ爲スヲ得其裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルヲ得ズトノ規定ハ  
裁判官ニ於テ必要ナシト認メタルニ依ル又實際ニ於テモ不都合ヲ生スルヲナキノミナラス若シ是レヲ許ストセ  
ハ時日ヲ費スノ不都合アレハナリ

第五百一條 左ノ判決ニ付テハ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲ス可シ

第一 認諾ニ基キ敗訴ヲ言渡ス判決

第二 證書訴訟又ハ爲替訴訟ニ於テ言渡ス判決

第三 同一審ニ於テ同一ノ原告若クハ被告ニ對シ本案ニ付キ言  
渡シタル第二又ハ其後ノ欠席判決

第四 假差押又ハ假處分ヲ取消ス判決

第五 養料ヲ支拂フ義務ヲ言渡ス判決但訴ノ提起後ノ時間及ヒ

其提起前最後ノ三個月間ノ爲ニ支拂フ可キモノナルトキニ限  
ル

本條ハ當事者ノ申立ナクモ裁判官ノ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲナスベキ場合ヲ定メタルモノナリ以下各項ニ付  
キ説明セン

(一) 認諾ニ基キ敗訴ヲ言渡ス判決ハ被告ハ義務ヲ認メテ爭ハサルモノナレハ正確ノ者タリ從テ判決ノ確  
經テ始メテ執行ヲ爲サシムルトセハ及テ不便ナルニ依ル

(二) 證書訴訟又ハ爲替訴訟ニ於テ言渡ス判決此兩種ノ訴訟ニ於テ言渡ス判決ニ付キテハ其爭點明白ニシテ正  
確ノ訴訟ト推測サレ得ベキヲ以テナリ



(三) 同一審ニ於テ同一ノ原告若クハ被告ニ對シ本案ニ付言渡シタル第二又ハ其後ノ欠席判決數度ノ欠席者ニ對シ數度ノ判決ヲ言渡スハ訴訟ヲ遲延スルノミニテ何等ノ利益ナク及テ公益ニ害アリ故ニ此場合ニ於テハ欠席シテ敗訴シタル者ハ曲者ナリトノ推測ヨリ判決ニ假執行ノ宣言ヲ付スベキモノトセリ

(四) 假差押又ハ假處分ノ裁判ハ假ノ便宜處分法ニシテ確定ノモノニアラス故ニ之レカ取消ヲナスノ裁判アリタルトキハ速ニ其裁判ヲ執行シテ取消ヲナスノ必要ヨリ出テタルモノナリ

(五) 養料ヲ支拂フベキ義務ヲ言渡ス判決ハ親子等縁故關係ヨリ他ノ一身ヲ扶持スヘキ爲メ支給スベキモノニテ此義務ヲ言渡ス判決ニ對シテ假執行ヲ許ス所以ノモノハ一日モ猶豫スベカラサル必要ニ出ツ但訴ノ提起後ノ時間ニ支拂フヘキモノ又ハ訴ノ提起前最後ノ三ヶ月間ニ支拂フモノニ限ル所以ノモノハ是レヨリ以前ニ支拂フベキモノニ關シテハ猶豫スルニ足ルベクレハナリ

### 第五百二條

左ノ場合ニ於テハ申立ニ因リ假執行ノ宣言ヲ爲ス可シ

第一 總テノ住家其他ノ建物又ハ其或ル部分ノ受取、明渡、使用、占據若クハ修繕ニ關シ又ハ賃借人ノ家具若クハ所持品ヲ賃借人ノ差押ヘタルコトニ關シ賃借人ト賃借人トノ間ニ起リタル訴訟

### 第二 占有ノミニ係ル訴訟

第三 雇主ト雇人トノ間ニ雇期限一個年以下ノ契約ニ關リ起リタル訴訟

第四 左ニ掲ケタル事項ニ付キ旅人ト旅店若クハ飲食店ノ主人トノ間ニ又ハ旅人ト水陸運送人トノ間ニ起リタル訴訟  
イ 賄料又ハ宿料又ハ旅人ノ運送料又ハ之ニ伴フ手荷物ノ運送料

ロ 旅店若クハ飲食店ノ主人又ハ運送人ニ旅人ヨリ保護ノ爲メ預ケタル手荷物、金錢又ハ有價物

第五 此他財産權上ノ請求ニ關シ金額又ハ價額ニ於テ貳拾圓ヲ超過セサル訴訟但其物ノ價額ニ付テハ第三條乃至第六條ノ規定ヲ適用ス

(解) 本條ハ申立ニ因リ假執行ノ宣言ヲ爲スベキ場合ヲ定メタルモノナリ



(一) 總テノ住家其他ノ建物又ハ或ル部分ノ(二)受取(三)明渡(四)使用(五)修繕等ニ關シ又ハ(一)家具若クハ(二)所持品ヲ差押タルニ關シ賃借人トノ間ニ起リタル訴訟ハ急速ノ處置ヲ施スニアラサレハ非常ノ困難ヲ來スニアリ且其關係明白ニシテ複雑セサルノミナラス其價額モ亦僅少ナレバ是等ノ訴訟ニ付テハ申立ニ依リ假執行ノ宣言ヲ附シベキ者トセリ

(二) 占有ノミニ係ル訴訟此場合ハ單純ナル占有ニ係リ所有權ニ關係ナシ故ニ申立ニヨリ假執行ノ宣言ヲ付スベキモノト定メタリ

(三) 雇主ト雇人トノ間ニ其期限一ケ年以下ノ契約ヨリ生スル訴訟ハ事重大ニアラサルノミナラス若シ雇人ハ其訴訟ノ爲メ長時間ヲ要ストセバ困難多クハ此訴訟ニ付テモ假執行ヲ付セリ

(四) 旅人ト旅店若クハ飲食店ノ主人水陸運送人トノ間ニ起リタル訴訟ハ左ノ二ケノ場合ニ限定シタリ

(イ) 賄料宿料又ハ旅人ノ運送料又ハ之レニ伴フ手荷物ノ運送料

此場合ハ營業者ヲ保護ノ意ニ出ツ營業者ハ日常ノ収入ヲ以テ衣食ヲナスベキモノナルニ其収入ヲ得ルニ能ハストセハ困難少ナカラサレハ假執行ヲ命ジテ速ニ其落着キ欲シタルモノナリ

(ロ) 旅店若クハ飲食店ノ主人又ハ運送人ニ旅人ヨリ預リタル手荷物金錢又ハ有價物ニ付テハ前ト反對ニ旅人ヲ保護スル爲メニ設ケタル規定ナリ

(五) 此他財産上ノ請求ニ關シ金額又ハ價格ニ於テ二十圓ヲ超過セサル訴訟ニ付テハ申立ニ依リ假執行ノ宣言ヲ付ストセリ但額價ニ付テハ三條乃至六條ノ規定ニヨルモノト云フヲ待タス

第五百三條 前二條ニ掲ケタル外左ノ場合ニ於テハ財産權上ノ請求

ニ關スル判決ニ限り債權者ノ申立ニ因リ假執行ノ宣言ヲ爲ス可シ

第一 債權者カ執行ノ前ニ保證ヲ立テント申立ツルトキ

第二 債權者カ判決ノ確定ト爲ルマテ執行ヲ中止セハ償ヒ難キ損害又ハ計リ難キ損害ヲ受ク可キコトヲ説明スルトキ

(解) 前二條ハ法律ニヨリ一ハ當然假執行ノ宣言ヲ付シ一ハ申立ニヨリ裁判官ノ職權ヲ以テ付ス場合ヲ定メタルモノナリ而シテ他尚ホ法律ハ財産權上ノ請求ニ付キ假執行ノ宣言ヲ付スベキトナ規定セリ而シテ左ノ場合トス

(一) 債權者ハ執行ノ前ニ保證ヲ立テント申立ツルトキ假執行ハ一ノ變例タリ故ニ濫リニ許スベキモノニアラス然レモ他日債權者ニ於テ其損害ヲ補償スルノ途アレハ之レヲ許ストスルモ妨ケナシ之レ保證ヲ債權者ニ立テント申立ツルハ假執行ヲ許ス所以ナリ

(二) 債權者ハ判決ノ確定トナルマテ執行ヲ中止セハ償ヒ難キ損害又ハ計リ難キ損害ヲ受クベキトヲ説明スルトキ、之レ債權者ヲ保護スルニ於テ不得止規定タリ若シ夫レ債務者ニシテ逃走スルカ又ハ財産ヲ隱蔽スルカ如キ場合ニ於テモ判決ノ確定ヲ待タンカ債權者ハ遂ニ其目的ヲ達スルヲ得サルニ至ラン故チ以テ假執行ヲ爲サシムベキモノトセリ然レモ此場合ニハ損害ノ償ヒ難キ事狀ヲ説明スルヲ要ス

第五百四條 債務者カ判決ノ確定ト爲ル前ニ判決ヲ執行セハ回復スルコトヲ得サル損害ヲ受ク可キコトヲ説明シタルトキハ其申立ニ因リ左ノ宣言ヲ爲ス可シ



第一 第五百一條ノ場合ニ於テハ判決ヲ假ニ執行ス可カラサル  
第二 第五百二條及ヒ第五百三條ノ場合ニ於テハ債權者ノ假執  
行ノ申立ヲ却下スルコト

(解) 本條ハ前條ノ反對ヲ規定シタリ即チ債務者ニ於テ若シ判決確定前ニ假執行ヲ受クルトキハ債權者ノ損害アルヲ示明シタルトキ請求ニ依リ假執行ヲ爲サシメサルコトヲ宣言シ又ハ假執行ノ申立ヲ却下スベキモノトス元來確定セサル判決ノ假執行ハ債務者ヲ保護スルノ意ニアルモ然レモ不買ナル債權者ノ申立ハ時ニ債務者ヲ害スルコトナシトセス是レ法律ニ於テ假執行ヲナサシメサルコトヲ所以ナリ而シテ裁判所ハ申立ニ依リ左ノ宣言ヲ爲スベキモノトス

(一) 第五百一條ノ場合ニハ判決ヲ假リニ執行スヘカラサル

(二) 第五百二條第五百三條ノ場合ニハ債權者ノ假執行ノ申立ヲ却下スルコト如此區別シタル前者ハ裁判官ノ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ附シ後者ハ申立ニヨリ宣言ヲ付スルニ因ル他ニ理由ナシ

第五百五條 總テノ場合ニ於テ裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ債權者豫ノ保證ヲ立ツルトキハ執行ヲ爲シ得ヘキ旨ヲ宣言スルコトヲ得債權者カ執行ノ前ニ保證ヲ立ツルコトヲ申出テサルトキハ債務者免カルコトヲ許ス可シ

(解) 第五百一條乃至第五百三條ハ保證ヲ立テシメスノ假執行ノ宣言ヲ爲スベキコトヲ規定シ本條ハ其例外ニシテ保證ヲ立テシメテ假執行ヲ爲スコトヲ元來假執行ハ判決確定前ノ假ノ處分ナレハ他日前判決ノ廢棄又ハ破毀セラル、コトアル場合ニハ保證ヲ立テシメテ假執行ノ宣言ヲ付スルコトヲ至當トス又債權者カ執行ノ前ニ保證ヲ立ツルコトヲ申出テサルハ債務者ノ申立ニヨリ債務者ニ保證ヲ立テシメ執行ヲ免ル、コトヲ許スハ債權者ノ自由ナリ

第五百六條 假執行ニ關スル申立ハ判決ニ接着スル口頭辯論ノ終結前ニ之ヲ爲ス可シ

(解) 本條ハ假執行ノ申立時機ヲ定メタルモノナリ故ニ此申立ヲ爲スハ口頭辯論ノ終結前ニ之ヲ爲スベク已ニ口頭辯論ノ終結シタル上ハ申立ツルコトヲ許スベキモノニアラス

第五百七條 假執行ニ付テノ裁判ハ判決主文ニ掲クベシ  
(一) 本條ハ假執行ニ關スル裁判ハ本案タル判決主文中ニ掲クベキモノタルコトヲ規定シナルモノナリ判決ノ主文トハ裁判ノ基本タル原告ノ曲直ヲ斷定スル處ノ裁判言渡ヲ云フ而シテ之ヲ判決主文ニ掲クルハ其判決ニ依リ執行ヲナスヘキ者ナレハナリ

第五百八條 職權ヲ以テ判決ノ假執行ヲ宣言ス可キ場合ニ於テ假執行ニ付テノ裁判ヲ爲ササルトキ又ハ判決ノ假執行ヲ宣言ス可キ債權者ノ申立ヲ看過シタルトキハ第二百四十二條及ヒ第二百四十三



條ノ規定ニ從ヒ判決ノ補充ヲ爲スコトヲ得

(註) 本條ハ假執行ノ宣言ヲ付スルチ脱漏セシトキ補充スベキトニ規定シタリ即チ職權ヲ以テ判決ノ假執行ノ宣言ヲ付スベキヲ付セス又ハ債權者ノ申立ニ依リ判決ノ假執行ヲ宣言スベキ場合ニ其申立ヲ看過シタルトキ等之レナリ而シテ是レカ補充法ハ第二百四十二條第二百四十三條ニ於テ規定シアリ

第五百九條 第一審又ハ第二審ノ判決ニシテ假執行ノ宣言ナカリシ

モノ又ハ條件附ノ假執行ノ宣言アリタルモノハ上訴ヲ以テ不服ヲ申立テサル部分ニ限リ口頭辯論ノ進行中ニ爲シタル原告若クハ被告ノ申立ニ因リ上級審ニ於テ其判決ニ假執行ノ宣言ヲ付ス可シ

(詳) 本條ハ假執行ノ宣言ヲ上級審ニ於テナスコトニ付キ規定シタルモノナリ抑第一審第二審ノ判決ニシテ假執行ノ宣言ナク又ハ條件付ノ假執行ノ宣言ナルトキハ原告若クハ被告ノ申立アル場合ニハ上級審ニ於テ假執行ノ宣言ヲ付スベキモノトス而シテ上級審ニ於テ假執行ノ宣言ヲ爲スニ付テハ自ラ制限アリ即チ上訴ヲ以テ不服ヲ申立テサル部分ニ限ルヘキモノニシテ其申立ハ口頭辯論ノ進行中ニ爲スベキモノナルト之レナリ

第五百十條 本案ノ裁判又ハ假執行ノ宣言ヲ廢棄若クハ破毀又ハ變更スル判決ノ言渡アルトキハ假執行ハ其廢棄若クハ破毀又ハ變更ヲ爲ス限度ニ於テ效力ヲ失フ

ノ申立ニ因リ債務者ニ保證ヲ立テシメ又ハ供託ヲ爲サシメ執行ヲ假執行ノ宣言アリタル本案ノ判決ヲ廢棄若クハ破毀又ハ變更スルトキハ判決ニ基キ被告ノ支拂又ハ給付シタルモノノ辯濟ヲ被告ノ申立ニ因リ判決ヲ以テ原告ニ言渡ス可シ

(解) 本條ハ假執行ノ宣言ヲ付シアル判決ニ變動アリテ其レカ爲メ効力ヲ失フ場合ニ付テノ規定ナリ抑判決ハ確定前ニアリテハ上訴方法ヲ以テ廢棄若クハ破毀スルコトヲ得而シテ假執行ノ宣言アル判決ハ未確定ノモノナルカ故ニ上訴ノ方法ヲ以テ之ヲ廢棄破毀スルコトヲ得ルハ當然タリ既ニ其判決ニシテ廢棄又ハ破毀スルコトヲ得ルトセハ前ニ言渡サレタル本案又ハ假執行ノ宣言ヲ付シアル判決ノ言渡アルトキハ假執行ハ其廢棄若クハ破毀又ハ變更ヲナス限度ニ於テ其効力ヲ失フハ明白ナリ之レ第一項ノ規定アル所以ナリ又第二項ハ前ニ項判決ノ變動ニ因リ被告ノ支拂又ハ給付シタルモノノ辯濟ヲ被告ノ申立ニヨリ判決ヲ以テ原告ニ言渡スベキモノトセリ

第五百十一條 第二審ニ於テハ申立ニ因リ先ツ假執行ニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ爲ス可シ

口頭辯論ノ延期ニ付テノ第四百十條ノ規定ハ此場合ニ於テハ之ヲ適用セス



第二審ニ於テ假執行ニ付キ爲シタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得

(解) 本條ハ第二審ニ於テ本案ノ辯論ニ入ラサル前ニ假執行ニ付キ口頭辯論及ヒ裁判ヲ爲スベキト規定シタルモノナリ假執行ハ或ル原由アルハ限リ宣言スベキモノナリ然ルニ其ノ原由ナキニ宣言シ又ハ原由アルニ拘ハラズ宣言セサル場合ニ當事者ハ第二審ニテ其申立ヲ爲シタルトキハ第二審裁判所ハ其當否ヲ審査セサルヘカラス若シ夫レ假執行ヲナスベカラサルニ之ヲ爲シ又ハ爲スベキニ爲サ、ルトキハ不法ノモノトナレハナリ而シテ假執行ノ宣言ニ付キ爲ス裁判ハ本案ト異ナリ最モ急速ヲ要スルモノナレハ第四百十條ニ從ヒ口頭辯論ハ期間ノ満了マテ延期ストノ規定ハ適用スベキモノニアラス且第二審ニ於テ假執行ニ付キ爲シタル裁判ハ當事者ノ權利義務ニ影響ヲ及ホス一稀ニシテ多クハ執行ノ急速ヲ必要トスル故ニ不服ヲ申立ツルコトヲ得サルトセリ

第五百十二條 假執行ノ宣言ヲ付シタル判決ニ對シ故障ヲ申立又ハ上訴ヲ起シタルトキハ第五百條ノ規定ヲ準用ス

(解) 本條ハ假執行ノ宣言ヲ付シタル判決ニ對シ故障ヲ申立又ハ上訴提起ノ結果ヲ規定シタルモノナリ故ニ此申立アルト共ニ裁判所ノ命令ニ依リ假執行ノ效力ヲ停止シ制限シ及ヒ取消スベキモノナレハ其後ハ第五百條ニヨリ其處分キナスベキモノナリ

第五百十三條 本編ノ規定ニ從ヒ原告若クハ被告ニ保證ヲ立ツル義務ヲ負ハシメ若クハ保證ヲ立又ハ供託ヲ爲スコトヲ許シタル場合

ニ於テハ原告若クハ被告ハ其普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所又ハ執行裁判所ニ保證ヲ立又ハ供託ヲ爲スコトヲ得  
保證ヲ立又ハ供託ヲ爲シタルコトニ付テハ求ニ因リ證明書ヲ付與ス可シ

(解) 本條ハ保證又ハ供託ヲ爲ス裁判所ノ管轄及ヒ保證又ハ供託ヲ爲シタルトキノ證明書ニ付キ規定シタル條文ニシテ原告若クハ被告ニ保證ヲ立ツル義務ヲ負ハシメ若クハ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲スコトヲ許シタルトキハ原告若クハ被告ハ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所又ハ執行裁判所ニ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲スベキモノナリ而シテ如此規定シタルハ裁判管轄ヲ一定シテ實際ノ便ニ適應セシメントシタルニ出ツ且ツ裁判所ハ保證又ハ供託ニ付證明ヲ求メタルモノニ對シテハ證明書ヲ付與スヘキモノトシタルハ此證明書ニ依リ立證シ以テ其爲サント欲スル目的ヲ達セシメントスルニアリ

第五百十四條 外國裁判所ノ判決ニ因レル強制執行ハ本邦ノ裁判所ニ於テ執行判決ヲ以テ其適法ナルコトヲ言渡シタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

執行判決ヲ求ムルニ付テハ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁



判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄シ又普通裁判所ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ對スル訴ヲ管轄スル裁判所之ヲ管轄ス

(解) 本條ハ外國裁判所ノ判決ニ對シテ強制執行ヲ爲スベキコトヲ規定セリ外國裁判所ノ言渡シタル判決ニ對シテ強制執行ヲ本邦ノ裁判所ニ求メント欲セハ執行判決ノ受ケ此判決ニ因リ適法ト認めラレタルニアラサレハ得ス素是レ強制執行ナルモノハ内國主權ニ基ク國家行爲ナルカ故如此爲スニアラサレハ他邦ノ命令ニ強制セラレカ如キ不都合ヲ生スルカ爲メ外國裁判所ノ判決ハ本邦ニ於テ執行セラル、ニハ必ス本邦ノ執行判決ニ因リ其適法ナルトノ言渡シアリタルトキニ限ルモノトス而シテ其執行判決モ亦一ノ訴訟ナルカ故ニ其訴訟ヲ爲スニ付キ一般ノ規定ニ從ヒ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ヲ以テ管轄裁判所ト定メタリ普通裁判籍ナキトキハ第十七條ノ規定シタル裁判籍ニ於テ之ヲ管轄スベキハ當然タリ之レ第二項ノ規定アル所以ナリ

第五百十五條 執行判決ハ裁判ノ當否ヲ調査セスシテ之ヲ爲ス可シ

執行判決ヲ求ムルハ左ノ場合ニ於テハ之ヲ却下ス可シ

- 第一 外國裁判所ノ判決ノ確定ト爲リタルコトヲ證明セサルトキ
- 第二 本邦ノ法律ニ依リ強テ爲サシムルコトヲ得サル行爲ヲ執行セシム可キトキ

第三 本邦ノ法律ニ從ヘハ外國裁判所カ管轄權ヲ有セサルトキ

第四 敗訴ノ債務者本邦人ニシテ應訴セサリジトキ但訴訟ヲ開始スル呼出又ハ命令ヲ受訴裁判所所屬ノ國ニ於テ又ハ法律上ノ共助ニ依リ本邦ニ於テ本人ニ送達セサリシトキニ限ル

第五 國際條約ニ於テ相互ヲ保セサルトキ

(解) 本條ハ執行判決ヲ爲スニ付キ調査スベキ事項ヲ定ム然レモ其調査スベキ事項ハ判決ノ適否ヲ調査スルニアラスシテ本邦ニ於テ執行スベキモノナルヤ否ヤヲ調査スルニ止マリ其以外ニ及ハス而シテ左ノ場合ニハ却下スベキモノトス

(一) 外國裁判所ノ判決ノ確定トナリタルコトヲ證明セサルトキ凡ソ判決ハ確定セサル間ハ執行スヘカラサルハ原則タ 故ニ外國裁判所ノ判決ノ確定トナリタルコトヲ證明セサルトキハ却下スベキハ勿論タリ

(二) 本邦ノ法律ニヨリ強テ爲サシムルコトヲ得サル行爲ヲ執行セシムルトキ之レ本邦裁判所ハ適法ト認めサレニ因ル若シ此場合ニ於テ執行スベカラサル行爲ヲ執行セシムルハ我カ國法ノ許サ、ル所ナレハナリ

(三) 本邦ノ法律ニ從ヘハ外國裁判所ハ管轄權ヲ有セサルトキモ却下スルハ當然ナリ何トナレハ裁判所ニ出訴シテ保護ヲ求ムルハ心ス法律ニ從ヒ管轄裁判所ニ對シテ求メサル可カラス然ルニ之レニ違背シテ管轄權アルモノ、如ク裁判ヲ與フルモ無効タリ故ニ外國裁判所カ管轄權ヲ有スルヤ否ヤヲ調査シ管轄權ナキ場合ニ却下スベキハ明白タリ



(四) 賅訴ノ債務者本邦人ニシテ應訴セザリシトキ此應訴セザルトキハ外國裁判所ノ裁判ニ對シテ答辯セザルノミナラス其訴ノ起リタルイテモ知ラザリシ場合ナリ之レ欠席判決ノ場合ニ多ク見ル所ニシテ此場合ニ於テハ判決ハ適法ト見ルコトヲ得サルニ因ル然レモ本邦人ノ應訴セサルハ過失ニ出テサルコトヲ要ス若シ自己ノ過リニ因リ應訴セサル者ニ本條ノ利益ヲ與フルトセハ不良ノ者ヲ保護スルカ如キ結果ヲ生ス之レ但書アル所以ナリ

(五) 國際條約ニ因リ相互ヲ保セザルトキモ亦却下スベキモノトス即チ彼レニ於テ爲ス所ハ我ニ於テモ之ヲ爲シ我ニ於テ盡ス所ハ彼レニ於テモ亦盡スベキイテ約シタルトキハ格別然ラサル上ハ却下スヘキハ當然ナリ是レ國際法上相互主義ヨリ出タル結果ニシテ至當ノ規定ナリ

第五百十六條 強制執行ハ執行文ヲ付シタル判決ノ正本ニ基キ之ヲ爲ス

執行力アル正本ハ第一審裁判所ノ書記又訴訟カ上級裁判所ニ繫屬スルトキハ其裁判所ノ書記之ヲ付與ス

執行力アル正本ヲ求ムル申立ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

(解) 強制執行ヲナサントスルニハ執行文ヲ付シタル判決ノ正本ニ基キ爲スヘキモノナリ判決ノ正本ノミナリテスルモ執行文ノ付セラレサルニ於テハ未タ執行力ヲ生スルニ至ラス又執行文ハ判決ノ正本ニ付スルニアラザレハ效果ヲ生セザルヲ以テ此二者具備シテ始メテ執行力アル正本ト云フヲ得ヘキナリ而シテ此正本ハ一般ノ場合ニハ第一審裁判所ノ書記之ヲ作り附與ス然レドモ訴訟ハ上級審ニ屬スルトキハ第一審ノ書記ハ事實上作ル能

ハサルヲ以テ此場合ニ於テハ其裁判所ノ書記作り附與セリ而シテ此正本ヲ作ルニハ書面ヲ要セス口頭ニテ足レリ之レ手數ヲ省クニ出ツルナリ

第五百十七條 執行文ハ判決ノ正本ノ末尾ニ之ヲ附記ス  
其文式左ノ如シ

前記ノ正本ハ被告某若クハ原告某ニ對シ強制執行ノ爲メ原告某若クハ被告某ニ之ヲ付與ス

執行文ニハ裁判所書記署名捺印シ且裁判所ノ印ヲ押ス可シ

(解) 本條ハ執行文ノ書式ヲ定メタル規定ナリ抑モ執行文ハ判決ノ執行力ヲ表示スヘキモノナリ故ニ執行文ハ判決ノ正本ノ末尾ニ附記シ裁判所書記之ニ署名捺印シ又裁判所ノ印ヲ押シテ形式上適法タルコトヲ示セリ

第五百十八條 執行力アル正本ハ判決ノ確定シタルトキ又ハ假執行ノ宣言アリタルトキニ限り之ヲ付與ス

判決ノ執行力其旨趣ニ從ヒ保證ヲ立ツルコトニ繋ル場合ノ外他ノ條件ニ繋ル場合ニ於テハ債權者カ證明書ヲ以テ其條件ヲ履行シタ



ルコトヲ證スルトキニ限り執行力アル正本ヲ付與スルコトヲ得

本條ハ執行力アル正本ヲ付與スル場合ヲ定メタルモノナリ

- (一) 判決ノ確定シタルトキ
  - (二) 假執行ノ宣言アリタルトキ
  - (三) 判決ノ保證ハ其旨趣ニ從ヒ保證ヲ立テタルトキ
  - (四) 他ノ條件ニ繫ル場合ニ於テハ債權者カ證明書ヲ以テ其條件ヲ履行シタルコトヲ證明シタルトキ
- 是レナリ而シテ條件ニ繫ルトハ假令ハ原告ニ於テ或ル行為ヲ施シテ被告ヨリ何品ヲ受取ルヘシトカ云フカ如キ相手方ニ向ヒ求メントスル執行ノ目的ヲ付シ或ル條件ヲ履行スヘキ旨ヲ判決ニ於テ命シタル場合ヲ云フ他ハ明丁ナルヲ以テ説明セス

第五百十九條 執行力アル正本ハ判決ニ表示シタル債權者ノ承繼人

ノ爲ニ之ヲ付與シ又ハ判決ニ表示シタル債權者ノ一般ノ承繼人ニ對シ之ヲ付與スルコトヲ得但其承繼カ裁判所ニ於テ明白ナルトキ又ハ證明書ヲ以テ之ヲ證スルトキニ限ル

此承繼カ裁判所ニ於テ明白ナルトキハ之ヲ執行文ニ記載ス可シ

(解) 本條ハ執行力アル正本ノ效力ニ付キ規定セリ即チ執行アル正本ハ特ニ當事者間ノミナラス尙ホ其者ノ承繼人ニモ效力ヲ及ホスノキモノナリ然レモ其效力ヲシテ承繼人ニ及ホサシメシムルハ必ス承繼人ヲ判決ニ表示セ

サルヘカラス承繼人トハ債權者又ハ債務者ノ地位ニ代リタル者ヲ云フ又此ノ正本ヲ承繼ハニ付與スルニハ裁判所ニ於テ明白ナルカ又ハ證明書ヲ以テ其明白ナルニ至ラシメタル場合ニ限ルモノトセリ而シテ承繼人カ裁判所ニ於テ明白ナルトキハ之ヲ執行文ニ記載スルハ更ニ手數ヲ要セスシテ其事ヲ結了スルノ便アルニ因ルナリ

第五百二十條 第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ノ場合ニ於テ

ハ執行力アル正本ハ裁判長ノ命令アルトキニ限り之ヲ付與スルコトヲ得

裁判長ハ其命令前ニ書面又ハ口頭ヲ以テ債務者ヲ審訊スルコトヲ得

右命令ハ執行文ニ之ヲ記載ス可シ

(解) 本條ハ執行力アル正本ヲ付與スルニ裁判長ノ命令ヲ要スル場合ヲ定メタリ即チ判決力或ル條件ニ繫カル場合ニ於ケル執行力アル正本及ヒ承繼人アル場合ニ執行力アル正本ヲ付與スルトキ是レナリ此場合ハ慎重ヲ加フヘキ要アルニ因ル而シテ裁判長ハ本條第一項ノ命令ヲサントスルニ必要ナルトキハ書面又ハ口頭ヲ以テ債務者ヲ審訊スルコトヲ得ト規定セルハ債務者ヲシテ異議アルヤ否ヤヲ確ムル爲メナリ又此命令ハ執行文ナサシムヘキ一要件ナレハ之レヲ執行文ニ記載セシムルコト最モ適當ノコトナリ

第五百二十一條 第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ニ依リ必要



ナル證明ヲ爲ス能ハサルトキハ債權者ハ判決ニ基キ執行文ノ付與ニ付キ第一審ノ受訴裁判所ニ訴ヲ起スコトヲ得

(解) 執行文ノ付與ヲ必要トスル債權者ハ條件ノ履行セラレタルコト又ハ承繼人ナル殊種ノ者ノ存在ヲ證明スルコトヲ要ス如此爲スニアラサレハ執行文ヲ付與スヘカラサル者ニ付與スルカ如キアレハナリ然レモ實際ノ債權者ナルモ此證明ヲナシ得サル爲メ付與セストセハ酷ニ失セリ故ニ此場合ニハ債權者ハ判決ニ基キ執行文ノ付與ニ付第一審ノ受訴裁判所ニ訴ヲ起スコトヲ得セシメ其判決ヲ以テ證明ニ代フヘキモノトセリ

第五百二十二條

執行文ノ付與ニ對シ債務者カ異議ヲ申立テタルト

キハ其執行文ヲ付與シタル裁判所書記ノ屬スル裁判所之ヲ裁判ス裁判長ハ其裁判前ニ假處分ヲ爲スコトヲ得殊ニ保證ヲ立テシメ若クハ之ヲ立テシメスシテ強制執行ヲ一時停止シ又ハ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ續行スコキヲ命スルコトヲ得

(解) 執行文ノ付與ニ付債務者カ異議ヲ申立ツル場合ニハ其執行文ヲ付與シタル裁判所書記所屬ノ裁判所之ヲ裁判スヘキモノトシタルハ是レ取扱ノ便宜ヨリ出ツ故ニ其管轄ハ第一審ナルコトアリ第二審ナルコトアリ要スルニ此場合ハ訴訟物ヲ以テ管轄ヲ定メタルニアラスシテ依テ基ク所ニ依リ定メタルモノナリ然レモ此異議ノ爲メ債權者ハ執行文ヲ求ムルコトヲ得サルトセハ損害ヲ受クルコトアルカ故ニ此場合ニハ裁判長ハ其裁判前

ニ假處分ヲ爲スヲ得セシメ又時ニ依リ保證ヲ立テシメ又ハ立テシメスシテ強制執行ヲ一時停止シ又ハ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ續行スヘキコトヲ命シテ便宜事ヲ處セシムルコトヲナセリ

第五百二十三條

債權者カ執行力アル正本ノ數通ヲ求メ又ハ前ニ付

與シタル正本ヲ返還セスシテ更ニ同一判決ノ正本ヲ求ムルトキハ裁判長ノ命令アルトキニ限り之ヲ付與スルコトヲ得

裁判長ハ其命令ノ前ニ書面又ハ口頭ヲ以テ債務者ヲ審訊スルコトヲ得

相手方ヲ審訊セスシテ執行力アル正本ノ數通ヲ付與シ又ハ更ニ正本ヲ付與シタルトキハ其旨ヲ相手方ニ通知ス可シ

正本ノ數通ヲ付與シ又ハ更ニ正本ヲ付與シタルトキハ其旨ヲ明記ス可シ

(解) 執行力アル正本ハ之レニ依リテ義務ヲ果タサシムルモノナレハ若シ債務者ノ財産ニシテ數所ニ散在スルトキハ一通ノ正本ハ以テ其目的ヲ達シ易カラス是レ數通ノ正本ノ必要ナル所以ナリ而シテ債權者ハ執行力アル



正本ノ數通ヲ求メ又ハ前ニ付與シタル正本ヲ返還セスシテ更ニ同一ノ正本ヲ求ムルトキハ裁判長ノ命令アルトキニ限り付與スヘキモノナリ又之ヲ付與スルニ付テハ裁判長ハ其命令前ニ實際必要ナルヤ否ヤヲ調査スル爲メ書面又ハ口頭ニ依リ債務者ヲ審訊スルコトヲ得トセリ然レモ債務者タル相手方ヲ審訊スルト否ヤトハ裁判長ノ自由ナレハ必スシモ審訊スルヲ要セス故ニ審訊セスシテ正本數通ヲ付與シタルトキハ其旨ヲ相手方ニ通知セサルヘカラス若シ夫レ裁判長ニ於テ數通ノ正本ヲ付與シタルコトヲ債務者ハ知ラサレハ再度執行ノ不幸ニ際會スルコトアレハナリ

末項ニ正本數通ヲ付與シ又ハ更ニ正本ヲ付與シタルトキハ其旨ヲ明記スヘシト規定シタルハ是レ他ノ正本ニ依リ已ニ執行サレタルニ拘ハラズ重テ執行ヲ爲スカ如キ不都合ヲ避ケンカ爲メニ外ナラサルナリ

第五百二十四條 執行力アル正本ノ付與前ニ判決ノ原本ニ原告ノ爲メ若クハ被告ノ爲ニ之ヲ付與スル旨且之ヲ付與スル日時ヲ記載ス可シ

(解) 執行力アル正本ハ原告ノ爲メ付與スルヲ原則トス然レトモ亦被告ノ爲メニ付與スルコトアリ蓋シ其何レノ爲メニ付與シタルヲ問ハズレヲ付與シタル旨及ヒ付與シタル日時ヲ記載セシムルハ他日更ニ正本ヲ求ムルモノアルトキノ照査ノ便ニ供セシメンカ爲メナリ

第五百二十五條 執行力アル正本ノ效力ハ之ヲ付與シタル裁判所ノ管轄内ニ止マラス總テ本邦ノ裁判區域内ニ及フモノトス

裁判管轄ハ一定ノ區域内ニ限り效力アルカ故ニ執行力アル正本モ又其正本ヲ付與シタル裁判所ノ管内ニ於テノミ效力アルカ如シ然リト雖モ執行力アル正本ハ之ヲ付與シタル裁判所ノ管内ニ止マラスシテ本邦内何レノ裁判所管ニモ及フモノトス假令ハ東京ニ於テ下シタル判決ニ對スル執行力アル正本ハ大坂京都ニ執行スルヲ得ルカ如シ

第五百二十六條 債權者ハ一箇ノ地又ハ一箇ノ方法ニテ強制執行ヲ爲スモ完全ナル辨濟ヲ得ル能ハサルトキハ數通ノ執行力アル正本ニ基キ數箇ノ地又ハ數箇ノ方法ニテ同時ニ強制執行ヲ爲ス權利ヲ有ス

(解) 一個ノ場所又ハ一個ノ方法ニテ強制執行ヲ爲シ完全ナル辨濟ヲ受ケレハ即チ可ナリ苟モ一個ノ場所ニテ執行シ得タル所ノモノ其債權ヲ償フニ足ラサルトキニシテ債務者カ他所ニ財産ヲ有スルトキハ其財産ニ對シテ執行ヲ求メサルヘカラス之レカ執行ヲ數ヶ所ニ求メントセハ勢ヒ數通ノ正本ヲ要スルヤ明カナリ又一個ノ方法ニシテ其目的ヲ達セサルトキハ數ヶノ方法ニ因ルヘキモノトス而シテ其數個ノ方法トハ動産差押ヲ求メ債務者ノ債權ニ差押フルカ如キヲ云フ之レ何レモ債務者ノ行爲ヨリ生スル不應ノ損害ヲ避ケル爲メニスル方法ナリ

第五百二十七條 債權者ハ執行ヲ爲ス可キ地ヲ管轄スル區裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサルトキハ其所在地ニ假住所ヲ



選定シ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ

(解) 本條ハ債權者遠方ニ任居スルトキハ書類ノ送達通知等ノタメニ日時ヲ徒費シ爲メニ執行ノ落着キ遅延スルヲ恐レテ何分迅速結了ヲ欲シタル爲メニ設ケタル規定タリ蓋シ債權者ニシテ執行ヲ爲スヘキ地ヲ管轄スル裁判所ノ所在地ニ任居セサレハ不便尠カラサル故此場合ニハ假任所ヲ選定シテ届出ツヘルトナシタリ

第五百二十八條 強制執行ハ之ヲ求ムル者及ヒ之ヲ受クル者ノ氏名

ヲ判決又ハ之ニ附記スル執行文ニ表示シ且判決ヲ既ニ送達シ又ハ同時ニ送達シタルトキニ限り之ヲ始ムルコトヲ得

判決ノ執行カ其旨趣ニ從ヒ債權者ノ證明ス可キ事實ノ到來ニ繋ルトキ又ハ判決ノ執行カ判決ニ表示シタル債權者ノ承繼人ノ爲ニ爲シ又ハ判決ニ表示シタル債權者ノ承繼人ニ對シ爲ス可キトキハ執行ス可キ判決ノ外尙ホ之ニ附記スル執行文ヲ強制執行ヲ始ムル前ニ送達スルコトヲ要ス

若シ證明書ニ依リ執行文ヲ付與シタルトキハ亦其證書ノ謄本ヲ強

制執行ヲ始ムル前ニ送達シ又ハ同時ニ送達スルコトヲ要ス

(解) 本條第一項ハ強制執行ヲ始ムルニハ必ス之ヲ求ムル者及ヒ受クル者ノ氏名ヲ判決文又ハ之ニ附記スル執行文ニ表示シ且判決ヲ既ニ送達シ又ハ同時ニ送達シタル時ニ限り始ムルコトヲ規定セリ若シ此ノ如ク爲スニアラサレハ不良ノ債權者勝手ニ債務者ヲ指名シ又不良ノ債權者ハ指名ナキヲ機トシテ執行ニ應セス又判決ノ送達前ニ執行ヲサントスルモ是亦債務者力應セサルカ如キ結果ヲ生シテ何レニ取リテモ危險ナレハナリ又第二項ハ判決ヲ執行スルニ條件ニ繋ルモノアリタル時ハ債權者ハ其條件タル事實ノ到來シタルコトヲ證明シテ始メテ執行力アル正本ヲ受クルコトヲ得ヘク又執行力アル正本ヲ判決ニ表示シタル債權者又ハ債務者ノ承繼人ノ爲メ之ヲ付與スルニハ其承繼ノ明白ナルカ又ハ證明アルコトヲ要ス此等ノ場合ニハ裁判長ノ命令ニヨリ執行力アル正本ヲ付與シ其執行文ニ命令ヲ記載シ且判決及ヒ判決文ニ附記アル執行文ヲ送達スルヲ要スルハ是レ即チ權利ナキ者ニ利益セシメ義務ナキモノニ損害ナカラシメンヲ欲スルニ外ナラズ

第五百二十九條 請求ノ主張カ或ル日時ノ到來ニ繋ルトキハ其日時

ノ滿了後ニ限り強制執行ヲ始ムルコトヲ得

若シ執行カ債權者ヨリ保證ヲ立ツルコトニ繋ルトキハ債權者カ保證ヲ立テタルコトニ付テノ公正ノ證明書ヲ提出シ且其謄本ヲ既ニ



送達シ又ハ同時ニ送達シタルトキニ限り其執行ヲ始ムルコトヲ得  
(解) 或ル物ヲ請求スル申立ハ一定ノ日ノ到來迄主張スルコトヲ得サルトキハ其目的物ハ或ル日時ニ至リ始メテ求ムルコトヲ得ヘク其日時前ニハ引渡又ハ受取ルコトヲ得ス即チ之ヲ求メ得ヘキ時日ニ至リ義務ノ履行ナキ場合ニアラサレハ強制執行ヲ始ムルコトヲ得サルハ當然タリ

又債権者ハ保證ヲ立テ假執行ヲ求ムルコトヲ得ヘク其他裁判所ヨリ職權ヲ以テ保證ヲ立テシメテ執行ヲ爲サシムルコトハ定メタル場合妙カラス第二項ハ此場合ノ規定ニシテ果シテ保證ヲ立タルヤ否ヤハ債権者ノ證明スヘキ事項ニ屬スルカ故ニ債権者ヨリ公正ノ證明書ヲ提出スヘキコトヲ定メタリ且又其擔保ヲ送達シ又ハ同時ニ送達シタルトキニ限り其執行ヲ始ムヘキモノト定メタルハ債務者ハ其擔本ノ送達ニ依リテ始メテ保證ヲ立テアルヲ知り得ヘキモノナレハナリ

第五百三十條 豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對シテ爲ス強制執行ハ其上班司令官廳ニ通知ヲ爲シタル後ニ限り之ヲ始ムルコトヲ得

此官廳ハ債権者ノ求ニ因リ通知ノ受取證ヲ付與ス可シ

軍人軍屬ハ嚴肅ナル規定ノ下ニ服スヘキモノナルヲ以テ一般人ト同一ナル法規ヲ以テ律スヘカラサルモノナリ故ニ軍人軍屬ニ對シテハ強制執行ナサントスルニハ先ツ上班司令官廳ニ通知ヲ爲シタル後ニ限り之ヲ始ムヘキモノトシタリ若シ之ヲシテ一般人ト同シク普通ノ取扱ヲナサントスルトキハ軍紀ト抵觸ヲ來タシテ軍紀ノ嚴肅ヲ破ルニ至リ不都合少ナカラサハナリ

次ニ此官廳ハ債権者ノ求メニヨリ通知ノ受取書ヲ付與スヘシト定メタルハ通知ノ事實ヲ證明スヘキ材料トシテ必要ナルニ因レリ

第五百三十一條 強制執行ハ此法律ニ於テ別段ノ規定ナキトキニ限り

執達吏之ヲ實施ス

債権者ハ強制執行ヲ委任スル爲ニ區裁判所書記ノ補助ヲ求ムルコトヲ得

トヲ得

裁判所書記ノ委任シタル執達吏ハ債権者ノ委任シタルモノト看做ス

(解) 強制執行ヲ實施スヘキモノハ別段ノ規定ナキ限りハ執達吏ノ職務ナリ抑強制執行ナルモノハ債権者ヨリ債務者ニ對シ義務ノ履行ヲ求ムル方法ニシテ債務者ヨリ執達吏ニ委任シテ強制執行ヲ求ムルハ之レ取リモ直サス債務ノ履行ヲ求ムル方法ニ外ナラサルヲ以テ之ヲ債権者直接ノ委任ニ依ラシムルハ適當ノ規定タリ又第二項ニ區裁判所書記ノ補助ヲ求ムルコトヲ得ルト定メタルハ債権者ハ執達吏ノ撰擇委任ノ方法ニ熟セサルカ故ニ裁判所書記ハ債権者ニ代リテ執達吏ヲ委任スルコトトセリ是債権者ガ保護スル便宜規定ニシテ裁判所書記ハ職務トシテ爲スモノニアラス



第五百三十二條 執達吏ハ債權者ノ委任ニ因リテ爲ス行爲及ヒ職務上ノ義務ノ違背ヨリシテ債權者其他ノ關係人ニ對シ損害ヲ生セシメタルトキハ第一ニ其責ニ任ス

(解) 執達吏ハ職務執行ニ依リ債權者又ハ其他ノ關係人ニ對シ損害ヲ加ヘタルトキハ其責ニ任セサルヘカラス之レ何人ト雖モ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ之ヲ賠償スヘシト云ヘル原則ノ適用タレハナリ

第五百三十三條 債權者執行力アル正本ヲ交付シテ強制執行ヲ委任シタルトキハ執達吏ハ特別ノ委任ヲ受ケサルトキト雖モ支拂其他ノ給付ヲ受取リ其受取リタルモノニ付キ有效ニ受取ノ證書ヲ作り之ヲ交付シ且債務者ニ於テ其義務ヲ完全ニ盡シタルトキハ執行力アル正本ヲ債務者ニ交付スルコトヲ得

(解) 債權者ヨリ執行力アル正本ヲ執達吏ニ交付シテ強制執行ヲ委任シタルトキハ執達吏ハ完全ニ執行ヲ爲スハ義務ナリ故ニ執達吏ハ其義務ヲ完了スル迄ハ特別ノ委任ナキモ支拂其他ノ給付即チ債權者ノ受取ルヘキモノニ付キ債權者ニ代リテ收受シ受取書ヲ交付スルカ如キハ執行ノ上ニ於テ必ス起レリ此場合ニハ個々ノニ付キ特別ノ委任ヲ要スルカ如キアリテハ手數ヲ煩ハスノミニテ執行ヲ果タス能ハサルニ終ルガ如キアルカ故ニ此

規定ヲ設ケテ以テ遺憾ナキナ期セリ

次ニ債務者ハ義務ノ辯濟ヲナシタル時ニ於テ債權者ニ差入レタル證書ノ交付ヲ求メ得ルト同一ノ理由ニ依リテ已ニ執行ヲ完了シタルトキハ強制執行ヲ命シタル正本ノ交付ヲ求メテ義務ノ根底ヲ塗抹スベキナリ

第五百三十四條 執達吏ハ執行力アル正本ヲ所持スルヲ以テ債務者及ヒ第三者ニ對シ強制執行及ヒ前條ニ掲ケタル行爲ヲ實施スル權利ヲ有ス債權者ハ此等ノ者ニ對シ委任ノ欠缺又ハ制限ヲ主張スルコトヲ得ス

執達吏ハ其正本ヲ携帶シ關係人ノ求アルトキハ其資格ヲ證スル爲ニ之ヲ示ス可シ

(解) 執達吏ハ執行力アル正本ヲ所持スルノミニテ債務者及ヒ第三者ニ對シテ強制執行ヲ爲スヲ得ルハ當然ノコトニテ執達吏ナル公吏ヲ設ケタルノ旨趣ハ必竟如此行爲ヲ爲サシメンカ爲メニ外ナラサレハ特ニ委任ノ證明ヲ爲サシムヘキ必要ナシ然レドモ執達吏ハ利害關係人ヨリ其資格ノ證明ヲ望マルルトキハ正本ヲ示シテ真正ナルヲ證明セシムト規定シタルハ僥倖ノ今日必要タリ

第五百三十五條 執達吏ハ債務者カ其義務ヲ完全ニ盡シタルトキハ執行力アル正本及ヒ受取ノ證ヲ之ニ交付シ又其義務ノ一分ヲ盡シ



第五百三十二條 執達吏ハ債權者ノ委任ニ因リテ爲ス行爲及ヒ職務上ノ義務ノ違背ヨリシテ債權者其他ノ關係人ニ對シ損害ヲ生セシメタルトキハ第一ニ其責ニ任ス

(解) 執達吏ハ職務執行ニ依リ債權者又ハ其他ノ關係人ニ對シ損害ヲ加ヘタルトキハ其責ニ任セサルヘカラス之レ何人ト雖モ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ之ヲ賠償スヘシト云ヘル原則ノ適用タレハナリ

第五百三十三條 債權者執行力アル正本ヲ交付シテ強制執行ヲ委任シタルトキハ執達吏ハ特別ノ委任ヲ受ケサルトキト雖モ支拂其他ノ給付ヲ受取リ其受取リタルモノニ付キ有效ニ受取ノ證書ヲ作り之ヲ交付シ且債務者ニ於テ其義務ヲ完全ニ盡シタルトキハ執行方アル正本ヲ債務者ニ交付スルコトヲ得

(解) 債權者ヨリ執行力アル正本ヲ執達吏ニ交付シテ強制執行ヲ委任シタルトキハ執達吏ハ完全ニ執行ヲ爲スハ義務ナリ故ニ執達吏ハ其義務ヲ完了スル迄ハ特別ノ委任ナキモ支拂其他ノ給付即チ債權者ノ受取ルヘキモノニ付キ債權者ニ代リテ收受シ受取書ヲ交付スルカ如キハ執行ノ上ニ於テ必ス起レリ此場合ニハ個々ノノニ付キ特別ノ委任ヲ要スルカ如キアリアリテハ手數ヲ煩ハスノミニテ執行ヲ果タス能ハサルニ終ルガ如キアルカ故ニ此

規定ヲ設ケテ以テ遺憾ナキナリ

次ニ債務者ハ義務ノ辯濟ヲナシタル時ニ於テ債權者ニ差入レタル證書ノ交付ヲ求メ得ルト同一ノ理由ニ依リテ已ニ執行ヲ完了シタルトキハ強制執行ヲ命シタル正本ノ交付ヲ求メテ義務ノ根底ヲ塗抹スベキナリ

第五百三十四條 執達吏ハ執行力アル正本ヲ所持スルヲ以テ債務者及ヒ第三者ニ對シ強制執行及ヒ前條ニ掲ケタル行爲ヲ實施スル權利ヲ有ス債權者ハ此等ノ者ニ對シ委任ノ欠缺又ハ制限ヲ主張スルコトヲ得ス

執達吏ハ其正本ヲ携帶シ關係人ノ求アルトキハ其資格ヲ證スル爲ニ之ヲ示ス可シ

(解) 執達吏ハ執行力アル正本ヲ所持スルノミニテ債務者及ヒ第三者ニ對シテ強制執行ヲ爲スヲ得ルハ當然ノコトニテ執達吏ナル公吏ヲ設ケタルノ旨趣ハ必竟如此行爲ヲ爲サシメンカ爲メニ外ナラサレハ特ニ委任ノ證明ヲ爲サシムヘキ必要ナシ然レドモ執達吏ハ利害關係人ヨリ其資格ノ證明ヲ望マルトキハ正本ヲ示シテ眞正ナルヲ證明セシムト規定シタルハ僥倖ノ今日必要タリ

第五百三十五條 執達吏ハ債務者カ其義務ヲ完全ニ盡シタルトキハ執行力アル正本及ヒ受取ノ證ヲ之ニ交付シ又其義務ノ一分ヲ盡シ



タルトキハ執行力アル正本ニ其旨ヲ附記シ且受人ノ證ヲ債務者ニ交付ス可シ

債務者カ後ニ債權者ニ對シ受取ノ證ヲ求ムル權利ハ前項ノ規定ニ因リテ妨ケラルルコトナシ

(解) 執達吏カ強制執行ヲ爲スノ目的ハ債權者ニ代リテ債務者ニ對シ義務ヲ履行セシムルニ在ルカ故ニ義務ノ完了ヲ得タルトキハ之レカ目的ヲ達シタルモノト云フヘシ而シテ執行力アル正本ハ此ノ目的ヲ達セシカ爲メノ具タルニ外ナラサルヲ以テ已ニ其目的ヲ達シタルトキハ之ヲ債權者ノ手裡ニ保存スヘキ必要ナシ此ヲ以テ執達吏ヨリ直ニ正本並ニ受取證ヲ債務者ニ交付セサルヘカヲ又一部ノ義務ノミヲ履行シタルトキハ其旨ヲ附記シテ交付スヘキモノト然レレ債權者カ後ニ債權者ニ對シ受取ノ證ヲ求ムル權利ハ執達吏ヨリ已ニ請取證ヲ交付シタル時ト雖モ更ニ債權者ニ係リテ受取證ヲ求ムルハ差支ナカルヘシ

第五百三十六條 執達吏ハ執行ノ爲メ必要ナル場合ニ於テハ債務者ノ住居、倉庫及ヒ筐匣ヲ搜索シ又ハ閉鎖シタル戸扉及ヒ筐匣ヲ開カシムル權利ヲ有ス

抵抗ヲ受クル場合ニ於テハ執達吏ハ威力ヲ用井且警察上ノ援助ヲ求ムルコトヲ得若シ兵力ヲ要スルトキハ之ヲ執行裁判所ニ申立ツ

可シ

(解) 執達吏ハ執行ヲ爲スニハ尋常一般ノ手段ニ因リ完了セズ即チ可ナリ然レレ債權者ノ頑固ナル之ニ應セザルトキハ威力ヲ用井テ強制スルノ必要アリ故ニ執達吏ハ係ル場合ニ際會セハ住居、倉庫及ヒ筐匣ヲ開クノ權利アルコトトセリ元來人ノ住居等ハ何人ト雖モ侵スヘカヲサルモノナリト雖モ此ノ法規ヲ固守セハ債權者ハ常ニ損受ケ不良ノ債務者ヲ保護スルノ結果ヲ生スヘシ是レ法律ノ主趣ニアラサルナリ故ニ此ノ如キ場合ニ公力ヲ以テ害ヲ執行ノ目的ヲ達スルハ當然ナリ而シテ執達吏カ公力ヲ以テ職務ヲ執ルニ當リ債務者ハ之ニ抵抗シテ執行ノ目的ヲ達ラレ執達吏ノ力及ハサルトキハ警察上、補助ヲ求メ警察ノ力及ハサルトキハ兵力ヲ借ラサルヘカラス若シ兵力ヲ要スルトキハ執行裁判所ニ申立テ裁判所ニ於テ至當トスルトキハ軍衛ニ要求スヘク此等公力ヲ用井ルハ強制執行ニ當然ノ規定ナリ

第五百三十七條 執達吏ハ執行行爲ヲ爲スニ際シ抵抗ヲ受クルトキ又ハ債務者ノ住居ニ於テ執行行爲ヲ爲スニ際シ債務者又ハ成長シタル其家族若クハ雇人ニ出會ハサルトキハ成丁者二人又ハ市町村若クハ警察ノ吏員一人ヲ證人トシテ立會ハシム可シ

(解) 執達吏ハ執行行爲ヲ爲スニ當リ之ニ抵抗ヲ受クルトキハ公力ヲ用井ルコトヲ得ルモ果シテ抵抗ヲ受ケタルカ公力ヲ用ユルノ必要アルカハ證人アリテ始メテ之レヲ證スルコトヲ得ヘキナリ債務者ノ住居ニ於テ執行行爲ヲ爲スニ際シ債務者又ハ成長シタル家族又ハ雇人ニ出會ハサルトキハ亦立會人アルコトヲ要ス固之レ執達吏



ハ一ノ公吏ニシテ法律上普通人ニ比シ信認アリ從テ其行爲ハ公平ナリトスルモ執達吏モ人ナレハ時ニ不公平ナキヲ保スル能ハス果シテ然ラハ危險ト云ハサルヘカラス加之又他ニ債務者ヨリ責ムヘキコトアルモ舉證ノ手段ニ乏シク遂ニ冤ニ泣カシムルカ如キコトアラハ信用上大關係アルカ故ニ立會人ヲ要スルトセリ  
而シテ此立會人ハ成丁者二人又ハ市町村若クハ警察ノ吏員一人ヲ證人トシテ立會ハシムヘキモノトス成丁トハ丁年ト云フ意ニアラスシテ未成年者ナルモ是非ヲ辨別スル能力アルヲ以テ足ル者ヲ云フ

第五百三十八條 強制執行ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル各人ニハ其求ニ因リ執達吏ノ記録ノ閲覽ヲ許シ及ヒ記録中ニ存スル書類ノ謄本ヲ付與スルコトヲ要ス

(解) 強制執行ニ付利害ノ關係ヲ有スル各人トハ當事者及其承繼人ノ如キヲ云フ此等利害ノ關係ヲ有スルモノハ記録閲覽スル必要ナリ蓋シ此等ノモノハ其結果ニ依リ至大ノ關係ヲ有スルモノナレハ法律ハ其各人ノ請求ニ依リ記録ノ閲覽ヲ許シ及ヒ記録中ニ存スル書類ノ謄本ヲ付與スルコトセリ

第五百三十九條 夜間及ヒ日曜日并ニ一般ノ祝祭日ニハ執行裁判所ノ許可アルトキニ限り執行行爲ヲ爲スコトヲ得  
右許可ノ命令ハ強制執行ノ際之ヲ示ス可シ

(解) 夜間及ヒ日曜日一般ノ祭日ノ如キ休業日ニハ執行行爲ヲ爲スヘカラス若シ是レヲ爲スノ必要アルトキハ

裁判所ノ許可ヲ得テ爲スヘキナリ即チ其必要トハ債務者カ財産ヲ隠蔽スルノ恐レアルカ其他急速ヲ要スル場合ヲ云フ此制限ニ從ハス夜間及ヒ一般ノ休業日ニ執行スルコトヲ許ストセハ債務者ヲ意外ニ苦シマシムルノミナラズ安寧ヲ害スルカ如キアレハナリ

又右許可ノ命令ハ強制執行ノ際示スヘキモノトセルハ債務者ヲシテ其命令ニ服從セシム可キコトヲナセシニヨレリ

第五百四十條 執達吏ハ各執行行爲ニ付キ調書ヲ作ル可シ  
此調書ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

- 第一 調書ヲ作りタル場所、年月日
- 第二 執行行爲ノ目的物及ヒ其重要ナル事情ノ略記
- 第三 執行ニ與カリタル各人ノ表示
- 第四 右各人ノ署名捺印
- 第五 調書ヲ其各人ニ讀聞セ又ハ閲覽セシメ其承諾ノ後署名捺印ヲ爲シタルコトノ開示
- 第六 執達吏ノ署名捺印



第四號及ヒ第五號ノ具備スルコト能ハサルトキハ其理由ヲ記載ス可シ

(解) 本條執達吏ノ作ル執行調書ノ條件ヲ定メタルモノニシテ一見明瞭別ニ説明スヘキ處ナキモ唯文字其他一  
二解シ易カラサル處ノミヲ説カン即チ各執行行為トハ執行スル度毎ト云フ意ナリ決シテ一事件ト云フ意ニアラ  
ズ次ニ第二號ノ執行行為ノ目的トハ衣類又ハ器物ノ如キ者ニシテ之ニ依リテ執行チナサントスル物品ヲ云フ又  
何レノ物品ヲ如何ニナセシト云フカ如キ事情ノ其大略ヲ記スルカ如キチ云フ  
次ニ未段ニ各人ノ署名捺印調書ヲ讀ミ聞セ又ハ閱覽セシメ其承諾ノ後署名捺印ヲ爲シタルコトノ開示云々トア  
ルハ此等ハ時ニ債務者ニ拒絶サルハ一アレハ變例ヲ設ケテ之ヲ補フヘキ方法ヲ定メタルニ過キス

第五百四十一條 執行行為ニ屬スル催告其他ノ通知ハ執達吏口頭ヲ

以テ之ヲ爲シ且調書ニ之ヲ記載ス可シ

若シ口頭ヲ以テ催告又ハ通知ヲ爲ス能ハサルトキハ第三百二十九條  
第四百十條及ヒ第四百十五條乃至第四百十九條ノ規定ヲ準用シテ  
其調書ノ謄本ヲ送達シ又別ニ送達證ヲ作ラサルトキハ調書ニ其送  
達ヲ爲シタルコトヲ記載ス可シ

若シ強制執行ノ地ニ於テモ執行裁判所ノ管轄内ニ於テモ送達ヲ爲

ス能ハサルトキハ催告又ハ通知ヲ受ク可キ者ニ郵便ヲ以テ調書ノ  
謄本ヲ送達シ且之ヲ郵便ニ付シタルコトヲ調書ニ記載ス可シ

(解) 執行ニ屬スル催告又ハ通知トハ執行行為ニ必要ナル事項ヲ關係人ニ催告シ又ハ或ル事ノアリタル  
ヲ通知スルチ云フ此ノ事タル執達吏ハ口頭ニテナセハ足ルモノナレハ書面ヲ以テ之ヲ行フヲ要セス又催告通知  
ノアリタルヤ否ヤハ關係人ノ利害ニ關スルモノナレハ之ヲ調書ニ記載シ若シ口頭ニテ催告又ハ通知ヲ爲スコト  
能ハサルトキハ第三百二十九條第四百十條第四百十五條乃至第四百十九條ノ規定ヲ準用シテ其調書ノ謄本ヲ送達  
シ又別ニ送達證ヲ作ラサルトキハ其旨ヲ調書ニ記スヘキモノトシタルハ元來調書ハ正確ノモノト信シ認ラレ得  
ヘキ條件ヲ備フルモノナルカ故送達證ヲ作ラシムルモ之ニ記載セシムルモ其結果同一トナルニ因レリ  
又強制執行ノ地及執行裁判所ノ管内ニシテモ送達スルコト能ハサルトキハ催告又ハ通知ヲ受クヘキ者ニ郵便ヲ  
以テ調書ノ謄本ヲ送達シ其旨ヲ記載スヘキモノト定メタルハ不得止ニ出テ催告及ヒ通知ノ手續ヲ盡シタルコト  
ヲ明ニシタルニ過キス

第五百四十二條 執行行為ノ際債務者ニ爲ス可キ送達及ヒ通知ハ債  
務者ノ所在明カナラサルトキ又ハ外國ニ在ルトキハ之ヲ必要トセ  
ス

(解) 執行行為ノ際債務者ノ所在不明ナルカ又ハ外國ニアルトキハ送達又ハ通知ヲ要セサルハ債權者ヲ保護ス



ル意ニ出テタル至當ノ規定ナリ若此ノ場合ニモ送達及ヒ通知ヲ必要トスルハ難キヲ賣ト云フヘク之レ法律ノ欲セサル所ナリ

第五百四十三條 此法律ニ於テ裁判所ニ任カセタル執行行為ノ處分

又ハ其行為ノ共力ハ執行裁判所トシテ區別判所ノ等轄ニ屬ス

法律ニ於テ別段ニ裁判所ヲ指定セサル各箇ノ場合ニ於テハ執行手續ヲ爲ス可キ地又ハ之ヲ爲シタル地ヲ管轄スル區裁判所ヲ以テ執行裁判所ト看做ス

執行裁判所ノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

(解) 執行行為ヲ取扱フ裁判所ハ區裁判所ニシテ執行上ニ於ケル總テノ處分及ヒ執行上ニ於ケル裁判ノ共助ヲナスヘキモノニシテ金額ノ多寡ニ係ラス管轄權ヲ有セリ然レモ各區裁判所ノ間ニ於テハ如何ニシテ管轄ヲ定ムヘキヤト云ヘハ執行手續ヲ爲スヘキ地又ハ之ヲ爲シタル地ヲ管轄スル區裁判所トセリ而シテ執行手續ヲ爲スヘキ地トハ債務者ノ住所債務者財産ノ所在地ナリ  
次ニ執行上ニ關スル異議ハ簡單ナルノミナラス迅速ヲ貴フ故ニ執行裁判所ノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ爲スコト、セリ

第五百四十四條 強制執行ノ方法又ハ執行ニ際シ執達吏ノ遵守ス可

キ手續ニ關スル申立及ヒ異議ニ付テハ執行裁判所之ヲ裁判ス又執行判所ハ第五百二十二條第二項ニ定メタル命ヲ發スル權ヲ有ス

執達吏カ執行委任ヲ受クルヲ拒ミ若クハ委任ニ從ヒ執行行為ヲ實施スルコトヲ拒ミタルトキ又ハ執達吏ノ計算セシ手数料ニ付キ異議アルトキハ執行裁判所ハ之ヲ裁判スル權ヲ有ス

(解) 執達吏ハ執行行為ヲ爲スニ當リテ其方法ヲ誤リ又ハ執達吏ノ遵守スヘキ手續ニ戻リタル場合ニ債權者ヨリ異議ヲ申立テタルトキハ其異議ニ對シテハ執行裁判所之ヲ裁判スヘキコト、セリ是レ執行ニ關スルコトハ總テ執行裁判所ニ於テ爲スヘキモノナレハ執達吏ノ執行方法及ヒ手續ヨリ生スル異議ニ付テハ執行裁判所ヲシテ管轄セシムルハ適當ナリ  
又執行裁判所ハ第五百二十二條第二項ニ定メタル命令ヲ發スル權ヲ有スト規定セルハ屢此處置ヲ施スノ必要アルニ因レリ  
執達吏カ執行委任ヲ受クルコトヲ拒ミ又ハ委任ニ從ヒ執行行為ヲ實施スルコトヲ拒ミ又ハ執達吏ノ計算セシ手数料ニ付キ異議アルトキモ亦裁判所之ヲ裁判スヘキモノト定メタルハ是レ前ト同一ノ理由ニ依リタルモノナレハ茲ニ説明セズ



第五百四十五條 判決ニ因リテ確定シタル請求ニ關スル債權者ノ異議ハ訴ヲ以テ第一審ノ受訴裁判所ニ之ヲ主張ス可シ  
 右ノ異論ハ此法律ノ規定ニ從ヒ遅クトモ異議ヲ主張スルコトヲ要スル口頭辯論ノ終結後ニ其原因ヲ生シ且故障ヲ以テ之ヲ主張スルコトヲ得サルトキニ限り之ヲ許ス  
 債權者カ數箇ノ異議ヲ有スルトキハ同時ニ之ヲ主張スルコトヲ要ス

(解) 判決ニ因リテ確定シタル請求ニ對シテ異議ヲ爲スハ一見奇怪ナルカ如キモ又必ラス之レナシト云フヘカラス即チ債務消滅ノ證ヲ後日ニ至リ發見スルカ如キ是ナリ故ニ之ニ付救済ノ道ヲ與ヘ置クニ必要ナリ而シテ其必要トハ既之レナリ此訴ハ第一裁審判所ニ之ヲ爲シ該裁判所ノ判決ヲ爲スヘキモノト定メタルハ此ノ異議ハ本案ト同一ナレハナリ  
 然レモ此訴ハ一ノ制限アルヲ必要トスルカ故ニ第二項ハ口頭辯論ノ終結後ト其原因ヲ生シ且故障ヲ以テ之ヲ主張スルコトヲ得サルトキニ限り許スヘキモノトセリ若シ夫確定シタル判決ニ異議ヲ許ストセハ執行ヲ避ケントスル債權者ハ常ニ此異議ヲ主張シテ執行ヲ遅延スルカ如キ結果ヲ生ス故ニ此制限ノ必要アリ  
 又債務者カ數ケノ異議ヲ有スルトキハ同時ニ爲スヘキモノトセルハ執行ノ遅延ヲ恐ル、カ爲メナリ

第五百四十六條 前條ノ規定ハ第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ノ場合ニ於テ債務者カ執行文付與ノ際證明シタリト認めラレタル事實ノ到來ニシテ此ニ因リ判決ノ執行ヲ爲シ得ヘキモノヲ爭ヒ又ハ認めラレタル承繼ヲ爭フトキハ亦之ヲ準用ス但此場合ニ於テ第五百二十二條ノ規定ニ從ヒ執行文ノ付與ニ對シ異議ヲ申立ツル債權者ノ權ハ此カ爲ニ妨ケラルルコト無シ

(解) 第五百十八條第二項ハ判決ノ執行ニシテ或ル條件ニ際ル場合ニ於テハ條件ヲ履行シタルトシテ證明スルニアラサレハ執行力アル正本ヲ附與スルヲ得ストセリ此場合ニ於テ債權者ハ其事ヲ證明シテ正本ヲ求めテ之ヲ以テ強制執行ヲナサントスル債權者ニ於テハ會テ此ノトヲ與リ知ラサル爲メ異議ヲ申立ツルカ如キ又第五百十九條ハ執行力アル正本ハ債權者及債務者ノ爲メノミナラス承繼人ニ對シテモ效力アルヲ以テ時ニ承繼人ニアラサルモノニ對シテ執行ヲ爲スニアラントシテ恐レ承繼人ト認めラレタルモノヨリ異議ヲ爲サシムルトセリ  
 又第五百二十二條ハ本條ノ爲メニ妨ケラル、トナシト定メタルハ一ハ該條ニ從ヒ異議ヲナシ一ハ本條ニヨリ既チ起スモ爭フ處界ナル爲メ彼是兩立スルモ不都合ナシ

第五十四十七條 強制執行ノ續行ハ前二條ノ場合ニ於ケル異議ノ訴ノ提起ニ因リテ妨ケラルコト無シ



然レトモ異議ノ爲メ主張シタル事情カ法律上理由アリト見エ且事實上ノ點ニ付キ説明アリタルトキハ受訴裁判所ハ申立ニ因リ判決ヲ爲スニ至ルマテ保證ヲ立テシメ若クハ之ヲ立テシメスシテ強制執行ヲ停止ス可キコトヲ命シ又ハ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ續行ス可キコトヲ命シ又ハ其爲シタル執行處分ヲ保證ヲ立テシメテ取消ス可キヲ命スルコトヲ得

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲シ又急迫ナル場合ニ於テハ裁判長之ヲ爲スコトヲ得

急迫ナル場合ニ於テハ執行裁判所モ亦此權利ヲ行使スルコトヲ得此場合ニ於テハ執行裁判所ハ受訴裁判所ノ裁判ヲ提出セシムル爲ニ相當ノ期間ヲ定ム可シ此期間ヲ徒過シタルトキハ債權者ノ申立ニ因リ強制執行ヲ續行ス

(解) 本條一項ハ強制執行ハ異議ノタメ續行スルヲ妨サル旨ヲ明ニセリ元來異議ハ往々執行ヲ停止スルコトアルヲ以テ注意的ニ規定シタルニ過キス

然レトモ其異議ハ法律上理由アリ且事實上ノ點ニ付キ其事狀ヲ説明シタルトキハ執行ヲ停止スルヲ以テ債務者ノ利益トス此ノ場合ニ於テハ受訴裁判所ハ其點ニ付キ判決ヲ爲スニ至ル迄保證ヲ立テシメ又ハ保證ヲ立テシメスシテ強制執行ヲ停止スヘキコトヲ命スルコトアリ此取舍ハ一ニ裁判所ノ適宜ニシテ裁判所ニ於テ事狀又ハ債權者債務者ノ位置ニヨリ此處分ヲ爲スヘキモノナリ

又執行者ノ續行及ヒ取消ト場合ニハ必ス債權者ヲシテ保證ヲ立テシムヘキモノト定メタルハ其異議正當ト認めラレタル後ナルカ故ナリ又爲シタル執行處分ヲ保證ヲ立テシメテ取消ス可キ者トセルハ其取消シタル執行處分ヲ回復セシメサルヘカラサルコトアルトキハ爲メニ債權者ニ測ルヘカラサル損害ヲ加フルコトアレハナリ

第三項ハ事簡明ニシテ迅速ニ終了セシムルノ注意ニ外ナラス

第四項ハ事狀切迫シ便宜上ナサシムルコトヲ得ルコトニテ本來ヨリ云ヘハ受訴裁判所ニ於テ裁判ヲ受クルハ本則ナルモ此場合ニ於テハ執行裁判所ハ受訴裁判所ノ裁判ヲ爲サシムル爲メ相當ノ期間ヲ定メ若シ期間ヲ徒過シタルトキハ債權者ノ申立ニヨリ執行ヲ續行スヘシト定メタルハ若シ何レノ時ニテモ異議ヲ主張シ得ルトセハ確定期ナク實ニ不都合ナレハナリ

第五百四十八條 受訴裁判所ハ異議ノ訴ニ付キ裁判スル判決ニ於テ前條ニ掲ケタル命ヲ發シ又ハ既ニ發シタル命ヲ取消シ之ヲ變更シ若クハ之ヲ認可スルコトヲ得



判決中前條ニ掲クル事項ニ限リ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲ス可シ

右裁判ニ對スル不服ニ付テハ第五百十一條ノ規定ヲ準用ス

(解) 受訴裁判所ニ於テ異議ヲ受理シタルトキハ適當ノ判決ヲ與ヘサルヘカラス即チ前條ニ掲ケタル命令ヲ發シ又ハ既ニ發シタル命令ヲ取消シ又ハ變更シ若クハ之ヲ認可スルコトヲ得トシテメタルハ異議申立ノ後其判決ノ前ニ於テ執行ニ關スル處分ハ假リノ處分ナレハ異議ニ付キ判決ヲ與フルト共ニ之ニ關スル決定ヲ與フルハ至當ト云フヘキナリ

又第二項ハ執行ノ停止續行取消變更認可ノ一ニシテ此事項ニ付テハ職權上假執行ノ宣言ヲ付スヘキモノト定メタリ之レ此事項以外ニハ宣言スルコトヲ得ストノ意タリ第三項ハ別ニ説明ヲ要セスシテ明了ナレハ略ス

第五百四十九條 第三者カ強制執行ノ目的物ニ付キ所有權ヲ主張シ其他目的物ノ引渡若クハ引渡ヲ妨クル權利ヲ主張スルトキハ訴ヲ以テ債權者ニ對シ其強制執行ニ對スル異議ヲ主張シ又債務者ニ於テ其異議ヲ正當ナリトセサルトキハ債權者及ヒ債務者ニ對シテ之ヲ主張ス可シ

右訴ノ債權者及ヒ債務者ニ對シテ起ストキハ之ヲ共同被告ト爲ス右訴ハ執行裁判所ノ管轄ニ屬ス然レトモ訴訟物カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ執行裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ管轄ス

強制執行ノ停止及ヒ既ニ爲シタル執行處分ノ取消ニ付テハ第五百七十條及ヒ第五百四十八條ノ規定ヲ準用ス但執行處分ノ取消ハ保證ヲ立テシメスシテ之ヲ爲スコトヲ得

(解) 執達吏ノ執行行為ヲ爲スニ當リ債務者ノ財産ノ差押ヲ爲スハ常ナリ然ルニ債務者偶第三者ノ物ヲ預リ居ル場合ニ其預リタル物件ヲ差押ヘラレ終ニ競賣ニ付セラルトモハ第三者ノ迷惑少ナカラス故ニ此場合ニ於テハ第三者ハ訴ヲ以テ債權者ニ對シ強制執行ニ付キ異議ヲ主張シテ之ヲ排斥スルノ手段ヲ取ルハ當然ナリ然レモ時トシテハ當事者互ニ通謀シ第三者ノ物件ヲ差押フルコトアリ此場合ニハ當事者ヲ共同被告トシテ訴フルコトヲ許セシハ便宜ノ規定ト云フヘシ

又第三項ハ執行裁判所トシテハ區裁判所其職權ヲ行フハ本則ナルモ區裁判所ニシテ管轄權ナキハ執行裁判所所在地ヲ管轄スル地方裁判所トシタルハ元來執行ノ場合ニハ債務者ノ住所若クハ財産所在地等場合ニ因リテ異ナルカ故ニ一般ニ定メタル管轄ニ依ラスシテ執行裁判所ヲ管轄スル地方裁判所トセリ



次ニ未項ニ執行ノ停止及ヒ處分ヲ取消スルニ付テハ前二條ヲ適用スト二者ヲ區別シタルハ前ハ本人後ハ第三者ノ差ヨリ生シタルモノナリ

第五百五十條 強制執行ハ左ノ書類ヲ提出シタル場合ニ於テ之ヲ停止シ又ハ之ヲ制限ス可シ

- 第一 執行ス可キ判決若クハ其假執行ヲ取消ス旨又ハ強制執行ヲ許サスシテ宣言シ若クハ其停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル執行力アル裁判ノ正本
- 第二 執行又ハ執行處分ノ一時ノ停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル裁判ノ正本
- 第三 執行ヲ免カルル爲メ保證ヲ立テ又ハ依託ヲ爲シタル旨ヲ記載シタル公正ノ證明書
- 第四 執行ス可キ判決ノ後ニ債權者カ辨濟ヲ受ケ又ハ義務履行ノ猶豫ヲ承諾シル旨ヲ記載シタル證書

第三 執行ヲ免カルル爲メ保證ヲ立テ又ハ依託ヲ爲シタル旨ヲ記載シタル公正ノ證明書

第四 執行ス可キ判決ノ後ニ債權者カ辨濟ヲ受ケ又ハ義務履行ノ猶豫ヲ承諾シル旨ヲ記載シタル證書

(解) 強制執行ハ執行力アル正本ニ基キ執達吏之ヲ行フ者ナリト雖モ左ノ書類ノ提出シタル場合ニハ之ヲ停止又ハ制限スヘキモノトシテ第一乃至第四號ノ事項ヲ列記セリ一々説明スルヲ止メ今其大要ヲ陳ヘン即チ執行スヘキ判決執行取消、停止、保證金ヲ立テタル證明義務履行ノ猶豫書類等ヲ提出シタルトキニ於テ執行ノ取消、停止、又ハ執行ノ許可ヲ命スルハ要スルニ辯濟ヲ除ク外ハ一時ノ執行停止ナレハ執行力アル正本ノ効力ハ之カ爲メ影響ナキ故債務者ニシテ債務ヲ履行セサルトキハ再施スヘキハ差ヨリ妨ケサルナリ

第五百五十一條 前條第一號及ヒ第三號ノ場合ニ於テハ既ニ爲シタル執行處分ヲ一時保持セシム可シ

ル執行處分ヲ一時保持セシム可シ第四號ノ場合ニ於テハ既ニ爲シタル執行處分ヲ一時保持セシム可シ第二號ノ場合ニ於テハ其裁判ヲ以テ從前ノ執行行爲ノ取消ヲ命セサルトキニ限り既ニ爲シタル執行分ヲ一時保持セシム可シ

(解) 前條第一號及ヒ第三號ノ場合ニ於テハ既ニ爲シタル執行處分ヲ取消ストシタルハ之レ其執行ノ不要又ハ不當ナルヲ知り得ヘキヲ以テ之レカ取消ヲ命シタルナリ又第四號ノ場合ニ於テハ既ニ爲シタル執行處分ヲ一時保持セシムルハ受領證據豫證ニ付キ爭ヲ生スルトキハ之ヲ取消シタルタメ損害ヲ債權者ニ加フルカ如キトアルニ因リ處分ノ儘ニ爲シ置クヲ以テ便宜トスル爲メ此規定ノ必要アリ而シテ第二號ノ場合ニ於テハ裁判ヲ以テ從前ノ執行處分ノ取消ヲ命セサルトキニ限り執行行爲ヲ一時保持セシムルハ第四號ノ場合ニ同シク一時之ヲ處分ノ儘置クヲ便宜爲シタルニ因レリ



第五百五十二條 強制執行ノ開始後ニ債務者カ死亡スルトキハ強制執行ハ遺産ニ對シ之ヲ續行ス可シ

債務者ノ知ルコトヲ要スル執行行為ヲ實施スル場合ニ於テ相續人アラサルトキ又ハ相續人ノ所在明カナラサルトキハ執行裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ遺産又ハ相續人ノ爲メ特別代理人ヲ任ス可シ

(解) 債務者カ義務ノ履行ヲ爲サ、ルニ先テ死亡セシトキハ其遺産ニ對シテ強制執行ヲ爲スハ盡シ止ムヲ得サルナリ元來債務者死亡セハ相續人ハ其遺産ヲ取得スルモノナレハ債權者ハ其遺産ニ對シテ強制執行ヲ行ヘハ自然ノ順序ナリ

而シテ債務者ノ知ルコトヲ要スル執行行為トハ執達吏ハ此行為ヲ爲ス場合ニ立會ヲ要シ又ハ告知ヲ要スヘキ事柄ヲ云フ此等ノ場合ニ相續人アラサルカ又ハ所在不明ナル時ハ債權者ノ申立ニヨリ執行裁判所ハ特別代理人ヲ任シ此執行行為ヲ爲サシムヘキト定メタリ

第五百五十三條 強制執行ノ開始後ニ戸主タリシ債務者カ其地位ヲ辭シ又ハ之ヲ失ヒタルトキハ此變更ノ生セシ當時債務者ノ所持シタル財産ニ付キ前條ノ規定ヲ準用ス

(解) 債務者ハ強制執行開始後ニ戸主タル地位ヲ辭シ又ハ之ヲ失ヒタルヲ以テ其義務ヲ免ルヘキモノニアラス此場合ニハ身分ノ變更ヲ生シタル當時所持セシト財産ニ付キ前條ト同一ノ理由ニ依リ強制執行ヲ爲スヘキモノナリ

第五百五十四條 強制執行ノ費用ハ必要ナリシ部分ニ限り債務者ノ負擔ニ歸ス此費用ハ強制執行ヲ受クル請求ト同時ニ之ヲ取立ツ可シ

強制執行ノ基本タル判決ヲ廢棄若クハ破毀シタルトキハ其費用ハ之ヲ債務者ニ辨濟ス可シ

(解) 本條第一項ハ一證明ナリ第二項ハ強制執行ノ基本タル判決ヲ廢棄又ハ破毀シタルトキハ特リ其費用ノミナラス本案ノ請求物件モ返還セサルヘカラサレハ強制執行ノ費用ヲ債務者ニ辨濟スヘキハ議論ノナキ所ナリ

第五百五十五條 執行ノ爲メ官廳ノ援助ヲ必要トスルトキハ裁判所ハ其援助ヲ官廳ニ求ム可シ

(解) 本條ハ執行ノ爲メ官廳ノ救助ヲ求ムヘキト定メタルモノナリ

第五百五十六條 豫備後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人軍屬ニ對シ兵營及



ヒ軍事用廳舎又ハ軍艦ニ於テ強制執行ヲ爲ス可キトキハ債權者ノ申立ニ因リ執行裁判所ハ管轄ノ軍事裁判所又ハ所屬ノ長官又ハ隊長ニ囑託シテ之ヲ爲ス  
囑託ニ因リ差押ヘタル物ハ債權者ノ委任シタル執達吏ニ之ヲ交付ス可シ

(解) 執達吏ニシテ強制執行ヲ爲サシムレハ軍紀ヲ紊ルノ恐レアルカ故此場合ニハ債權者ノ申立ニ依リ執行裁判所ハ軍事裁判所又ハ所屬ノ長官又ハ隊長ニ囑託シテ爲サシムルトセリ而シテ囑託ニヨリ差押ヘタル物件ハ債權者ノ委任シタル執達吏ニ之ヲ交付スヘキモノトス

第五百五十七條 外國ニ於テ強制執行ヲ爲ス可キ場合ニ於テ其外國官廳カ本邦裁判所ニ法律上ノ共助ヲ爲ス可キトキハ債權者ノ申立ニ因リ第一審ノ受訴裁判所ハ之ヲ外國官廳ニ囑託ス可シ  
外國駐在ノ本邦領事ニ依リ強制執行ヲ爲シ得ヘキトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ之ヲ其領事ニ囑託ス可シ

(解) 本條ハ外國ニ在ル者ニ對シテ強制執行ヲ爲ス場合ヲ規定シタルモノナリ

第五百五十八條 強制執行ノ手續ニ於テ口頭辯論ヲ經スシテ爲スコトヲ得ル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

(解) 強制執行ノ手續ハ多クハ口頭辯論ヲ經サルモノ多シ此レヲ經サル裁決ニ對シテハ上訴ヲ許サ、ル代リニ即時抗告ヲ爲スヲ許シ以テ一般ノ場合ト權衡テ録セシメタリ

第五百五十九條 強制執行ハ左ノ諸件ニ付テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

第一 抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判

第二 抗行命令

第三 訴ノ提起後受訴裁判所ニ於テ又ハ受命判事若クハ受託判事ノ面前ニ於テ爲シタル和解

第四 第三百八十一條ノ規定ニ徒ヒ區裁判所ニ於テ爲シタル和解

第五 公證人カ其權限内ニ於テ成規ノ方式ニ依リ作りタル證書



但一定ノ金額ノ支拂又ハ他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ以テ目的トスル請求ニ付キ作リタル證書ニシテ直チニ強制執行ヲ受ク可キ旨ヲ記載シタルモノニ限ル

(解) 本條ハ確定ノ終局判決又ハ假執行ノ宣言ヲ付シタル判決ノ外ニ尚強制執行ヲ爲スル得ル場合ヲ定タリ  
(一) 抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判トハ其裁判ニ對シテハ控訴上告ヲ許サスシテ之ニ不服ナルモノハ抗告ヲ以テノミ異議ヲ爲シ得ル所ノ裁判ヲ云フ之本案ニ關係セサル所ノモノタルモ苟モ一ノ裁判トシテ決定シタルモノナレハ之ニ付シテ強制執行ヲ爲スハ不當ニアラサルナリ

(二) 執行命令トハ債務者ニ對シテ發シタル支拂命令ニシテ異議申立期間ヲ經過シタルニ付キ債權者ノ申立ニ依リ裁判所ハ假執行ノ宣言シタルヲ云フ  
(三)(四)(五)ノ場合ハ明丁ニシテ説明ヲ要セス  
此等ノ場合ニ到強制執行ヲ爲シ得ルハ至當ノ規定ト云フヘキナリ

第五百六十條 前條ニ掲ケタル債務名義ニ因レル強制執行ニハ第五百十六條乃至第五百五十八條ノ規定ヲ準用ス但第五百六十一條第五百六十二條ノ規定ニ依リ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

(解) 本條ハ第五百十六條以下第五百五十八條ノ規定ハ強制執行ヲ始ムルヨリ終ル等ノ手續トシテ前條ニ掲ケタル

債務名義ノ強制執行ニ準用スヘキ物トス是強制執行ヲ爲ス順序ハ異レモ既ニ強制執行ヲ始メタル上ハ其執行ノ上ニ於テ區別スヘキ理由ナシ然レモ第五百六十一條及ヒ第五百六十二條ノ規定ニ由リ差異ノ生スル格別也  
第五百六十一條 執行命令ニハ其命令ヲ發シタル後債權者又ハ債務者ニ於テ承繼アル場合ニ限リ執行文ヲ附記スルコトヲ要ス  
請求ニ關スル異議ハ執行命令ノ送達後ニ生シタル原因ニ基クトキニ限り之ヲ許ス

執行文付與ニ付テノ訴又ハ請求ニ關シ異議ヲ主張スル訴又ハ執行文付與ノ際到來シタリト認メタル承繼ヲ爭フ訴ハ執行命令ヲ發シタル區裁判所之ヲ管轄ス但其請求カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノナルトキハ管轄地方裁判所ニ其訴ヲ起ス可シ

(解) 執行命令ヲ發シタル後ニ於テ當事者ノ承繼アル場合ニハ執行文ノ附記ヲ要スルハ元來執行命令ハ債務者ニ對シ或ル手續ヲ盡シタル後ニ於テ付與セラルヘキモノニシテ普通ノ執行力アル正本ト異ナルニ依レリ  
第二項ヲ設ケタルハ是レ本案ノ裁判ニハ異議ナク確定ニ歸シ執行ニ至リ異議ヲ唱フルト同一ナル故若シ請求其物ニ付キ異議ヲ主張セントセハ其異議ノ原因執行命令ノ送達アリタル後ニ生シタルトキニ限ルコトナシタルナリ



第五百六十二條 公證人ノ作リタル證書ノ執行力アル正本ハ其證書ヲ保存スル公證人之ヲ付與ス

執行文付與ニ關スル異議ニ付テノ裁判及ヒ更ニ執行文付與ニ付テノ裁判ハ公證人職務上ノ住所ヲ有スル地ヲ管轄スル區裁判所ニ於テ之ヲ爲ス

請求ニ關スル異議ノ主張ニ付テハ第五百四十五條第二項ニ規定シタル制限ニ從ハス

執行文付與ニ付テノ訴又ハ請求ニ關シ異議ヲ主張スル訴又ハ執行文付與ノ際證明シタリト認メタル事實ノ到來ニ係リ此ニ因リテ證書ノ執行ヲ爲シ得ヘキモノヲ爭フ訴ハ債務者カ本邦ニ於テ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所又ハ此裁判所ナキハ第十七條ノ規定ニ

從ヒテ債務者ニ對シ訴ヲ起シ得ヘキ裁判所之ヲ管轄ス

(解) 本條ハ公證人カ執行文ヲ附與スルニ付テ第一項第二項ヲ設ケタルハ元來公證人ハ證書ノ原本ヲ所持スルカ故ニ或ル事狀ヲ調査シ其事務ノ關係ヲ知ルニ於テ大ニ便宜ナル爲メ公證人ニ執行文ノ附與ヲ許セリ第三項ハ請求ニ關スル異議ノ主張ニ付テハ第五百四十五條第二項ニ規定シタル制限ニ從ハストアルハ之ヲ制限スルノ必要ナキニ因レリ又第四項ハ第一項第二項ト同シク便宜上ヨリ管轄ヲ定メタルモノナリ

第五百六十三條 本編ニ定メタル裁判籍ハ專屬ナリトス

(解) 本編ノ裁判籍ヲ專屬トシタルハ總則ノ規定ニ從フニテ各條ニ定メタル所ヲ以テ管轄トスルノ意タルニ過キス而シテ專屬トハ訴訟關係人ノ合意ヲ以テ管轄ヲ左右セシメストノ主意タリ

第二章 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

第一節 動産ニ對スル強制執行

第一款 通則

第五百六十四條 動産ニ對スル強制執行ハ差押ヲ以テ之ヲ爲ス

差押ハ執行力アル正本ニ掲ケタル請求ヲ債權者ニ辨濟スル爲メ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フ爲ニ必要ナルモノノ外ニ及ホスコトヲ得



ス

差押フ可キ物ヲ換價スルモ強制執行ノ費用ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込ナキトキハ強制執行ヲ爲スコトヲ得ス

(解) 動産ニ對スル強制執行カ差押ヲ以テ爲スヘキモノナレトモ之ヲ以テ強制執行ヲ終リタルモノニアラス差押ハ之レカ端緒ニシテ其差押ヘタルモノヲ競賣シ其代價ヲ以テ債務ノ履行ヲ爲サシメ茲ニ始メテ其目的ヲ達シタルモノト云フ可シ而シテ差押ハ執行力アル正本ニ掲ケアル請求及ヒ其費用ヲ償フ爲メニ必要ナレハ其以外ニ及ホス一ヲ得ス從テ債務者ノ負ヒタル義務ノ程度モ執行力アル正本ノ命スル處ニ止ムヘキモノナリ而シテ差押フヘキモノヲ換價スルモ強制執行ヲ行フテ剩餘ヲ得ル見込ナキトキハ強制執行ヲ爲ス一ヲ得ス若シ此場合ニ強制執行ヲ爲サシムルハ是レ執行ノ本義ニ背クモノナレハナリ

第五百六十五條 第三者カ差押ヲ受ク可キ物ニ付物上ノ擔保權ヲ有スルモ差押ヲ妨クルコトヲ得ス然レトモ第五百四十九條ノ規定ニ從ヒ訴ヲ以テ賣得金ニ付キ優先ノ辨濟ヲ請求スル權利ハ此カ爲ニ妨ケラル、コト無シ

此場合ニ於テ請求ノ爲メ主張シタル事情カ法律上理由アリト見ヘ

且事實上ノ點ニ付キ説明アリタルトキハ裁判所ハ賣得金ノ供託ヲ命ス可シ但此事項ニ付テハ第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ヲ準用ス

(解) 動産ニシテ債務者ノ所持ニ在ルモノハ總テ其所有ト見做スヘキモノニシテ假令其物件ニ付キ擔保權ヲ有スルモノアリトスルモ之カ爲メ差押ヲ妨クル一ヲ得ス若シ夫レ此ノ場合ニ差押ヲ妨クル一ヲ得ルトセハ不良ノ債務者ハ常ニ其レヲ利用シテ債權者ヲ苦シマシムルカ如キ一アリテ不都合少カララス然レモ第五百四十九條ニ規定シアアルカ如ク訴ヲ以テ賣得金ニ付キ優先シテ辨濟ヲ求ムル權利ハ之レカ爲メニ妨ケラル、一ナキハ勿論ナリ蓋シ請求ニ付キ第三者ノ主張スル理由アリテ差押物件ニ付キ優先權アルモノト決定アリタルトキハ裁判所ハ便宜事ヲ處理スヘキモノナルモ第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ニ準用スヘキモノトセルハ最モ其當ヲ得タルモノト信スルナリ

第二款 有体動産ニ對スル強制執行

第五百六十六條 債務者ノ占有中ニ在ル有体動産ノ差押ハ執達吏其物ヲ占有シテ之ヲ爲ス

其物ハ債權者ノ承諾アルトキ又ハ其運搬ヲ爲スニ付キ重大ナル困難アルトキハ之ヲ債務者ノ保管ニ任ス可シ此場合ニ於テハ封印其



他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスルトキニ限リ其効力ヲ生ス  
執達吏ハ債務者ニ其差押ヲ爲シタルコトヲ通知ス可シ

(解) 債務者ノ占有中ニアル有体動産ノ差押ハ債權者其物ヲ占有シテ之ヲ爲スヘキモノナリ之レ動産ハ不動産ト異ナリ容易ニ其所持ヲ轉スルヲ得ルカ故占有ヲ以テ差押ヲ爲スニアラサレハ其目的ヲ達スルニ能ハス然レモ債權者ノ承諾アルトキ又ハ運搬ヲ爲スニ困難ナルトキハ之ヲ債務者ノ保管ニ任スルモ差支ナシ蓋シ債務者ニ保管ヲ命スルトスレハ差押ヲ爲サハルト同一ニシテ債務者ハ自由ニ其物件ヲ處分ヲ爲スルヲ得ルカ故此場合ニハ封印其他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明ニシテ始メテ差押ノ効アリト云フ可シ而シテ執達吏ハ債務者ニ其旨ヲ通知スヘキモノナリ

第五百六十七條 前條ノ規定ハ債權者又ハ物ノ提出ヲ拒マサル第三者ノ占有中ニ在ル物ノ差押ニ付テモ亦之ヲ準用ス

(解) 本條ハ債權者及ヒ第三者カ債務者ノ所有物ヲ占有シ其物ノ提出ヲ拒マサルトキ前條ノ規定ヲ準用スルハ要スルニ唯其所持者ヲ異ニスルニ止マリ等シク債務者ノ財産ニ付キ之ヲ行フタルヲ以テ彼是ノ區別段ノ規定ヲ設クルノ要ナキニ由レリ

第五百六十八條 果實ハ未タ土地ヨリ離レサル前ト雖モ之ヲ差押フルコトヲ得然レトモ其差押ハ通常ノ成熟時期ノ前一个月内ニ非サルハ之ヲ爲スコトヲ得ス

レハ之ヲ爲スコトヲ得ス  
蠶ハ其多分カ繭ヲ製造スル爲メ揚リ蠶ト爲リタル後ニ非サレハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

(解) 果實ハ土地ヨリ離レサル内ハ不動産ノ一部タルモ成熟ノ期ニ至レハ必ラス土地ト分離スヘキモノニシテ分離後ハ動産トナルカ故ニ本條ハ果實カ未タ土地ヨリ離レサル以前ト雖モ差押フルコトヲ得ル旨ヲ規定セリ然レモ其差押ハ通常ノ成熟期ノ前一个月内ニアラサレハ之ヲ爲スルヲ得ス之レ成熟期ニ至ラサル前ヨリ差押ヲ爲スカ如キハ培養ヲ怠リ果實ノ成熟ヲ得ル能ハサルニアリテ不都合ナルヲ以テ此制限ヲ設ケタリ是等ノ理由ヨリ蠶ノ如キモ差押ヲ爲スニハ繭ヲ製造スル爲メ揚リタル後ニアラサレハ差押ヲ爲サハルナリ

第五百六十九條 差押ノ効力ハ差押物ヨリ生スル天然ノ産出物ニモ當然及フモノトス

(解) 差押ノ効力ハ獨リ差押ヘタル物件ノミナラス其差押物ヨリ生スル天然ノ産出物ニモ當然及フモノトス即チ家畜ヲ差押ヘタルニ于テ生シタルトキハ其子ニ對シテハ別ニ差押ノ手續ヲ要セスシテ當然其効力ヲ及ボスヘキモノトス

第五百七十條 左ニ掲クル物ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第一 衣服、寢具、家具及ヒ厨具但此物カ債務者及ヒ其家族ノ爲メ欠



ク可カラサルトキニ限ル

第二 債務者及ヒ其家族ニ必要ナル一个月間ノ食料及薪炭

第三 技術者、職工、勞役者及ヒ穩婆ニ在テハ其營業上缺ク可ラカサル物

第四 農業者ニ在テハ其農業上缺ク可カラサル農具、家畜、肥料及ヒ次ノ收穫マテ農業ヲ續行スル爲メ欠ク可カラサル農産物

第五 文武ノ官吏、神職、僧侶、公立私立ノ教育場教師、辯護士、公證人及ヒ醫師ニ在テハ其職業ヲ執行スル爲メ欠ク可カラサル物并ニ身分相當ノ衣服

第六 文武ノ官吏、神職、僧侶及ヒ公立私立ノ教育場教師ニ在テハ第六百十八條ニ規定スル職務上ノ收入又ハ恩給ノ差押ヲ受ケサル金額但差押ヨリ次期ノ俸給又ハ恩給ノ支拂マテノ日數ニ應シテ

之ヲ計算ス

第七 藥舖ニ在テハ調藥ヲ爲ス爲メ缺クヘカラサル器具及ヒ藥品

第八 勳章及ヒ名譽ノ證標

第九 實印其他職業ニ必要ナル印

第十 神體、佛像其他禮拜ノ用ニ供スル物

第十一 系譜

第十二 債務者又ハ其家族ノ未タ公ニセサル發明ニ關スル物及ヒ債務者又ハ其家族ノ未タ公ニセサル著述ノ稿本

第十三 債務者及ヒ其家族カ學校ニ於テ使用ニ供スル書籍然レトモ債務者ノ承諾アルトキハ第三號乃至第八號ニ掲ケタル物ヲ除ク外之ヲ差押フルコトヲ得

(解) 本條ハ債務者ノ財産中差押フヘカラサル者ヲ掲ケタリ今大要ヲ陳ヘン



(解) 本條第一號乃至第十三號ニ掲ケアルハ債務者ノ財産中日常生活ニ必要品トシテ債務者ノ一身ニ取リテハ貴重ノ物タリト雖モ是ヲ差押フルモ價ナク債權利者ヲ利セシテ債務者ヲ苦シマシムルニ過キス此ハ社會ノ公安ヲ維持スルニ於テ反テ害アリ故ニ是等物件ニ對シテハ差押ヲ禁セリ然レモ債務者ノ承諾アルトキハ第三號乃至第八號ニ掲ケアル物ヲ除ク外ハ之ヲ差押フルヲ得トシタルハ前ニ云フ理由ナキニ因レリ

第七十一條 差押物保存ノ爲メ特別ノ處分ヲ必要トスルトキハ執達吏ハ適當ノ方法ヲ以テ之ヲ爲ス可シ若シ此カ爲ニ費用ヲ要スルトキハ債權者ヲシテ之ヲ豫納セシメ又債權者數名關係スルトキハ其要求額ノ割合ニ從ヒテ其各債權者ヨリ之ヲ豫納セシム可シ

(解) 執達吏ノ差押ヲ爲シタルモノ、中ニ器具ノ如キ穀類ノ如キ畜類ノ如キ種々ノ物アルヘシ執達吏ハ是等物件ニ付キ特別ノ處分ヲ必要トスヘキ物ハ各其性質ニ依リ處分セサルヘカラス穀類器具ノ如キハ保存セハ可ナルモ畜類ノ如キハ食餌ヲ與ヒ腐敗シ易シキ物ハ特別ノ處分ヲ爲スニアラサレハ差押ノ目的ヲ達スルヲ得ス而シテ其レカ保存ヲ爲スニ付費用ヲ要スルハ當然ナレハ債權者ヲシテ豫納セシムヘキトシタリ

第七十二條 執達吏ハ差押ヲ實施シタル後債權者又ハ裁判所ノ特別委任ヲ要セスシテ以下數條ノ規定ニ從ヒテ公ノ競賣方法ヲ以テ其差押物ヲ賣却ス可シ

(解) 強制執行ハ差押ヲ以テ終局セスシテ其差押ヘタル物件ヲ換價シテ義務ノ解消ヲ爲シ茲ニ初メテ其終局ヲ告グト云フ可シ故ニ執達吏ハ差押ヲ實施シタル後債權者又ハ裁判所ノ特別委任ヲ要セスシテ其差押物件ヲ公ノ競賣方法ヲ以テ賣却シ得タル代價ヲ以テ債權者ニ對スル義務ノ補償トナスヘキモノナリ而シテ其競賣ノ方法ハ本條以下數條ノ規定ニ從テ爲スヘキモノトセリ

第七十三條 競賣ス可キ物ノ中ニ高價ノモノ有ルトキハ執達吏ハ適當ナル鑑定人ヲシテ其評價ヲ爲サシム可シ

(解) 競賣ハ市場ノ價額ヨリ廉ナルハ普通ナリ然レモ高價ノモノヲ競賣ニ爲スハ債權者ノミナラス債權者ノ不利益ナレハ執達吏ハ此ノ如キ場合ニハ適當ナル鑑定人ヲシテ評價セシメ競賣價額ト眞價トノ相違セサルヲ期セシメンカ爲メ本條ヲ設ケタリ

第七十四條 差押金錢ハ之ヲ債權者ニ引渡ス可シ  
執達吏カ金錢ヲ取立テタルトキハ債權者ヨリ支拂ヲ爲シタルモノト看做ス但シ保護ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シテ執行ヲ免カルルコトヲ債權者ニ許シタルトキハ此限ニ在ラス

(解) 執達吏ハ債權者ノ依頼ニ依リ債務者ニ對シテ義務ノ履行ヲ強制スルモノナリ故ニ其結果トシテ物件ノ差



押ヲ爲シタルトキハ換價ノ手續ヲ爲シ金錢ヲ差押ヘタルトキハ債權者ニ引渡スヘキモノトス執達吏ニシテ金錢ヲ取立テタルトキハ之レ債務者ヨリ支拂ヲ爲シタルト同一ナリ然レモ若シ債務者カ保證シテ保證ヲ立テ執行ヲ免カル、トヲ得セシメ又ハ執行ヲ爲シテ執行ヲ免ル、トヲ得セシメタル場合ニハ其取立タル金錢ハ之ヲ債務者ニ返還スヘキナリ若シ然ラストセンカ一方ニ於テ執行ヲ免ル、トヲ得テ一方ニ於テ執行セラル、カ如キ前後抵觸ノ結果ヲ來タスカ故債務者ニシテ執行ヲ免レタルトキハ取立テラレタル金錢ノ返還ヲ受クルハ當然ノトナリ

第五百七十五條 差押ノ日ト競賣ノ日トノ間ニハ少ナクトモ七日ノ

時間ヲ存スルコトヲ要ス但差押債權者執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者及ヒ債務者カ競賣ヲ更ニ早ク爲サンコトヲ合意シタルトキ又ハ差押物ヲ永ク貯藏スルニ付キ不相應ノ費用若クハ其物ノ價格ノ著シク減少スル危害ヲ避ケン爲メ競賣ヲ早ク爲スコトノ必要ナルトキハ此限ニ在ラス

(解) 執達吏カ物件ノ差押ヲ爲シタルヨリ之ヲ競賣ニ附スルマテニハ少ナクトモ七日ノ期間ヲ存スルトキヲ要ストシタルハ債權者及ヒ債務者ノ利益ノ爲メニ設ケタルモノナリ然レトモ此利益ヲ得ルモノニシテ利益ノ放棄ヲ爲スカ又ハ只合意スルトキハ元ヨリ七日ノ時間ヲ設クルノ必要ナシ且又差押物ヲ永ク貯藏スルニハ不相應ナル費用又ハ其物件ノ價額ノ著シク減少スル危險アルトキモ亦七日ヲ俟テ要セス若シ然ラストセンカ其價格ニ影響

チ及ホシ損害ヲ招クニ至レリ

第五百七十六條 競賣ハ差押ヲ爲シタル市町村ニ於テ之ヲ爲ス但差

押債權者及ヒ債務者カ他ノ地ニ於テ爲スコトヲ合意シタルトキハ此限ニ在ラス

競賣ノ日時及ヒ場所ハ之ヲ公告ス但其公告ニハ競賣ス可キ物ヲ表示ス可シ

(解) 競賣ハ差押ヲ爲シタル市町村ニ於テ之ヲ爲スヘキモノト定メタルハ物件運搬等費用ヲ要セサルノ利益アルノミナラス物件所在地ハ其物件ニ付キ需用多ク從ツテ其價格ヲ貴カラシムルノ利益アル者ナレハナリ然レモ差押債權者及ヒ債務者カ他ノ地ニ於テ之ヲ爲スニ合意シタルトキハ之ニ從フコトヲ要セサルハ勿論ナリ而シテ競賣ヲ爲サントスルニハ其日時場所ヲ公告シ併セテ競賣物ノ表示ヲ爲スヘキモノナリ此表示ヲ爲スハ競賣ニ付キ必要ナルニヨレリ

第五百七十七條 最高價競買ノ爲メハ競落ハ其價額ヲ三回呼上ケタル後之ヲ爲ス

競落物ノ引渡ハ代金ト引換ヘ之ヲ爲ス



最高價競買人競賣條件ニ定メタル支拂期日又ハ其定ナキトキハ競賣期日ノ終ル前ニ代金ノ支拂ヲ爲シテ物ノ引渡ヲ求メサルトキハ更ニ其物ヲ競賃ス可シ此場合ニ於テハ前ノ最高價競買人ハ競賣ニ加ハルコトヲ得ス且再度ノ競落代價カ最初ノ競落代價ヨリ低キトキハ不足ヲ擔任ス可シ其高キトキハ剩餘ヲ請求スルコトヲ得ス

(解) 最高價競賣ノ爲メノ競落ハ其價格ヲ三回呼上ケタル後之ヲ爲スヘキモノトシタルハ之レ高價ノ呼聲ヲ聞カンカ爲メナリ若シ三回ニテ呼上ケテ爲スモ高價ノ呼聲ヲ聞カサルトキハ競落者ヲ定ムルコト、セリ  
 競賣一旦成立セハ最高價競買人ハ其代價ヲ支拂フヘク此代價支拂ハ特別ノ約束アレハ格別約束ナキニ於テハ競賣期日ノ終ル前ニ代金ノ支拂ヲ爲シテ物ノ引渡ヲ求メサルヘカラス若シ之レカ引渡ヲ求メサルトキハ更ニ其物ノ競賣ヲ爲スヘモノトス此場合ニ於テハ前ノ最高價競買人ハ競賣ニ加ハルヲ得セシメサルハ前ノ競賣ニ於テ約束ニ違ヒタルモノナルヲ以テ第二ノ競賣ニ加ハラシムルモ同一ノ結果ヲ生シテ手數ヲ煩ハスノミニテ何ノ效モナクレハナリ

次ニ再度ノ競落代價カ最初ノ代價ヨリ低キトキハ不足ヲ擔任スヘキモノトセルハ違約ノ結果トシテ負擔セシメラル、處ノ賠償タリ又高キトキハ剩餘金ハ請求スルヲ得サル競落關係ナキニ依レリ

第五百七十八條 競賣ハ賣得金ヲ以テ債權者ニ辨濟ヲ爲シ及ヒ強制

執行ノ費用ヲ償フニ足ルニ至ルトキハ直チニ之ヲ止ム可シ

(解) 競賣リ賣得金ヲ以テ債權者ニ辨濟ヲ爲シ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フニ足ルトキハ茲ニ強制執行ノ目的ヲ達シタルモノナレハ其上競賣ヲ繼續スベキ必要ナキ故茲ニ本條ニテ其關係ヲ明ニセリ

第五百七十九條 執達吏賣得金ヲ領收シタルトキハ債務者ヨリ支拂ヲ爲シタルモノト看做ス但保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シテ執行ヲ免カルルコトヲ債務者ニ許シルトキハ此限ニ在ラス

(解) 本條ハ第五百七十四條第二項ト同一ノ理由ナルヲ以テ説明セス

第五百八十條 金銀物ハ其金銀ノ實價ヨリ以下ニ競落スルコトヲ許サス其實價マテニ競買ヲ爲ス者ナキトキハ執達吏ハ金銀ノ實價ニ達スル價額ヲ以テ適宜ニ之ヲ賣却スルコトヲ得

(解) 金銀ハ一定ノ實價ヲ有ス從テ競賣ノ場合ニモ實價以下ニ競落セシムルコトヲ得ス若シ實價以下ニ競落セシムルトキハ債務者ノ不利益タルノミナラス併セテ債權者ノ不利益タルノミナラス併ヒテ債權者ノ不利益トスルナリ故ニ其實價迄ニ競買ナナスモノナキトキハ執達吏ハ金銀ノ實價ニ達スル價格ヲ以テ適宜賣却セシムルコトナシタルハ蓋シ至當ノ規定タリ元來競賣ハ該件賣却ニ付公平ヲ保タントスルニアリ然ルニ公平ニ保ツヲ得



スシテ反ツテ實價ヨリ低キトキハ競賣スヘキ理由アラサルナリ

第五百八十一條 執達吏有價證券ヲ差押ヘタルトキハ相場アルモノハ賣却日ノ相場ヲ以テ適宜ニ之ヲ賣却シ其相場ナキモノハ一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ競賣ス可シ

(解) 有價證券トハ手形公債證券諸株券ノ如キヲ云フ執達吏ハ此等有價證券ヲ差押ヘタルトキハ相場アルモノハ其相場ニ依リ適宜賣却シ競賣ノ方法ニ從フヲ要セス抑市場相場ハ公平ノ價格標準ニシテ債務者ニ損害ヲ加フルノ危険ナク故チ以テ執達吏ニ許スニ適宜賣買ヲ以テシタリ然レモ賣却日ノ相場ヲ以テ賣買スヘキモノトセルハ公平ヲ欲シタルニ外ナラス然シテ相場ナキモノニ付キテハ競賣ニ依ラシムルハ何レモ債務者ノ利益ヲ計リタルニ過キス

第五百八十二條 有價證券ノ記名ナルトキハ執行裁判所ハ買主ノ氏名ニ書換ヲ爲サシメ及ヒ此カ爲メ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リ爲ス權ヲ執達吏ニ與フルコトヲ得

(解) 有價證券記名ナルトキハ其氏名ヲ書換フルニアラサレハ之ヲ買受ケタル者ハ其權利ヲ行用スルヲ得ス故ニ買受タルモノニ名義ヲ書換ヘシムルノ必要アリ然シテ此レカ書換ヲ爲サシムルニ付テハ是レカ爲メ必要ナル陳

述ヲ債務者ニ代リテ爲ス權ヲ執達吏ニ與フルニアラサレハ完全ニ執行行爲ヲ爲スルヲ得若シテ全ニ爲スルヲ得サルハ之ヲ買受ケルモノナキニ至ルカ故ニ執行裁判所ハ書換ヲ爲サシムヘキヲ執達吏ニ與フルコトヲ得

第五百八十三條 無記名ノ證券ニシテ記名ニ又ハ他ノ方法ニ依リ流通ヲ止メタルモノナルトキハ執行裁判所ハ其流通回復ヲ爲サシメ及ヒ此カ爲メ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リテ爲ス權ヲ執達吏ニ與フルコトヲ得

(解) 無記名ノ證券ヲ記名ニ書換ヘ又ハ他ノ方法ニ依リ流通ヲ止メタルモノアルトキハ其記名證券ノ流通スルヲ得ス已ニ流通スルヲ得ストセハ證券ノ效力ヲ失フコトナルナリ如此ハ經濟上ノ不利益ナレハ執達吏ヲシテ之カ救済ヲ爲スヘキ方法ヲ請セシムルハ必要ナリ又後段是レカ爲メ必要ナル陳述トハ其無記名證券ノ流通上ニ付キ瑕疵ヲ除キ流通ヲ救活ナラシムル等ヲ云フ此等ノ權利ヲ執達吏ニ與フルハ執行裁判所ナリ

第五百八十四條 土地ヨリ離レサル前ニ差押ヘタル果實ノ競賣ハ其成熟ノ後始メテ之ヲ爲スコトヲ許ス執達吏ハ競賣ノ爲メ其收穫ヲ爲サシムル權利アリ  
差押ヘタル蠶ノ競賣ハ全ク繭ト爲リタル後始メテ之ヲ爲スコトヲ



許ス

(解) 土地ヨリ離レサル果實ヲ競賣スルニハ成熟ノ時期ニ至ラサレハ爲スヲ得スト規定シタルハ未タ成熟セサル果實ヲ賣却スルモ益スル所ナクシテ反テ債務者ヲ苦シマシムルノミナレハナリ登ノ如キモ亦然リ即チ購テ爲サ、ル證ヲ競賣スルハ至ク無益ノナレハ差押ヘタル登ノ競賣ハ至ク爾トナリタル後始メテ之ヲ爲スヲ得トセリ

第五百十五條 差押債權者、執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債

權者又ハ債務者ノ申立ニ因リ執行裁判所ハ前數條ノ規定ニ依ラス

他ノ方法又ハ他ノ場所ニ於テ差押物ノ賣却ヲ爲ス可キ旨又ハ執達

吏ニ依ラス他ノ者ヲシテ競賣ヲ爲サシム可キ旨ヲ命スルコトヲ得

(解) 競賣ハ賣却ノ公平ヲ保タンカ爲メノ方法ナリ然レモ差押債權者執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者又ハ債務者ハ此方法ヲ以テ不利益ト思量スル場合ニハ其旨ヲ執行裁判所ニ申立テ執行裁判所ニ於テ之ヲ適當ト爲ストキハ其方法ヲ變更スルコトナセリ

第五百八十六條 執達吏ハ既ニ差押ヘタル物ニ付キ他ノ債權者ノ爲

メ更ニ差押ノ手續ヲ爲スコトヲ得ス

執達吏ハ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ差押證書ノ閱覽ヲ求メテ物

ノ照査ヲ爲シ未タ差押ニ係ラサル物アルトキハ之ヲ差押ヘ既ニ差

押ヲ爲シタル執達吏ニ差押證書ヲ交付シ且總テノ差押物ヲ競賣ニ

付ス可キコトヲ求ム可シ若シ差押フ可キ物アラサルトキハ照査調

書ヲ作り既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ之ヲ交付ス可シ

前項ノ求ニ因リ執行ニ關スル債權者ノ委任ハ既ニ差押ヲ爲シタル

執達吏ニ法律上移轉ス

假差押ニ係ル物ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

(解) 執達吏ハ既ニ差押ヲ爲シタルトキハ其差押物ニ對シテハ他ノ債權者ノ爲メ更ニ差押ノ手續ヲ爲スヲ得ス之レ同一ノ物件ニ付キ二個ノ債權者ヲ生スルカ如キハ不都合ナルノミナラス元來差押ナルモノハ被差押者ヲシテ財產ノ處ヲ分ナサシムルニ在ルカ故同一ノ物件ニ對シテ更ニ二重ノ差押ヲナサシムルノ必要ナシ而シテ本條ハ差押ヲ受ケタル人ニ對シテ云フニアラスシテ物ニ對シテ云フ意ナレハ債務者ニシテ前ニ差押ヘラレタル外ニ財產ヲ所有スルトキハ未タ差押ヘラレサル物件ニ對シテハ差押ヲ爲スヲ得ルハ勿論ナリ然レモ其差押ヘラレタル外ニ債務者ノ所有財產有無不明ノ場合アリ此ノ場合ニハ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ差押證書ノ閱覽ヲ求メ債務者ノ財產ニ對照シタル結果債務者ノ財產ヲ發見シタルトキハ差押ヲ爲シテ差押證書ヲ前ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ交付シ且總テノ差押物ヲ競賣ニ付スヘキヲ求ムヘキモノトシタルハ是レヨリ以後ニ係ル手續ヲ合



一ニシテ同時ニ競賣ヲ爲シ費用日時等ヲ徒費セサル便宜アルニ由ルモノナリ又後ニ差押ヲ爲サントスル執達吏ニ於テ債務者ノ財産ヲ調査シ一モ差押フヘキ物アラサルトキハ照査調書ヲ作り是又既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ交付スヘキモノトセリ之レ債務者ノ財産中已ニ差押ヲ受ケタル物件ノ外差押フヘキ物ノ有無ヲ知ルノ必要アルノミナラス後ノ債權者ハ配當加入ヲ申込ムヘキ地位ニ立チヘキモノナレハ差押ヲ爲スヘキモノナキトハ他ノ方法ヲ以テ權利ヲ主張セサルヘカラス而シテ此權利ノ伸張ト云フハ即チ配當加入ナリ蓋シ此ノ手續ヲ要スルハ前ノ差押ハ或ル事狀ノ爲メ無効トナリタルトキハ執達吏ハ後ノ差押者ヲ以テ差押債權者ト見做シ別ニ其後ハ委任手續ヲ用ヒスシテ之カ爲メ其職務ヲ行フヘキモノナレハナリ  
未項ハ假差押ニ本條ヲ適用セサルハ假差押ハ債務者ヲシテ物件ヲ移轉セシメサルニアリテ競賣ニ付スルコトヲ得ルモノニアラス故ニ本條ヲ適用スルコトヲ得サルモノナリ

第五百八十七條 前條ニ掲ケタル物ノ照査手續ハ配當要求ノ効力ヲ生ストノコトヲ定メタリ元來物件生シ又既ニ爲シタル差押カ取消ト爲リタルトキハ差押ノ効力ヲ生

ス  
(解)本條ハ前條ニ掲ケタル物ノ照査手續ハ第二債權者ノメニ配當要求ノ効力ヲ生ストノコトヲ定メタリ元來物件照査ハ未タ差押ヲ受ケサル財産ノ有無ヲ調査スルモノナレハ是レ恰モ差押ヲ爲シタルト同一ナリ加之手數ヲ省クノ便宜ト前後債權者ノ權利ニ付キ異同ナカラシメント欲シタルニ外ナラス又同一ノ理由ヨリ若シ第一債權者ノ爲メニ差押ヘラレタル後其差押力或ル事狀ニ依リ取消サレタル場合ニ於テモ其照査手續ハ之ニ代リテ差押ヲ爲シタルト同一ノ效果ヲ生スルコトナルナリ

第五百八十八條 適當ナル期間經過スルモ執達吏競賣ヲ爲ササルトキハ差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者ハ一定ノ期間内ハ競賣ヲ爲ス可キコトヲ催告シ其催告ノ效アサルルトキハ相當ノ命令アラントヲ執行裁判所ニ申請スルコトヲ得

(解)本條ハ執達吏ニ於テ故ナク競賣ヲ爲サレル場合ニ於ケル關係ヲ規定シタリ  
抑モ執達吏ハ差押物ノ競賣ヲ爲スニハ少ナクモ七日ノ期間ヲ要スヘキモノナルコトハ前ニ説明セリ此期間ヲ經過セハ前後ノ事狀ニ注意シ相當ノ時期ニ於テ競賣スヘキモノナリ此相當ノ時期ト云フハ漠然トシテ捕捉スル所ナキカ如キモ執達吏カ競賣ヲ爲スニ付キ要スル準備必要ナル日時ヲ指シタルニ外ナラス然ルニ執達吏ニ於テ故ナク競賣ヲ爲サレルハ其差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ依リ配當ヲ要求スル債權者ハ一定ノ期間内ニ競賣ヲ爲スヘキコトヲ催告シ尚ホ其催告ニ應ゼサルトキハ債權者ハ執達吏ヲ監督スル裁判所ニ向ヒ其事狀ヲ陳ヘテ申請スルコトヲ得ト定メタルハ其裁判所ハ執達吏ヲ監督スル責任アルニ依レリ

第五百八十九條 民法ニ從ヒ配當ヲ要求シ得ヘキ債權者ハ執行力アル正本ニ因ラスシテ賣得金ノ配當ヲ要求スルコトヲ得

(解)本條ハ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當要求ノ權利アルモノニ關スル關係ヲ規定シタルモノナリ  
民法ニ從ヒ配當ヲ要求シ得ヘキ債權者トハ特別ノ原由ノ爲メ特別ノ保護ニ依リ或ル權利ニ付キ優先權ヲ行フコトヲ得



ヲ得ルモノヲ云フ故ニ此等ノモノハ執行力アル正本ニ依ラサルモ正本ヲ有スルモノト同一ニ賣得金ノ配當ヲ要求スルヲ得ヘキモノナリ蓋シ民法ニ於テ特別ノ權利ヲ有スル以上ハ其權利確實ナレハ執行力アル正本ニ依ラサルモ賣得金ノ配當ニ付キ要求スルヲ得ヘキナリ

第五百九十條 前條ノ配當要求ハ其原因ヲ開示シ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シ執達吏ニ之ヲ爲ス可シ

(解) 前條ノ規定ニ依リ配當要求ヲ爲サントスルモノハ其債權ヲ開示シテ要求ヲ爲サミルヘカラス若シ其原因等ヲ開示セスシテ要求ヲ爲スヲ得ルトセハ時ニ弊害ヲ生スルカ如キアレハナリ

次ニ配當要求ヲ爲ス債權者ハ執行裁判所ノ所在地ニ住居又ハ事務所ヲ有セサルトキハ假住所ヲ届出テシムルハ書類送達等ノ便宜少カラサルニ因ルモノナリ

第五百九十一條 第五百八十六條第二項及ヒ第五百九十條ノ場合ニ於テ執達吏ハ配當要求ノ有リタルコトヲ配當ニ與カル各債權者及ヒ債務者ニ通知ス可シ

執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者アルトキハ債

務者ハ執達吏ノ通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ其債權ヲ認諾スルヤ否ヤヲ執達吏ニ申立ツ可シ  
債權者カ認諾セサルコトヲ執達吏ヨリ通知アリタルトキハ債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債務者ニ對シ訴ヲ起シ其債權ヲ確定ス可シ

(解) 債權者ニ於テ已ニ物件ノ差押ヲ受ケ其後ニ至リ他ノ債權者ハ更ニ差押ヲ爲スヲ得ル旨ヲ第五百八十六條第二項ニ於テ規定シ又第五百九十條ニ於テハ特別ノ債權者ハ執行力アル正本ニ依ラスシテ配當加入ヲナシ得ル旨ヲ規定セリ是等兩條ニ依リ再差押又ハ配當加入アリタルトキハ執達吏ハ其旨ヲ配當ニ與ル各債權者及ヒ債務者ニ通知スヘキモノニシテ此通知ハ差押債權者ニ取リテ必要ノモノナリ何トナレハ此兩條ノ規定ニヨリ差押債權者ノ權利ニ重大ノ關係ヲ有スルヲ以テナリ  
執行力アル正本ニ依ラスシテ配當ヲ要求スル債權者アルキハ債務者ハ執達吏ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三日ノ期間内ニ其債權ヲ認諾スヘキ否ヤヲ執達吏ニ申立ヘキモノナリ之レ執行力アル正本ニヨラサル配當要求ハ確定判決ニ基キタルモノニアラサレハ其事實確實ト云フヘカラサルヲ以テ債務者ニ認諾ノ有無ヲ確ムル爲メニ此期間ヲ與ヘタリ若シ此期間ヲ徒過シタルトキハ債務者ハ配當要求ヲ認諾シタルモノト推測サル、ナリ然レトモ債務者ニシテ配當要求ヲ認諾セサルトキハ其旨ヲ執達吏ニ通知シ執達吏ハ更ニ認諾セサルヲ配當要求者ニ通知スヘク債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債務者ニ對シテ訴ヲ以テ其債權ノ確定ヲ請求セサルヘカラサ



第五百九十二條 配當ノ要求ハ競賣期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得

(解) 配當ノ要求ト競賣期日ノ終了後尙ホ爲スコトヲ得ルトセハ既ニ辯済ヲ爲シタル債權者ニ對シ之カ取戻ヲ爲スルヲ得サルニ至リ紛雜ヲ來スカ故ニ法律上一定ノ期間ヲ要スル所以ナリ

第五百九十三條 賣得金ヲ以テ配當ニ與カル各債權ヲ満足セシムルニ足ラサル場合ニ於テ債權者間ニ配當ノ協議調ハサルトキハ其賣得金ヲ供託ス可シ

數多ノ債權者ノ爲メ同時ニ金錢ヲ差押ヘタルトキ之ヲ以テ各債權者ヲ満足セシムルニ足ラサル者ヲ満足セシムルニ足ラサル場合ニ於テモ亦同シ

右ノ場合ニ於テ執達吏ハ其事情ヲ執行裁判所ニ届出ツ可ク其届書ニハ執行手續ニ關スル書類ヲ添付ス可シ

(解) 債權者間ニ配當ノ協議調ハサルトキハ結局之ヲ執行裁判所ニ其處分ヲ求ムルノ外ナシ此場合ニハ賣得金

ヲ供託シ其事情ノ確定スルヲ待テ配當ノ處分ヲ爲サハレハカラス

又數多ノ債權者ヨリ依頼ヲ受ケ同時ニ之レカ金錢ノ差押ヲ爲シ之ヲ以テ各債權者ヲ満足セシムルニ足ラサルキモ亦前項同シヲ供託ヲ爲スニアラサレハ差支ヲ生スルイアリ元來特別ノ債權者ノ依頼ニ依リ差押ヘタル金錢ハ直チニ辯済ト見做スヘク然レトモ辯済ト見做スハ金錢ノ差押ヲ爲シタルトキニ限ルモノナリ

右ノ場合ニ於テハ執達吏ハ其車狀ヲ執行裁判所ニ届出ツヘキイテ決定メタルハ之レヨリ新ナル爭ヲ生スルヲ恐レタルニ依リテ其届出ニハ執行手續ニ關スル書類必要ナルヲ以テ右書類ニ添付スヘキモノトセリ

第三款 債權及ヒ他ノ財産權ニ對スル強制執行

第五百九十四條 第三者(第三債務者)ニ對スル債務者ノ債權ニシテ金錢ノ支拂又ハ他ノ有體物若クハ有價證券ノ引渡若クハ給付ヲ目的トスルモノノ強制執行ハ執行裁判所ノ差押命令ヲ以テ之ヲ爲ス

(解) 差押ヲ受クヘキ債務者カ第三者ニ對シ債權ヲ有スル場合ノ強制執行ハ執行裁判所ノ差押命令ヲ以テ之ヲ爲スヘキモノトス元來無體物産ハ目ニ見ヘ耳ニ觸サルモノナレハ差押ノ方法ヲ以テ差押フルヲ得ス是レ有體物産ト其性質ヲ異ニスルヨリ生スル自然ノ結果ナリ

而シテ一般ノ場合ニハ強制執行ハ執達吏之ヲ爲スヘキモノナレトモ此場合ニハ其關係錯雜セルヲ以テ執行裁判所之ヲ爲スヘキモノトセリ是レ本條ノ規定アル所以ナリ

第五百九十五條 執行裁判所トシテハ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル



地ノ區裁判所若シ此區裁判所ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ對スル訴ヲ管轄スル區裁判所管轄權ヲ有ス

(解) 執行裁判所トハ強制執行ヲ爲ス裁判所ノ謂ニシテ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所ナリ然レモ債務者ニシテ内國ニ住所ヲ有セス即チ普通裁判籍ヲ有セサル債務者ニ在テハ財産所在地ヲ以テ管轄ト爲スヘキト第十七條ニ於テ規定セリ而シテ債權ニ付テハ第三債務者ノ住所ヲ以テ財産所在地ト看做スト雖モ債務者ニシテ普通裁判籍ヲ有セサルトキハ第三債務者ノ住所ヲ以テ所謂所在地トシ管轄ヲ定ムヘキモノナリ

第五百九十六條 債權者ハ差押命令ノ申請ニ差押フ可キ債權ノ種類及ヒ數額ヲ開示ス可シ  
右申請ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

(解) 債權者ハ差押命令ノ申請ニ差押フヘキ債權ノ種類及ヒ數額ヲ明カニシ即チ債務者ガ何人ニ對シ如何ナル理由ニ依リ幾何ノ債權ヲ有スルコトヲ開陳シ之ニ對シテ自己ノ權利ヲ行ハンコトヲ申請セサルヘカラス若シ然ラサルトキハ差押命令スル能ハサルニ至ルヘシ是レ債權者ヲシテ此手續ヲ盡スノ責アリト定メタル所以ナリ而シテ此差押命令タルヤ債權者ノ申請ニ依リ執行裁判所ニ於テ與フルモノニシテ債權者トハ第一債權者ノ謂ニシテ強制執行ヲ受クル債務者モ第三債務者ヨリ云ヘハ債權者ナルモ茲ニ所謂債權者ニアラサルナリ  
次ニ之カ申請ヲ爲スニハ書面口頭何レニテモ差支ナシ之レ即チ債權者ヨリ執行裁判所ヘ其關係ヲ申告スル手續

ニ過キサレハナリ

第五百九十七條 差押命令ハ豫メ第三債務者及ヒ債務者ノ審訊ヲ經スシテ之ヲ發ス

(解) 強制執行モノノ裁判ナルカ故一應其關係ニ付キ取調ヲ爲スハ至當ナリ然レモ其關係ヲ取調フルカ爲メ時日ヲ費ストキハ債權者ハ其目的ヲ達スルコトヲ得サルノ危險アリ此危險ヲ防カントスルニハ豫メ取調ヲ爲サスシテ差押命令ヲ發スルコト必要ナリ蓋シ第三債務者ニ於テ義務ヲ有セサルトキハ何時ニテモ之レカ取消ヲ爲シ得ヘキヲ以テ其命令ノ爲メニ損害ヲ受クルコトナシ故ニ差押命令ハ豫メ第三債務者及ヒ債權者ヲ審訊セスシテ之ヲ發スルコトヲ得トシタリ

第五百九十八條 金錢ノ債權ヲ差押フ可キトキハ裁判所ハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁シ又債務者ニ對シ債權ノ處分殊ニ其取立ヲ爲スコカラサルコトヲ命ス可シ  
差押命令ハ職權ヲ以テ第三債務者及ヒ債務者ニ之ヲ送達シ又債權者ニハ其送達シタル旨ヲ通知ス可シ  
差押ハ第三債務者ニ對スル送達ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス



(解) 債務者ニ於テ第三者ニ對シ金錢ノ債權ヲ有スルトキハ執行裁判所ハ第三債務者ニ對シテ債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁シ又債務者ニ對シテハ債權ノ處分殊ニ取立ヲ爲スヘカラサルコト命スヘキモノトセリ是レ權利ナルモノハ無形ニシテ差押ノ方法ナキヲ以テ一方ハ支拂ヲ禁シ一方ニ請取ルヲ禁セサルニ於テハ差押ハ效力ヲ奏スルヲ得サルヲ以テ斯ル方法ヲ設ケタルモノナリ

而シテ差押命令ハ第三債務者及ヒ債務者ニ其命令ヲ送達セハ直チニ效力ヲ有スルヲ以テ債權者ニハ送達セル旨ヲ通知セサルヘカラス  
如此ニシテ差押ノ效果ヲ奏スルモノナレハ其後ニ至リ第三者カ債務者ニ支拂ヲ爲スモ無効ナリ

第五百九十九條 抵當アル債權ノ差押ノ場合ニ於テハ債權者ハ債務

者ノ承諾ヲ要セスシテ其債權ノ差押ヲ登記簿ニ記入スル權利アリ  
此記入ノ申請ハ裁判所ニ之ヲ爲ス可シ其申請ハ差押命令ノ申請ト之ヲ併合スルコトヲ得

裁判所ハ義務ヲ負擔スル不動産ノ所有者(第三債務者)ニ差押命令ヲ送達シタル後記入ノ手續ヲ爲ス可シ

(解) 抵當アル債權ヲ差押タル場合ニ於テ債權者ハ債務者ノ承諾ヲ要セスシテ其債權ノ差押ヲ登記簿ニ記入スル權利アリトシタルハ之レ債務者ノ承諾ヲ要スルトセハ強制執行ニアラスシテ強制執行ハ實ニ債務者承諾ノ有

無ニ拘ハラス之ヲ行フニアリ

此記入ノ申請ヲ爲スニハ裁判所ニ向テ爲スヘキモノニシテ裁判所ハ申請ニ基キ之レカ記入ヲ爲スヘキモノトス而シテ其申請ハ差押命令ノ申請ト併合シテ爲スニ得トセルハ其目的同一ニシテ之レカ爲メニ特別ノ申請ヲ爲スノ必要ナキニ依ル

裁判所ニ於テ之カ記入ヲ爲スニハ義務ヲ負フタル不動産ノ所有者タル第三債務者ニ差押命令ヲ送達シタル後爲スヘキモノトシタルハ其債務ハ或ハ已ニ消滅ニ歸シ登記ノ取消ヲ以テ足レルカ如キ狀況ナルヤモ知ルヘカラサルハ之カ送達ヲ爲シテ抵當權ノ現存スル否ヤヲ調ヘ始メテ記入スヘキモノトセルハ蓋シ至當ナリ

第六百條 差押ヘタル金錢ノ債權ニ付テハ差押債權者ノ選擇ニ從ヒ

代位ノ手續ヲ要セスシテ之ヲ取立ツル爲メ又ハ支拂ニ換ヘ券面額ニテ差押債權者ニ之ヲ轉付スル爲メ命令アラシコトヲ申請スルコトヲ得

右命令ノ送達ニ付テハ第五百九十八條第二項ノ規定ヲ準用ス

(解) 差押ヘタル金錢ノ債權ニ付テハ差押債權者ノ選擇ニ依リ左ノ二方法中何レニ依ルモ隨意ナリ  
(一) 差押債權者ハ代位ノ手續ニ依ラスシテ之ヲ取立ツルコトハ差押債權者ヨリ直ニ第三債務者ニ向フテ取立ヲ爲シ得ルヲ命スルヲ云フ故ニ差押債權者ハ其權利ヲ以テ債務ノ取立ヲ爲シ得ヘキヲ以テ之ヨリ取立タル金錢ハ辯濟ニ充ツヘキモノニシテ取立テ能ハサル部分ハ依然債務者ノ債務トシテ殘存セリ



(二)差押債権者ハ取立ヲナサスシテ差押債権ヲ券面額ニテ支拂ニ代ヘ之ニ自己ニ引受クルトハ恰モ債権ノ讓受  
ケナリ即チ券面額ヲ以テ債権者ハ引受ケタルトナルカ故券面額ハ義務ノ履行ニ代リテ其券面ノ全額ハ債務  
者ヨリ支拂ヲ受ケタルト同一ニ歸スルモノナリ

此二個ノ方法ハ債権者ノ好ム處ニ隨ヒ之ヲ擇ミ之カ命令ヲ付與セント裁判所ニ申請スヘキモノトス此命令  
ノ送達ニテハ第五百九十八條第二項ノ手續ヲ準用スヘキモノナリ

第六百一條 支拂ニ換ヘ券面額ニテ債権ヲ轉付スル命令アル場合ニ  
於テハ其債権ノ存スル限リハ第五百九十八條第二項ノ手續ヲ爲ス  
ニ因リ債権者ハ債権ノ辨濟ヲ爲シタルモノト看做ス

(解) 支拂ニ換ヘ券面額ニテ債権ヲ轉付スル命令アリタルトキハ債務者ハ債権者ニ對シ辨濟ヲ爲シタルト同一  
ナルトハ前條ノ說明ニテ明了ナルニ拘ハラズ殊ニ本條ヲ設ケタルハ其效果發生ノ時期ヲ知ルニ於テ必要アリ本  
條未段ハ效果發生ノ時期ヲ定メテ第五百九十八條第二項ノ手續ヲ盡シタルトキトセリ此時期ハ尤モ必要ニシテ  
若シ此效果發生前ニ第三債務者ニ對スル權利消滅スルトキハ其損失ハ債務者ノ負擔ニ歸シ後ニ消滅セス債権者  
ノ損害ニ歸スヘキ關係ヲ有スレハナリ

第六百二條 取立ノ爲メノ命令ハ其債権ノ全額ニ及フモノトス但執  
行裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ差押債権者ヲ審訊シテ差押額ヲ其

債権者ノ要求額マテニ制限シ其超過スル額ノ處分殊ニ取立ヲ爲ス  
コトヲ得其制限シタル部分ニ限リ他ノ債権者ハ配當要求ヲ爲スコ  
トヲ得ス

右許可ハ第三債権者及ヒ債務者ニ通知ス可シ

(解) 債権者ノ申請ニ依リ裁判所ヨリ第三債務者ニ對シテ取立命令ヲ發シタルハ其金額ニ及フモノトス然レ  
トモ債権者カ要求スル金額ハ債務者カ第三者ニ對シ有スル金額ヨリ少額ニシテ債権者ヲシテ全部ノ取立ヲ爲サ  
シム危險ナルトキハ其債権者ノ要求迄ニ制限シ其超過スル部分ニ付テハ取立ヲ爲スヲ許サ、ルノ必要アルトキ  
ハ執行裁判所ハ債務者ノ申立ニ依リ差押債権者ヲ取調ヘタル後差押額ヲ債権者ノ要求額マテニ制限シ此制限シ  
タル部分ニ付テハ債務者ヨリ支拂ヲ爲シタルモノト見做シテ他ノ債権者ヲシテ配當要求ヲ爲スヲ得サルモノ  
ト爲スニアラサレハ他ノ債権者ノ配當要求ヲ申込ミタルトキハ之ニ應セサルヘカラサルコト、ナリ錯雜ヲ極  
メ不都合ナカラス然レモ其超過スル額ノ處分殊ニ其取立ヲ爲スニ付テ不都合ナキ限リニ許スモ差支ナカルヘシ  
第二項ニ於テ右許可ハ第三債務者及ヒ債権者ニ通知スヘシト定メタルハ義務ノ支拂ヲ爲スニ付キ何レニ幾何ナ  
支拂フヤ之ヲ知ル必要アルノミナラス且其債権者ニ至リテハ自テ權利ヲ行フヘキ區域ヲ知ルニ於テ欠クヘカラ  
サルヲ以テナリ

第六百三條 手形其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ニ因レル  
債権ノ差押ハ執達吏其證券ヲ占有シテ之ヲ爲ス



(解) 手形其ノ他ノ裏書ヲ以テ移轉スルヲ得ル證券ニ依レル債權ノ差押ハ其證券ヲ占有シテ之ヲ爲スヘキモノトシタルハ元來手形、切手其他裏書ヲ以テ流通スヘキ性質ノ證券ニ至リテハ其證券ヲ所持スルニアラサレハ債務者ハ義務ノ履行ヲ爲スヘキモノニアラス是レ一般ノ債權差押ト異ナル所ナリ

第六百四條 俸給又ハ此ニ類スル繼續收入ノ債權ノ差押ハ債權額ヲ限トシ差押後ニ收入ス可キ金額ニ及フモノトス

(解) 俸給恩給年金ノ如キ年々又ハ月々收入セル繼續收入ノ債權ノ差押ハ其債權額ヲ限リ其後收入スヘキ金額ニ及フモノトシタルハ差押ハ債權金額ヲ辯濟セハ消滅スヘク而シテ第六百十八條ノ制限ニ從フヘキハ勿論ナルモ若シ其制限ニ從ヒ債權消滅サルトキハ其後收入スヘキ金額ニ及フモノトナシタリ

第六百五條 職務上收入ノ差押ハ債務者ノ轉官兼任又ハ増俸ニ因ル収入ニモ亦及フモノトス

(解) 職務上收入ノ債權差押ニ付テハ債務者ノ轉任等ノ一アリタル爲メ差押ノ効力ヲ變セストシタルハ便宜上手續ヲ省略シタルナリ又兼官轉官又ハ増俸ノ場合モ前同ノ理由ヨリ差押ノ効力アリトスルニ付テハ本條ノ如キ特定ノ規定ヲ要セズ

第六百六條 債務者ハ債權ニ關スル所持ノ證券ヲ差押債權者ニ引渡ス義務アリ債權者ハ差押命令ニ基キ強制執行ノ方法ヲ以テ其證券

ヲ債務者ヨリ取上ケシムルコトヲ得

(解) 執達吏ハ債權ニ關スル證券即チ第三債務者ヨリ差出セル證券ヲ所持シタルトキハ差押債權者ニ引渡ス義務アリ押債權ハ證書ヲ以テ之ヲ證明スヘキモノナレハ債權ニ付キ強制執行ヲ命セラレタルトキハ基本タル證明書ヲ引渡スヘキハ勿論ナリ然レハ債務者ノ頑固ナル其證券ノ引渡ヲ拒ムトキハ債權者ハ差押命令ニ基キ強制執行ノ方法ヲ以テ其證券ヲ債務者ヨリ取上ケルニアラサレハ其目的ヲ達スルヲ得サルヲ以テナリ

第六百七條 第五百五條第二項ニ從ヒテ債務者ニ保證ヲ立テシメ又ハ供託ヲ爲サシメテ執行ヲ免カルルコトヲ許ス可キトキハ差押ヘタル金錢債權ニ付テハ取立ノ命令ノミヲ爲ス可シ但此命令ハ第三債務者ヲシテ債務額ヲ供託セシムル効力ノミヲ有ス

(解) 金錢ノ債權ヲ差押ヘタル場合ニ債務者カ保證ヲ立テ又ハ供託ヲナシテ執行ヲ免レタルトキハ差押ヘタル金錢債權ニ付テハ取立命令ノミヲ以テ爲スヘモノト定メタルハ之レ債權者ニ於テ債務者ノ有スル債權ヲ差押ヘ之レヲ取立ツルノ命令アレハ其命令ハ第三者タル債務者ヲシテ供託ヲナサシムルヲ得ルノミニテ其他ニ出ル能ハサレハナリ

第六百八條 債權者取立ヲ爲シタトキハ其旨ヲ執行裁判所ニ届出ツ可シ



(解) 本條ハ別ニ説明スル所ナシ

第六百九條 差押債權者ハ第三債務者ヲシテ差押命令ノ送達ヨリ七日ノ期間内ニ書面ヲ以テ左ノ陳述ヲ爲サシメンコトヲ裁判所ニ申立ツルコトヲ得

第一 債權ノ認諾ノ有無及ヒ其限度並ニ支拂ヲ爲ス意思ノ有無及ヒ其限度

第二 債權ニ付キ他ノ者ヨリ請求ノ有無及ヒ其種類

第三 債權カ既ニ他ノ債權者ヨリ差押ヘラレタルコトノ有無及ヒ其請求ノ種類

右ノ陳述ヲ求ムル催告ハ之ヲ送達證書ニ記載ス可シ第三債務者陳述ヲ怠リタルトキハ此ニ因リテ生スル損害ニ付キ其責ニ任ス

(解) 差押債權者ハ債權ノ差押ヘテ爲シタル場合ニ於テ第三債務者ヲシテ或ル事項ノ關係ヲ明ニスル爲メ差押命令ノ送達ヨリ七日ノ期間内ニ書面ヲ以テ左ノ陳述ヲ爲サシメンコトヲ裁判所ニ申立ツルコトヲ得ルトセリ

(一) 第三債務者ハ債務者ヨリ債務ヲ有スルヤ又ハ有セザリシヤ若シ有ストセハ其金額ハ支拂ニ爲スヤ否ヤ

(二) 債權ニ付キ他ノ者ヨリ請求アリタルヤ否ヤ若シアリタリトセハ其種類

(三) 債權カ他ノ債權者ヨリ差押ヘラレタルヤ否ヤ又其請求ノ種類等之レナリ

右ハ債權者ヨリ第三債務者ニ對シ陳述ヲ求ムル事項ナリ而シテ其陳述ヲ求ムル催告ハ送達證書ニ記シテ送達セサルヘカラス是レカ送達ヲ受ケタル第三債務者ハ之ニ答辯スヘキモノナリ若シ答辯セサルトキハ是レニ因リ生シタル損害ニ付キ責任ヲ負ハサルヘカラス

第六百十條 債權者カ命令ノ旨趣ニ基キ第三債務者ニ對シ訴ヲ起スニ至リタルトキハ一般ノ規定ニ從ヒテ管轄ヲ有スル裁判所ニ其訴ヲ起シ且債務者内國ニ在リテ住所ノ知レタルトキハ其訴訟ヲ之ニ告知ス可シ

(解) 本條ニ命令ノ旨趣ニ基キ云々トハ債權者ヨリ差押ノ事項ヲ告知シ之レカ履行ヲ求メタルニ拘ハラス第三債務者義務ヲ履行セサル故ニ此場合ニハ止ムヲ得ス訴ヲ以テ其事實ヲ確定スルヨリ外ナク又訴ヲ管轄スルハ一般ノ規定ニ從フハ當然ニシテ別ニ説明ヲ要セス然レモ債權者内國ニ在リテ住所ノ知レ居ルトキハ訴訟ノ告知ヲ爲スヘキモノトス是レ訴訟ニ參加スルノ自由ヲ得セシメ權利ノ伸張ヲサシムルニ外ナラス

第六百十一條 債權者カ取立ヲ爲ス可キ債權ノ行用ヲ怠リタルトキハ此カ爲メ債務者ニ生シタル損害ノ責ニ任ス



(解) 債権者ハ債権ノ取立ヲ怠リタル爲メニ生シタル損害ニ付テハ自ラ其責ニ任スヘキモノナリ取立ヲ怠ルトハ故ナク期限ニ請求セサルカ如キヲ云フ之レ自己ノ過失ニ對シテ自己ニ責任ノ期スルハ當然ノ結果タリ

第六百十二條 債権者ハ命令ニ因リ取立ノ爲メ取得シタル權利ヲ拋棄スルコトヲ得但此カ爲メ其請求ヲ害セラルルコト無シ

此拋棄ハ裁判所ニ届書ヲ差出シテ之ヲ爲ス但其謄本ハ第三債務者及ヒ債務者ニ之ヲ送達ス可シ

(解) 轉付命令ハ債権ノ讓渡ト同一ナル結果トシテ債務者ト第三債務者トノ關係消滅スルモ取立命令ハ唯債務者ニ代リテ其債権ヲ取立ツヘキ命令ニ過キスシテ之カ爲メニ債務者ノ有スル債権ニ變動ヲ及ボササルモノナリ如此取立命令ハ債権ノ基本ニ變更ナシ本條ニ取立ノ爲メ取得シタル權利ト云フハ是レ基本タル權利ノ謂ニアラスシテ實ニ取立ノ權利ヲ云フ從テ此權利ヲ拋棄スルハ債権者ノ自由ニシテ之レヲ拋棄シタル爲メ請求權ヲ害セラレサルナリ而シテ拋棄ヲ爲スニハ裁判所ニ届書ヲ差出シテ之ヲ爲シ得ヘキモノトシタルハ他日ノ紛議ナカランガ爲メナリ又謄本ヲ第三債務者及債務者ニ送達スルハ拋棄ノ事實ヲ告知シテ第三債務者ニ支拂ヲナサシメサル等直接害ノ有ルニ依レリ

第六百十三條 差押ヘタル債権カ條件附若クハ有期ナルトキ又ハ反

對給付ニ繋リ若クハ他ノ理由其取立ノ困難ナルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ取立ニ換ヘ他ノ換價方法ヲ命スルコトヲ得債務者内國ニ在リテ住所ノ知レタルトキハ其申立ヲ許ス決定前ニ之ヲ審訊ス可シ

(解) 差押ヘタル債権カ條件附期又ハ反對給付等取立ノ困難ナル場合ニハ其困難ナルニモ拘ハラズ強テ取立ヲ爲サシムルハ理由ナキニシテ他ノ便宜ノ方法ヲ以テ換價スル途アラハ之レニ依ラシムルハ至當ナリ故ニ如此場合ニハ裁判所ハ申立ニ依リ取立ニ換ヘ他ノ換價方法ヲ命スルコトセリ

而シテ取立ノ困難ニシテ他ノ換價方法ニ依ラシムルハ債務者ニ利害ノ關係アルヲ以テ内國ニ居リテ住所ノ知レ居ルトキハ其申立ヲ許ス決定前ニ之ヲ審訊スヘキモノトセリ

第六百十四條 有體物ノ引渡又ハ給付ノ請求ニ對スル強制執行ハ以下數條ノ規定ヲ斟酌シテ第五百九十八條乃至第六百十二條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

(解) 有體物ノ引渡又ハ給付ノ請求ニ對スル權利ト一般ノ債權トハ同一ナリ故ニ此等ノ權利ヲ有スル債務ニ對シ強制執行ヲナサント欲セハ勢第五百九十八條乃至第六百十二條ノ規定ニ從テ爲サハルヘカラス然レモ元ト之レ金錢ノ債權トハ其目的ヲ異ニセルカ故ニ執行ノ方法ニ差異ヲ生スルハ免レサルナリ而シテ其方法ノ異ナルニ



付キテハ以下數條ニヨルヘキモノトセリ

第六百十五條 有體動産ノ請求ノ差押ニ付テハ其動産ヲ債權者ノ委任シタル執達吏ニ引渡スハ債權者ニ引渡シタル任シタル執達吏ニ引渡ス可キコトヲ命ス可シ

右動産ノ換價ニ付テハ差押物ノ換價ニ關スル規定ヲ適用ス

(解) 有體動産ノ請求權ヲ差押フルニ付テハ其動産ヲ債權者ノ委任シタル執達吏ニ引渡スハ債權者ニ引渡シタルト同一ナリ其特定ノ請求權ハ裁判上ノ命令ヲ以テ債務者ヨリ債權者ニ移リ以テ差押ノ効ヲ奏スルモノナリ而シテ動産ノ換價ニ付テハ差押物ニ關スル規定ヲ適用スルハ是レ又二者區別スヘキ必要ナキニ依ルモノナリ

第六百十六條 不動産ノ請求ノ差押ニ付テハ債權者ノ申立ニ因リ其不動産ヲ不動産所在地ノ區裁判所ヨリ命シタル保管人ニ引渡ス可キコトヲ命ス可シ

引渡シタル不動産ニ付テノ強制執行ハ不動産ニ對スル強制執行ニ付テノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

(解) 債權者ハ債務者カ第三債務者ニ對シ請求スル不動産上ノ權利ヲ差押ヘタルトキハ債權者ノ申立ニ依リ其不動産ヲ不動産所在地ノ區裁判所ヨリ命シタル保管人ニ引渡スヘキコトヲ命スヘシト定メタルハ不動産ニ付テ執

行裁判所ノミ強制執行ヲ爲スニ得テ執達吏ノ關係スヘキモノニアラサルカ爲メナリ

茲ニ注意スヘキハ本條ニ不動産ト云フモ不動産其者ヲ強制執行スルニアラスシテ單ニ不動産ニ對スル請求權ノ差押ト云フ一之レナリ從テ第二項ニ於テ引渡シタル不動産ニ付テノ強制執行ハ不動産ニ對スル強制執行ニ付テノ規定ニ從ヒテ之ヲナスト在ルヲ見テモ知ル可シ

第六百十七條 有體物ノ引渡又ハ給付ノ請求ニ付テハ支拂ニ換ヘ轉付スル命令ヲ爲スコトヲ得ス

(解) 有體物ノ引渡又ハ給付ノ請求權ヲ債權者ヨリ差押ヘラレタルトキハ支拂ニ換ヘ轉付スルノ命令ヲ爲スニ得サルハ蓋シ有體物ノ請求權ハ他ノ債權ト異ナリ品質數量等ヲ定ムルニ付キ困難ヲ生シ常ニ公平ヲ保ツニ得スシテ債權者債務者間ニ紛争ヲ増スニ過キサルヲ以テナリ

第六百十八條 左ニ掲グル債權ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第一 法律上ノ養料

第二 債務者カ義捐建設所ヨリ又ハ第三者ノ慈惠ニ因リ受クル繼續ノ收入但債務者及ヒ其家族ノ生活ノ爲メ必要ナルモノニ限ル

第三 下士兵卒ノ給料並ニ恩給及ヒ其遺族ノ扶助料



第四 出陣ノ軍隊又ハ役務ニ服シタル軍艦ノ乗組員ニ屬スル軍人、軍屬ノ職務上ノ收入

第五 文武ノ官吏神職、僧侶及ヒ公立私立ノ教育場教師ノ職務上ノ收入、恩給及ヒ其遺族ノ扶助料

第六 職工、勞役者又ハ雇人カ其勞力又ハ役務ノ爲ニ受クル報酬  
第一號、第五號、第六號ノ場合ニ於テ職務上ノ收入、恩給其他ノ收入カ一个年間ニ三百圓ヲ超過スルトキハ其超過額ノ半額ヲ差押フルコトヲ得

(解) 本條ハ債務者ノ有スル債權ニシテ差押フルコトヲ得サルモノヲ規定セリ今其大要ヲ左ニ略説スヘシ  
(一) 法律上ノ養料トハ親族關係ヨリ衣食スルコトヲ得サルモノニ對シテ扶助スルヲ云フ、(二) 債務者カ義務者又ハ第三者ノ慈悲ニヨリ受クル處ノ繼續ノ收入而シテ此繼續收入ト云フハ一時ノ收入ニ對スル語ニシテ一時ニ收入スヘキモノハ債權ト云フヲ得ス繼續シテ收入スルモノノ債權ナルハ繼續收入ニ付テノミ定メタリ第三號乃至第六號ハ明了ナルヲ以テ説明セズ  
要スルニ是等債務者ノ債權ニシテ差押ヲ許サ、ルハ公益上又ハ善良ナル風俗ヲ維持スルニ於テ又ハ債務者ノ身分上保護スルニ於テ必要ナルヨリ之レカ制限ヲ立テタルモノナリ若シ是等債權ノ差押ヲ許シテ債權者ヲ満足セ

シムルノ利益ハ差押ノ爲メニ生スル略害ヲ償フニ足ラサルヲ以テナリ然レトモ第一號第五號第六號ノ場合ニハ職務上ノ收入、恩給其他ノ收入カ一年ニ三百圓ヲ超過スルトキハ其超過額ノ半額ヲ差押フルコトヲ得ト規定セルハ之ヲ以テ一家經營スルニ足ルトノ推測ニ出ツルナリ

第六百十九條 數名ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲ス可キ債權ノ差押ニ付テハ前數條ノ規定ヲ準用ス

(解) 本條ハ數名ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲スヘキ差押ニ付テハ前數條ヲ適用スヘキコトヲ規定シタルニ過キサレハ別ニ説明ヲ要セス

第六百二十條 執行力アル正本ヲ有スル債權者及ヒ民法ニ從ヒ配當ノ要求ヲ爲シ得ヘキ債權者ハ差押債權者カ取立ヲ爲シ其旨ヲ執行  
裁判所ニ届出ツルマテ又ハ執達吏カ賣得金ヲ領收スルマテ配當ヲ要求スルコトヲ得但執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者ニ付テハ第五百九十條及ヒ第五百九十一條第二項第三項ノ規定ヲ適用ス

支拂ニ換ヘテノ轉付ノ命令アリタル後ハ配當ノ要求ヲ爲スコトヲ



得ス

右配當要求ハ職權ヲ以テ之ヲ第三債務者債務者及ヒ差押債權者ニ送達シ又既ニ爲シタル差押カ取消ト爲リタルトキハ執行力アル正本ニ因リ要求シタル債權者ノ爲メ要求ノ順序ニ因リ差押ノ效力ヲ生ス

(解) 本條ハ差押債權者以外ノ者ヨリ已ニ差押ヘタル債權ニ付配當加入ヲ爲ス時期及ヒ方法ヲ定メリ

即チ執行力アル正本ヲ有スル債權者民法ニ從ヒ配當加入ヲ爲シタル債權者ハ配當ノ要求ヲ爲スニハ差押債權者カ取立ヲ爲シ其旨ヲ執行裁判所ニ届出ルカ又ハ執達吏カ賣得金ヲ領收スル迄ニ爲スヘキモノトセリ若シ夫レ其以後迄配當ノ要求ヲ爲スニ得ルトセハ差押債權者ノ權利ヲ妨グルノミナラス裁判ノ落着キ遲延セシムルヲ以テナリ而シテ執行力アル正本ニ依ラスシテ配當ヲ要求スル債權者ニ就テハ第五百九十九條第五百九十一條第二項第三項ノ規定ヲ適用スヘキモノトシタルハ至當ナリ

支拂ニ代ヘテ轉付ノ命令アリタル後ハ配當ノ要求ヲ爲スニ得サルハ前ニモ陳ヘタルカ如ク轉付ノ命令ハ債權ノ讓渡ト同一ニシテ此命令ト共ニ義務ノ辨濟ト見ルカ故ナリ從テ配當要求ヲ許サザル所以ナリ

配當要求アリタルトキハ職權ヲ以テ之ヲ第三債務者及ヒ債務者差押債權者ニ送達セサルヘカラス又已ニ爲シタル差押カ取消トナリタルトキハ執行力アル正本ニ依リ要求シ得ル債權者ノ爲メ要求ノ順序ニ依リ差押ノ效力ヲ生スルモノトセリ是レ拾モ第五百八十八條ト同一ノ理由ニ於ケルモノニシテ從テ其效果モ異ナラサルナリ

第六百二十一條 金錢ノ債權ニ付キ配當要求ノ送達ヲ受ケタル第三債務者ハ債務額ヲ供託スル權利アリ

第三債務者ハ配當ニ與カル或ル債權者ノ求ニ因リ債務額ヲ供託スル義務アリ

第三債務者債務額ヲ供託シタルトキハ其事情ヲ裁判所ニ届出ツ可シ

(解) 差押債權者ノ爲メ差押ヲ受ケ又其後ニ他ノ債權者ヨリ配當加入アリタルトキハ第三債務者ハ何レニ幾何チ支拂フヘキヤ不明ナルノミナラス専断雜ニ渡ルカ故ニ此場合ニハ債務者チ供託シテ其煩雜ヲ避クルハ第三債務者ノ權利ナリ然レモ第三債務者ハ配當ニ預ル債務者ヨリ供託スヘキ求ヲ受ケタルトキハ必ラス供託スルノ義務アリ而シテ債務額ヲ供託シタルトキハ其旨ヲ裁判所ニ届出ツヘキモノトシタルハ其供託セシ金額ノ成行ヲ知難キニ依ルナリ

第六百二十二條 請求カ不動産ニ關スルトキハ第三債務者ハ其不動産所在地ノ區裁判所カ差押債權者又ハ第三債務者ノ申立ニ因リ命シタル保管人ニ事情ヲ開示シ且送達セラレタル命令ヲ添ヘ其不動



産ヲ引渡ス權利ヲ有シ又ハ差押債權者ノ求ニ因リ之ヲ引渡ス義務アリ

(解) 第三債務者ニ對シ差押ヲ爲シタル請求カ不動産ニ關スル場合ニ於テハ其不動産所在地ノ區裁判所ハ差押債權者又ハ第三債務者ノ申立ニ依リ保管人ニ其不動産ヲ引渡スヘキモノナリ而シテ保管人ニ引渡スニハ事狀ヲ開示シ且送達セラレタル命令書ヲ附スヘキモノトス是レ前條ノ供託ト同一ノ理由ニシテ不動産ニ係ル故ニ本條ヲ設ケタルニ過キス

第六百二十三條 第三債務者カ取立手續ニ對シテ義務ヲ履行セサルトキハ差押債權者ハ訴ヲ以テ之ヲ履行セシムルコトヲ得

執行力アル正本ヲ有スル各債權者ハ共同訴訟人トシテ原告ニ加ハル權利アリ

訴ヲ受ケタル第三債務者ハ原告ニ加ハラサル債權者ヲ共同訴訟人トシテ呼出アランコトヲ口頭辯論ノ第一期日マテニ申立ツルコトヲ得

右ノ場合ニ於ケル裁判ハ呼出ヲ受ケタル債權者ニ利害ヲ及ホス効力アリ

(解) 第三債務者ニシテ債務ヲ認メナカラ其義務ヲ履行セサルトキハ差押債權者ハ訴ヲ以テ之ヲ履行セシメサルヘカラサルハ勢ヒ不得止ナリ而シテ執行力アル正本ヲ有スル各債權者ハ共同訴訟人トシテ原告ニ加ルヘキ者ナリ蓋シ此債權ノ請求ニシテ満足ナル結果ヲ得ルト否トハ各債權者ニ大ナル關係アルカ故ニ訴ヲ受ケタル第三債務者ハ告知ニ加ハラサル債權者ヲ共同訴訟人トシテ呼出アランコトヲ口頭辯論ノ第一期日マテニ申出ヘシ然レモ各債權者ハ之ニ應スルノ義務ナシト雖此場合ニ於ケル裁判ハ呼出ヲ受ケタル債務者ハ利害ヲ及ホス効力アリ

第六百二十四條 差押債權者取立手續ヲ怠リタルトキハ執行力アル正本ニ因リ要求シタル各債權者ハ一定ノ期間内ニ取立ヲ爲ス可キコトヲ催告シ其催告ノ効アラサルトキハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ自ラ取立ヲ爲スコトヲ得

(解) 差押債權者ニ於テ取立ヲ怠リタルヲ以テ他ノ執行力アル正本ニ因リ配當要求ヲナシタル各債權者ハ損害ヲ受クヘキモノニアラス故ニ此場合ニ於テハ各債權者ハ一定ノ期間内ニ取立ヲ爲スヘキコトヲ催告スヘキモノナリ差押債權者此催告ヲ受ケ尙ホ緩慢ニ付シ去リ之カ取立ヲナササルトキハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ自ラ取立ヲ爲シ得ルコト定メタルハ各債權者ニ満足ヲ與フルニ外ナラス

第六百二十五條 不動産ヲ目的トセス又前數條ニ掲ケタル以テノ財



產權ニ對スル強制執行ニ付テハ本款ノ規定ヲ準用ス  
 若シ第三債務者ナキトキハ差押ハ債務者ニ權利ノ處分ヲ禁スル命  
 令ヲ送達シタル日時ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス  
 右ノ場合ニ於テハ裁判所ハ特別ノ處分殊ニ其權利ノ管理若クハ讓  
 渡ヲ命スルコトヲ得

不動産ヲ目的トセス又前數條ニ揚ケタル以外ノ財産權ニ對スル強制執行ニ付テハ本款ノ規定ニ依ルヘキモノト  
 セリ  
 而シテ其規定以外ノ財産權ヲ差押フル場合ニ於テ所謂第三者タル債務者ノ存セサル即チ假令特許、意匠權利ノ  
 如キ權利ヲ差押フルハニシテ此場合ニ於ル差押ハ第五百九十四條以下前條ニ至ル迄ノ規定ニ依ルヲ得ス故此  
 場合ノ差押ハ債務者ニ權利ノ處分ヲ禁スル命令ヲ送達シタル日時ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト本條第二項ニ規定  
 シタル所以ナリ  
 次ニ右ノ場合ニ於テハ裁判所ハ特別ノ處分殊ニ其權利ノ管理若クハ讓渡ヲ爲スルヲ得ト規定セルハ差押ノ効  
 ナ完カラムルニ外ナラス若シ單ニ權利ノ所分ヲ禁スルモ債務者ニシテ隠セサニ於テハ危險ナルカ故ニ是レカ規  
 定ヲ爲シテ其危險ヲ豫防シタリ

### 第四款配當手續

第六百二十六條 配當手續ハ動産ニ對スル強制執行ニ際シ競賣期日  
 又ハ金錢差押ノ日ヨリ十四日ノ期間内ニ債權者間ノ協議調ハサル  
 爲メ金額ヲ供託シタルトキ之ヲ爲ス

(解) 動産ニ對スル強制執行ノ結果トシテ金錢ノ差押ヲ爲シ又ハ競賣ヲ終リタル後數人ノ債權者間ニ配當ヲ爲  
 スニハ競賣期日又ハ金錢差押ノ日ヨリ十四日ノ期間内ニ協議ノ調ハサル爲メ金額ヲ分配シタルトキ之ヲ爲スト  
 セリ抑配當ハ數人ノ債權者ハ自己ノ要求ニ付債務者ヨリ差押ヲ爲シタル金額ノ分額ヲ受クルニアリテ若シ各債  
 權者ニシテ協議ノ上分配ヲ爲シタルトキハ配當手續ノ必要アラサルナリ本條ハ其關係ヲ明ニシタルニ過キス

第六百二十七條 裁判所ハ事情届書ニ基キ七日ノ期間内ニ元金、利息  
 費用其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ差出ス可キ旨ヲ各債權者ニ催告ス可シ

(解) 配當手續ハ各債權者ノ要求額ヲ標準トシテ之ヲナスモノナレハ其要求額ノ計算書ヲ出サシムルハ必要ナ  
 リ故ニ裁判所ハ事情届書ニ基キ七日ノ期間内ニ元金、利息費用其他債權ノ計算書ヲ差出スヘキ旨ヲ各債權者ニ催  
 告スヘキモノトセリ而シテ裁判所ハ七日ノ期間内ニ差出セル計算書ニ付キ調査ヲ遂ケ配當ヲナスヘキモノナリ  
 第六百二十八條 前條ノ期間滿了後裁判所ハ配當表ヲ作ル可シ

右期間ヲ遵守セサル債權者ノ債權ハ配當表ヲ作ルニ際シ配當要求  
 並ニ届書ノ旨趣及ヒ其憑據書類ニ依リ之ヲ計算ス但後ニ債權額ヲ



補充スルコトヲ許サス

(解) 裁判所ハ前條ニ定メタル七日ノ期間満了後ニ於テ各債權者ヨリ差出セル計算書ニ基キ配當表ヲ作ルモノナリ而シテ此期間内ニ計算書ヲ差出サザル債權者ノ債權ニ付テハ配當表ヲ作ルニ際シ配當要求届書ノ主趣及ヒ其證書類ニ依リテ計算スヘキモノトス若シ此配當ニ不服アルモ是レ計算書ヲ差出サザル損失ヨリ出テタルモノナレハ後ニ至リテ債權額ノ補充ヲ許サ、ル損失者ハ保護セストノ主意ニ外ナラス

第六百二十九條

裁判所ハ配當表ニ關スル陳述及ヒ配當實施ノ爲メ

期日ヲ指定シ其期日ニハ各債權者及ヒ債務者ヲ呼出ス可シ但債務

者ノ所在明カナラサルトキ又ハ外國ニ在ルトキハ呼出ヲ爲スコト

ヲ要セス

配當表ハ各債權者及ヒ債務者ニ閱覽セシムル爲メ遅クトモ期日ノ

三日前ニ裁判所書記課ニ之ヲ備置クヘシ

(解) 裁判所ハ配當實施スルニ付テハ債權者及ヒ債務者ニ對シ陳述ヲナサシムノ必要屢起ルアリ故ニ一定ノ期日ヲ定メテ各債權者及ヒ債務者ヲ呼出スヘキモノトセリ然レモ債權者ノ所在明カナラサルカ又ハ外國ニ在ルトキハ呼出サントスルモ得ス此場合ニハ呼出サ、ルモ配當ヲ爲スニ付得トシタルハ各債權者ヲ保護スル上ニ

於テハ止テ得サルナリ

而シテ利害ノ關係ヲ有スルモノハ配當表ヲ閱覽スルニアラサレハ配當計算ニ付陳述ヲ爲スニ付得サルヲ以テ配當表ニ各債權者及ヒ債務者ニ閱覽セシムル爲メ遅クトモ期日ノ三日前ニ裁判所書記課ニ備置クニトセリ

第六百三十條

期日ニ於テ異議ノ申立ナキトキハ配當表ニ從ヒテ其

配當ヲ實施ス可シ

停止條件付ノ債權ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託シ民法ニ從ヒテ條件ノ

成否ニ依リ後ニ之ヲ支拂ヒ又ハ更ニ配當ス可シ

第五百九十一條第三項ノ場合又ハ假差押ノ場合ニ於テ未タ確定セ

サル債權其他異議アル債權ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託ス可シ

配當實施ニ付テハ調書ヲ作ル可シ

(解) 裁判所ヨリ配當實施ヲ通知シ其期日ニ至リ異議ヲ申立ツルモノナキハ配當表ニヨリ配當實施ヲ爲スヘキモノナリ然レモ停止條件付ノ債權ノ如キ其成否未タ明ラカナラサル債權ハ配當ヲ爲スニ付得ヘシ實施スルニ付得ルトセハ一旦配當セシ金額ヲ取戻シタルヲ得サル等種々ノ弊害ヲ生スルカ故ニ此場合ニハ其レヲ供託スルカ又ハ民法ニ從ヒテ條件ノ成否ニナリタル後ニ又ハ更ニ配當スヘキトセリ

又配當要求書ヲ提出シタル債權ニ付債務者力之レヲ認めサルトキ又ハ未タ確定セサル債權其他異議アル債權ノ



配當ヲ爲スヘキ場合ニモ是等ノ債權ハ正當ナルヤ否ヤ確定セサルモノナレハ之ニ向テ配當ヲ爲ス能ハサルヤ明ナリ此場合モ其權利ノ確定スル迄之ヲ供託スヘキモノトセリ又末項ニ配當實施ニ付テハ調書ヲ作ルヘシトシタルハ配當事項ハ各利害關係ノ權利ニ影響ヲ及ホスヘキモノナル故之ヲ調書ニ記載シテ其事項ヲ明カナラシムル旨趣ニ出テタルニ外ナラス

第六百三十一條

異議ノ申立アルトキハ他ノ債權者ハ直チニ陳述ヲ爲ス可シ若シ關係人異議ヲ正當ナリト認ムルトキ又ハ他ノ方法ニ於テ合意スルトキハ之ニ從ヒ配當表ヲ更正シ配當ヲ實施ス可シ異議ノ完結セザルトキハ異議ナキ部分ニ限リ配當ヲ實施ス可シ

(解) 配當ヲ實施スルニ當リ異議ノ申立アルトキハ他ノ債權者ハ其異議ニ對シ陳述シ其ノ結果關係人ニ於テ異議ヲ正當ト認ムルトキハ申立人ノ求ムル處ニ從ヒ更正セサルヘカラス又異議ハ認メサルモ他ノ方法ヨリ各債權者間ノ協議纏リタル片ハ其協議ニ從ヒ配當スヘキモノナリ然レモ若シ其異議ニ付協議纏ラスシテ其事項完結セザルトキハ配當實施ヲナスコトヲ得ザル故ニ異議ナキ部分ニ付配當ノ實施ヲナスヘキナリ

第六百三十二條

期日ニ出頭セザル債權者ハ配當表ノ實施ニ同意シタルモノト看做ス若シ期日ニ出頭セザル債權者カ他ノ債權者ヨリ申立テタル異議ニ

關係ヲ有スルトキハ其債權者ハ異議ヲ正當ナリト認メサルモノト看做ス

(解) 配當期日ニ出頭セザル債權者ハ配當表ノ實施ニ同意シタルモノト看做スハ之レ配當實施ニ付キ期日ノ通知ヲ受ケナカラ出頭セサルモノナレハ配當實施ニ同意ト見ルハ至當ナリ若シ異議アレハ期日ニ出頭シテ之カ陳述ヲ爲スヘキモノナレハ也  
第二項ハ第一項ノ例外ナリ元來同一關係ヲ有セル債權者ニシテ一ハ出頭シタル爲メ配當實施ニ同意セサルモノト認メラレ一ハ同意者ト認メラル、理由ナク必ラスヤ其關係同一ナラサルヘカラス好シ出頭シタル債權者ニ於テ異議ノ主張ニ合意シタルモ出頭セザル債權者ハ如何ナル思想ヲ有スルヤ知ルヘカラスレハ異議ヲ正當ナリト認メサルモノト見做スハ適當ナリ

第六百三十三條

期日ニ於テ異議ノ完結セザルトキハ異議ヲ申立テタル債權者ハ他ノ債權者ニ對シ訴ヲ起シタルコトヲ期日ヨリ七日ノ期間内ニ裁判所ニ證明ス可シ若シ其期間ヲ徒過シタル後ハ裁判所ハ異議ニ拘ハラヌ配當ノ實施ヲ命ス可シ

(解) 配當實施ノ期日ニ於テ異議ノ爲メ配當實施カ完結セザルトキハ異議ヲ申立タル債權者ハ他ノ債權者ニ對シテ訴ヲ起シタルコトヲ配當實施ノ期日ヨリ七日ノ期間内ニ裁判所ニ證明セサルヘカラス之レ執行裁判所ハ其證



明アリタルトキハ裁判ノ結果ノ分明スル迄中止セサルヘカラスレハナリ然レモ七日ノ期間内ニ訴ヲ起シタルトキハ證明セシテ其期間ヲ徒過シタルトキハ裁判所ハ異議ニ拘ハラズ配當ノ實施ヲ爲スヘキモノナリ

第六百三十四條 異議ヲ申立テタル債權者前條ノ期間ヲ怠リタルト

キト雖モ配當表ニ從ヒテ配當ヲ受ケタル債權者ニ對シ訴ヲ以テ優先權ヲ主張スル權利ハ配當實施ノ爲メ妨ケラルルコト無シ

(解) 一般ノ觀念ヨリ云ヘハ異議ヲ申立タル債權者ハ前條ノ期間ヲ怠リタルトキハ其權利伸張ノ途ヲ失フヘキモノナルモ民法ノ規定ニヨリ特別ノ保護ヲ受クル優先權者ニシテ優先權ヲ原由トシテ之ヲ主張スルモノナキトキハ又特別ニ保護ヲ受クル利益ナカルヘカラス若シ夫レ然ラストセンカ優先權ノ實ヲ失フニ至ル故ニ此場合ハ配當實施後ト雖モ各債權者ニ對シ優先權ヲ以テ主張スルトキハ其期間ノ徒過ハ出訴ヲ妨グルコト得ストシタル所以ナリ

第六百三十五條 異議ヲ申立テタル債權者ノ訴ニ付テハ配當裁判所

之ヲ管轄ス然レトモ訴訟物カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ其配當裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ管轄ス若シ數箇ノ訴ヲ提起アリタル場合ニ於テ一ノ訴ヲ地方裁判所カ管轄スルトキ

ハ其他ノ訴ヲモ亦之ヲ管轄ス但各債權者總テノ異議ニ付キ配當裁判所ノ裁判ヲ受ク可キコトヲ合意シタルトキハ此限ニ在ラス

(解) 各債權者同ノ調和成ラスシテ訴ヲ以テ異議ヲ申立タルトキハ配當裁判所之ヲ管轄スヘキモノトセリ之レ配當裁判所ハ配當ノ事柄ニ付キ取調上便宜少カラサルヲ以テナリ而シテ配當裁判所ハ執行裁判所ト同一ナリ唯配當ヲ爲スニ付キ配當裁判所ト唱フルノミニテ執行裁判所トハ前ニ謂フ處ノ債務者ノ住所又ハ財産所在地ノ區裁判所ヲ云フ然レモ訴訟物カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ其配當裁判所ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ管轄スル尚ホ數箇ノ訴ヲ提起アリタル場合ニ於テ一ノ訴ヲ以テ地方裁判所カ管轄スルトキハ其他ノ訴モ亦之ヲ管轄スト定メタルハ地方裁判所ハ上級ナル故配當裁判所ノ管轄スヘキ事物ヲ管轄スルモ之カタメ不利益ナキニヨレリ但各債權者總テノ異議ニ付配當裁判所ノ裁判ヲ受クヘキコトヲ合意シタルトキハ其合意ニ從フヘキハ勿論タリ

第六百三十六條 異議ニ付キ裁判ヲ爲ス判決ニハ配當額ノ係爭部分

ヲ如何ナル債權者ニ如何ナル數額ヲ以テ支拂フ可キヤヲ定ム可シ若シ之ヲ定ムルコトヲ適當トセサルトキハ判決ニ於テ新ナル配當表ノ調製及ヒ他ノ配當手續ヲ命ス可シ

(解) 異議ノ訴ニ付キ判決ヲ下スニハ配當額ノ係爭部分ヲ如何ナル債權者ニ如何ナル數額ヲ支拂フヘキヤヲ定ム可シトハ別ニ説明セシテ明ナリ後段ハ若シ之ヲ定ムルコトヲ適當トセサルトキハ其配當表錯雜ニ涉リ誤謬ヲ



ルカ故ニ先ノ配當表ヲ廢毀シ更ニ配當表ヲ作ルヘキト及ヒ其他ノ配當手續ヲ命スヘキトヲ明ニシタルニ過キス  
第六百三十七條 異議ヲ申立テタル債權者カ口頭辯論ノ期日ニ出頭  
セサルトキハ異議ヲ取下ケタルモノト看做ス旨ノ闕席判決ヲ爲ス  
可シ

〔解〕 本條ハ異議ヲ申立テタル債權者ノ欠席シタルトノ關係ヲ規定シタルモノナリ

第六百三十八條 前二條ノ判決確定ノ證明アルトキハ配當裁判所ハ  
其判決ニ基キ支拂又ハ他ノ配當手續ヲ命ス

〔解〕 前二條ノ判決確定ノ證明アリタル時ハ配當裁判所ハ其裁判ニ基キ異議ノ申立ノ却下ヲ命スルカ又ハ異議  
ヲ正當ト認メテ配當方法ニ付キ判決ヲ與フルカ又ハ異議ヲ取下ケタルモノト見做ス等ノ其確定判決ニ基キ判決  
ヲ執行スヘキモノトス

第六百三十九條 裁判所ハ配當表ニ依リテ左ノ手續ヲ爲シ配當ヲ實  
施ス可シ

債權全部ノ配當ヲ受ク可キ債權者ニハ配當額支拂證ヲ交付スル

同時ニ其所持スル執行力アル正本又ハ債權ノ證書ヲ差出サシメ之  
ヲ債務者ニ交付ス可シ債權一分ノミノ配當ヲ受ク可キ債權者ニハ  
執行力アル正本又ハ債權ノ證書ヲ差出サシメ之ニ配當額ヲ記入シ  
テ返還且配當額支拂證ヲ交付スルト同時ニ右債權者ヨリ金額ヲ證  
記シタル受取書ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交付ス可シ  
期日ニ出頭セサル債權者ノ配當額ハ仍ホ之ヲ依託ス可シ  
右ノ手續ヲ爲シタルトキハ調書ニ記載シテ之ヲ明確ニス可シ

〔解〕 本條ハ配當實施ノ終極ノ方法ヲ定メタルモノナリ

即チ配當表ノ定ムル處ニ依リ債權全部ノ配當ヲ受クヘキ債權者ニハ配當額支拂證ヲ交付スルト同時ニ其所持ス  
ル執行力アル正本又ハ債權ノ證書ヲ差出サシメ債務者ニ交付スヘキモノトシタルハ之ヲ還付セシメテ債務者ニ  
交付スル片ハ辯濟ノ證トナリ全部ノ配當ヲ受クルニ能ハスシテ一分ノミ受クル債權ニハ執行力アル正本又ハ債  
權證書ヲ差出サシメ之ニ配當額ヲ記入シテ返還シ且配當額支拂證ヲ交付スルト同時ニ右債權者ヨリ金額ヲ證記  
シタル受取書ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交付スヘキモノトス之レ全部ノ場合ニアラサルカ故ニ適當ノ規定々  
リ而シテ全部ノ配當ヲ受クルモノナルト一部ヲ受クルモノナルトナ問ハス期日ニ出頭セサル債權者ノ配當額ハ  
仍ホ之ヲ依託スヘキ者トセリ



又未項ニ右手續ヲ爲シタルトハ調書ニ記載シテ明確ニスヘシト定メタルハ此調書ニ依リ其終了ノ關係ヲ明ニシ併セテ後日ノ證據ト爲スニ於テ必要ナレハナリ

第二節 不動産ニ對スル強制執行

第一款 通則

第六百四十條 不動産ニ對スル強制執行ハ左ノ方法ヲ以テ之ヲ爲ス

第一 強制競賣

第二 強制管理

債權者ハ自己ノ選擇ニ依リ一箇ノ方法ヲ以テ又ハ二箇ノ方法ヲ以テ併セテ執行セシムルコトヲ得

強制管理ハ假差押ノ執行ノ爲ニモ亦之ヲ爲ス

(解) 本條ハ不動産ニ對スル強制執行ノ方法ヲ定メタリ而シテ其方法ハ左ノ如シ

(一) 強制競賣トハ不動産ヲ賣却シテ其賣得金ヲ以テ債務ヲ支拂ハシムル方法ヲ云フ

(二) 強制管理トハ不動産ヲ賣却セスシテ管理ヲ強制シ之ヨリ生スル處ノ收益ニ依リ債務ヲ辯済セシムルノ方

法ナリ

以上二箇ノ方法中債權者ハ自己ノ選擇ニ依リ一個又ハ二箇ノ方法ヲ併セ行フヲ得ト規定シタリ然レモ同一ノ不動産ニ付キ二箇ノ方法ヲ併セ行フニ難シ何トナレハ始メ競賣ヲ爲セハ管理ヲ爲スヲ得サレハナリ故ニ此二箇ノ方法ヲ併セ行フトハ已ニ管理ヲ執行セル不動産ニ關シ更ニ強制競賣ヲ爲シテ未タ辯済ヲ受ケサル債務ヲ支拂ハシムルトノ意ナルベシ

未項ハ強制管理ハ假差押ノ執行ノ爲メニモ亦之ヲ爲ストハ元來強制管理ハ不動産ノ所有權ヲ移轉スルモノニアラサルヨリ假差押ノ執行ニモ適用スルハ害ナクシテ寧ロ利益アルニ因レリ

第六百四十一條 不動産ニ對スル強制執行ニ付テハ其不動産所在地

ノ區裁判所執行裁判所トシテ之ヲ管轄ス若シ其不動産數箇ノ區裁

判所ノ管轄區内ニ散在スルトキハ第二十六條ノ規定ヲ適用ス

強制執行ハ申立ニ因リテ裁判所之ヲ爲ス

(解) 本條ハ不動産ニ對シ強制執行ヲ爲スニ付キ管轄裁判所ヲ定メタルモノナリ

不動産ニ對スル強制執行ハ不動産所在地ノ區裁判所ナリ而シテ此裁判所ハ專屬ニシテ當事者ノ合意ヲ以テ變更スルヲ許サス然レトモ強制執行ノ目的物タル不動産ニシテ管轄裁判所ノ不明ナル場合アリ即チ一個ノ不動産カ數箇ノ裁判所ニ跨リ或ハ數箇ノ區裁判所ニ數箇ノ不動産カ散在スル時之レナリ是等ノ場合ニハ管轄裁判所ハ債權者ノ申立ニ依リ上級裁判所ニ管轄ノ指定ヲ請ハサルヘカラス如此ニシテ定リタル執行裁判所ハ強制執行ヲ爲スヘキモノナリ



第二款 強制競賣

第六百四十二條 強制競賣ノ申立ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

- 第一 債權者、債務者及ヒ裁判所ノ表示
- 第二 不動産ノ表示
- 第三 競賣ノ原因タル一定ノ債權及ヒ其執行シ得ヘキ一定ノ債務名義

〔解〕 本條ハ強制競賣ヲ請求スル債權者ニ於テ之カ申立ヲナスニ付キ其申立書ニ記載スヘキ事項ヲ規定シタリ即チ債權者債務者裁判所及ヒ不動産ノ表示是レナリ是等ノ一タル強制競賣ノ申立ヲサントスルニハ欠クヘカラサル事項タリ蓋シ債權者債務者ノ如キハ之レカ執行ヲ爲シ又ハ爲サシムルハ本体ナレハ執行ヲ求メントスルニハ此二者ナカルヘカラス又裁判所ハ執行ヲ爲ス場所ナレハ之ヲ表示スルハ必要ナリ以上ノ三者ノミアリテ目的物ナケレハ強制執行ヲ爲ス一ヲ得ス之レ目的物タル不動産ノ表示ヲ要スル所以ナリ

不動産ノ競賣ヲ爲スニハ其原因タル一定ノ債權及ヒ其執行シ得ヘキ一定ノ債務名義モ亦必要ナリ然ラサレハ單ニ債權者が保有スル證書ノミヲ以テ強制執行ヲ迫ルカ如キトナリテ不都合少ナカラサレハナリ

第六百四十三條 申立ニハ執行力アル正本ノ外左ノ證書ヲ添付ス可シ

- 第一 登記簿ニ債務者ノ所有トシテ登記シタル不動産ニ付テハ登記判事ノ認證書
- 第二 登記簿ニ登記アラサル不動産ニ付テハ債務者ノ所有タルコトヲ證ス可キ證書
- 第三 地所ニ付テハ國郡市町村、字、番地、地目、反別若クハ坪數、土地臺帳ニ登録シタル地價及ヒ其地所ニ付キ納ム可キ一个年ノ租稅其他ノ公課ヲ證ス可キ證書
- 第四 建物ニ付テハ國郡市町村、字、番地、構造ノ種類、建坪及ヒ其建物ニ付キ納ム可キ一个年ノ公課ヲ證ス可キ證書
- 第五 地所、建物ニ付キ賃貸借アル場合ニ於テハ其期限並ニ借賃



ヲ證ス可キ證書

第二號、第三號及ヒ第四號ノ要件ニ付テハ債權者公簿ヲ主管スル官廳ニ其證明書ヲ求ムルコトヲ得

第四號及ヒ第五號ノ要件ヲ證明スル能ハサルトキハ債權者ハ競賣申立ノ際其取調ヲ執行裁判所ニ申請スルコトヲ得但此場合ニ於テハ裁判所ハ執達吏ヲシテ其取調ヲ爲サシム可シ

強制管理ノ爲メ既ニ不動産ヲ差押ヘタル場合ニ於テ其執行記録ニ第一號乃至第五號ノ要件ヲ記載シタルモノ有ルトキハ其證書ヲ添附スルコトヲ要セズ

(解) 本條ハ強制競賣ノ申立ヲ爲スニ付キ添付スヘキ證書ヲ掲ケタリ而シテ強制競賣ヲ請求スルニハ其中立ヲ爲スト共ニ執行力アル正本ヲ要スルハ勿論此正本ノ外本條第一號ヨリ第五號ノ書類ヲ備フヘキモノトセリ今其必要ヲ略スヘシ

強制執行ハ常ニ債務者所有ノ財産ニ對シテノミ爲スヘキモノナレハ債務者ノ所有タルヲ證明スルニ足レヘキ登記ノ認證書、登記簿ニ登記アラサル不動産ニ於テハ債務者ノ所有スルヲ證明スヘキ調査ニテ足り故ニ公正證書タルト私書證書タルト間ハス苟モ債務者ノ所有タルヲ證明シ得レハ可ナリ又地所建物ニ付テハ一年ノ租税及ヒ其他ノ課税證書ヘキ證書或ハ是等ノ者ニ賃貸借契約アルトキハ期限又ハ借賃ヲ證スヘキ證書ヲ添付スヘキ之レナリ

而シテ第二號第三號第四號ノ要件ニ付テハ債權者ハ公簿ヲ主管スル官廳ニ證明ヲ求メ第四號第五號ノ要件ヲ説明スルヲ得サルトキハ債權者ハ申立ノ際取調ヲ申請シタルトキハ執行裁判所ハ執達吏ニ取調ヲナサシムヘキモノトス然レモ強制管理ノ場合ニ執行記録ニ第一號乃至第五號ノ要件ヲ記載シアルトキハ其證書ノ添付ヲ要セザルナリ

第六百四十四條 競賣手續ノ開始決定ニハ同時ニ債權者ノ爲メ不動産

産ヲ差押フルコトヲ宣言ス可シ

差押ハ債權者カ不動産ノ利用及ヒ管理ヲ爲スコトヲ妨ケズ

差押ハ其決定ヲ債務者ニ送達スルニ因リ其效力ヲ生ス此送達ハ職

權ヲ以テ之ヲ爲ス

(解) 執行裁判所ニ債權者ヨリ競賣ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ先ツ其申立ノ要件ヲ調査シ競賣手續開始ノ決定ヲ下スヘキモノナリ裁判所ニ於テ之カ開始ヲ決定スルトキハ之ト同時ニ債權者ノ爲メ不動産ヲ差押ヲ爲スヲ明言セサルヘカラス又第二項ニ於テ債務者其不動産ノ利用及ヒ管理ヲ妨ケストシタル動産ノ如ク轉展等ノ危険ナクシテ利益アルニヨレリ



而シテ差押ヲ爲タルトキハ職權ヲ以テ其決定ヲ債務者ニ送達スルニ因リ其效力ヲ生スルナリ

第六百四十五條 裁判所ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタル不動産ニ付キ強制競入ニ引受ケシムカ又ハ賣却代金ヲ以テ其負擔ヲ辨濟スルニ足ル見込アルトキニ非サレハ賣却ヲ爲スコトヲ得ス  
不動産ノ上ニ存スル一切ノ先取特權及ヒ抵當權ハ賣却ニ因リテ消滅ス

留置權カ不動産ノ上ニ存スル場合ニ在テハ競落人ハ其留置權ヲ以テ擔保スル債權ヲ辨濟スル責ニ任ス

(解) 本條ト第五百八十條トノ差ハ不動産ト動産トノ差ノミニテ全シク或ル債權者ノ爲メ競賣手續ノ開始セラレタル不動産ニ付キ更ニ強制競賣ヲ請求スル者アルトキノ關係ヲ定メタルモノニシテ第五百八十條ト同一精神ナレハ同條ヲ參照スレハ明瞭ナルヲ以テ説明セス

第六百四十六條 配當要求ハ其原因ヲ開示シ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シテ執行裁判所ニ之

ヲ爲スコシ

右要求ハ競落期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得

(解) 本條ハ競賣ノ手續開始決定ヲ受クル債權者以外ノ債權者ニ於テ競賣ニ付セラレントスル不動産ニ對シ配當要求ヲ爲ス場合ノ手續ヲ定メタルモノニシテ本條モ前條ト同シク動産ニ對スル第五百九十條以下ニテ説明シタルヲ以テ略ス

第六百四十七條 執行裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要求アリタルコトヲ利害關係人ニ通知スコシ

執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者アルトキハ債務者ハ右通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ其債權ヲ認諾スルヤ否ヤヲ裁判所ニ申立ツ可シ

債務者カ認諾セサルコトヲ裁判所ヨリ通知アリタルトキハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債務者ニ對シ訴ヲ起シ其債權ヲ確定スコシ



(解) 本條ハ裁判所ニ於テ前條ノ申立アリタルトキ之ヲ其關係人ニ通知スヘキト及ヒ執行力アル正本ニ因ラス  
シテ配當要求ヲ爲スノ債權者アル場合即チ動産ニ對スル強制執行ニ關シ第五百九十一條ヲ以テ規定シタル同一  
ナルヲ以テ說明セズ

第六百四十八條 左ニ掲クル者ヲ競賣手續ニ於テノ利害關係人ト爲  
ス

第一 差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債  
權者

第二 債務者

第三 登記簿ニ記入アル不動産上權利者

第四 不動産上權利者トシテ其債權ヲ證明シ執行記録ニ備フ可  
キ届出ヲ爲シタル者

(解) 本條ハ競賣手續ノ利害關係人トハ是等ノモノニ云フト法律上推測シテ第一號ヨリ第四號マテ關係人ヲ列  
舉セリ而シテ此等關係人ハ廢賣上處置ニ付キ利害關係アルヲ以テ之ヲ表示シ後日ノ紛争ナカラシメタリ

第六百四十九條 差押債權者ノ債權ニ先ツ債權ニ關スル不動産ノ  
負擔ヲ競落人ニ引受ケシムルカ又ハ賣却代金ヲ以テ其負擔ヲ辨濟  
スルニ足ル見込アルトキニ非サレハ賣却ヲ爲スコトヲ得ス

不動産ノ上ニ存スル一切ノ先取特權及ヒ抵當權ハ賣却ニ因リテ消  
滅ス

留置權カ不動産ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其留置權ヲ以  
テ擔保スル債權ヲ辨濟スル責ニ任ス

債權カ不動産ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其債權ヲ擔保ス  
ル債權及ヒ質權者ニ對シテ優先權ヲ有スル者ノ債權ヲ辨濟スル責  
ニ任ス(明治三十一年法律第十一號ヲ以テ本條中改正)

(解) 不動産ノ競賣ヲ爲スニ當ツテ先ニ差押債權者ノ外ニ其不動産カ如何ナル負擔アルカヲ調査シテ之カ競賣  
ヲ爲シ其負擔ヲ引去ルモ尚ホ差押債權者ヲ利スルニアラサレハ競賣ヲ爲スニ許サス之レ勞シテ功ナク恰モ動  
産ニ對スル第五百六十四條ト同一理由ニ出テタルモノナリ而シテ第二項ニ於テ不動産ハ買賣ニ依リ登記簿ニ記



入ヲ要スル總テノ負擔ヲ免ル、モノトストノ規定ハ此ノ負擔ハ前項ニ定メタル如ク買賣代金ヲ以テ第一ニ辯済スヘキモノニシテ賣却ノ後競賣人ニ強テ引受ケシムベキモノニアラサレハナリ然レモ競賣人ニシテ其負擔ヲ受ケタルトキハ格別ナリ

是又不動産ノ負擔ハ登記簿ニ記入ヲ要セサルモノ少ナカラス此種ノ負擔ヲ競賣人ニ引受ケシムルハ競賣人ハ單ニ其調書ヲ以テ之ニ相應スル賣價ヲ定メテ買ヒ得タルトノ指定ニ出ツルナリ

第六百五十條 權利ヲ取得スル第三者其取得ノ際差押又ハ競賣ノ申

立アリタルコトヲ知リタルトキハ差押ノ效力ニ對シ其善意ナリシ  
リトヲ主張スルコトヲ得ス

若シ不動産カ差押ノ原因タル債權ノ爲メ義務ヲ負擔スルトキハ差押後所有ノ移轉シタル場合ニ限り新所有者其取得ノ際差押又ハ競賣ノ申立アリタルコトヲ知ラサルトキト雖モ競賣手續ヲ續行ス可シ

競賣申立ノ取下ニ因リテ差押ハ消滅ス

(解) 權利ヲ取得シタル第三者取得ノ際差押又ハ競賣ノ申立アリタルトキハ差押ノ效力ニ對シテ

善意ナリシト主張スルヲ得サルハ勿論ナリ何トナレハ若シ知リタルニ拘ハラズ不動産ヲ取得スルモノ、如キハ不正ヲ企テ差押債權者ヲ書スルカ如キトアレハナリ故ニ之ヲ知ラスシテ取得シタル者ノミ之ヲ善意ノ取得者トシテ保護スヘキナリ然レモ不動産カ差押ノ原因タル債權ノ爲メ義務ヲ負擔スルトキハ差押後所有ノ移轉シタル場合ニ限り差押債權者ニ於テ優等ノ權利ヲ主張シ得ヘキモノニシテ未タ差押ヲ爲サ、ルニ於テ不動産ノ所有ヲ移轉シタルトキハ之ヲ取得者ニ賣ムルヲ得サルナリ元來差押ヲ爲サ、ル財產ハ自由ニ處分シ得ルハ當然ニシテ之ヲ取得シタル者ハ其責任ヲ負フノ理由ナシ故ニ此場合ヲ除キテ已ニ差押ヲ受ケタル不動産ニシテ日其債權者ハ其不動産ニ原因スルモノナルトキハ差押後ニ取得シタル權利者アルモ競賣ノ手續ヲ繼續スルトト定メタリ末項ハ讀ンテ字ノ如シ別ニ説明セス

第六百五十一條 裁判所ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲ス際職權ヲ以テ

競賣ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記入ス可キ旨ヲ登記判事ニ囑託ス可シ

登記判事ハ前項ノ囑託ニ從ヒテ記入ヲ爲ス可シ

(解) 差押ノ有無ハ差押債權者ニ取リ最モ必要ナルカ故裁判所ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲ス際職權ヲ以テ競賣ノ申立テアリタルトキ登記簿ニ記入スヘキトシテ登記判事ニ囑託スヘキモノトセリ之レ一般入テシテ差押ヘアリタルトキ知ラシムル爲メニ外ナラス而シテ登記判事ハ其囑託ニ付テ記入ヲ爲サ、ルヘ可ラサルナリ

第六百五十二條 登記判事ハ前條ニ掲ケタル記入ヲ爲シタル後登記



簿ノ謄本ヲ裁判所ニ送付シ不動産上權利者ヨリ差出シタル證書アルトキハ其抄本ヲモ送付ス可シ

(解) 本條ハ登記判事ノ職務ヲ規定シタルモノニシテ要スルニ登記判事ハ登記簿ノ謄本及ヒ不動産上權利者ヨリ差出シタル證書ヲ裁判所ニ送付スルハ執行裁判所ハ是等書類ニ依リ競賣行為ヲ爲スヘキタメニ備フルニ過キス

第六百五十三條 豫メ知ルニ於テハ手續ノ開始ヲ妨ク可キ事實カ登記判事ノ通知ニ依リ顯ハルルトキハ裁判所ハ其事情ニ因リ直チニ手續ヲ取消シ又ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル期間内ニ其障礙ノ消滅シタルコトヲ證明ス可キコトヲ債權者ニ命可シ其期間内ニ此證明ヲ爲ササルトキハ期間ノ滿了後職權ヲ以テ手續ヲ取消ス可シ

(解) 執行裁判所ニ於テ競賣手續開始決定ヲ爲シタル後之ヲ知レハ其不動産ニ對シ競賣ヲ爲シ得サルヲ登記判事ノ通知ヲ受ケテ知リタルハ之ヲ取消シ又ハ事狀ニ依リ裁判所ノ意見ヲ以テ一定ノ期間内ニ其障礙ノ消滅シタルヲ證明スヘキ債權者ニ命スヘキモノナリ然レト債權者ニシテ其期間内ニ是レカ證明ヲ爲サルトキハ期間ノ滿了後手續ヲ取消セラルヘカラス是レ開始ノ事實誤リナルヲ知リタルニ因レリ若シ此規定ナキハ誤リタル開始決定ハ効力ヲ生シテ他ノ債權者及ヒ債務者ヲ害スルヲアレハナリ

第六百五十四條 裁判所ハ競賣開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ租稅其他ノ公課ヲ主管スル官廳ニ通知シ其不動産ニ對スル債權ノ有無及ヒ限度ヲ申立ツ可キコトヲ期間ヲ定メテ催告ス可シ

(解) 不動産ニ關シ租稅又ハ其他ノ公課アルハ常ナリ是等公課ハ公益上優先シテ辨濟ヲ受クルノ必要アリ故ニ裁判所ハ競賣開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ租稅又ハ他ノ公課ヲ主管スル官廳ニ通知シ其不動産ニ對スル債權ノ有無及ヒ限度ヲ申立ツ可キコトヲ期間ヲ定メテ申立ツヘキトセリ

第六百五十五條 裁判所ハ登記判事及ヒ租稅其他ノ公課ヲ主管スル官廳ヨリ通知ヲ受ケタル後鑑定人ヲシテ不動産ノ評價ヲ爲サシメ其評價額ヲ以テ最低競賣價額ト爲ス

(解) 本條ハ不動産ノ最低競賣價額ヲ定ムヘキ時期及ヒ其方法ヲ定メタルモノナリ

第六百五十六條 裁判所ハ最低競賣價額ヲ以テ差押債權者ノ債權ニ先タツ不動産上ノ總テノ負擔及ヒ手續ノ費用ヲ辨濟シテ剩餘アル見込ナシトスルトキハ差押債權者ニ其旨ヲ通知ス可シ



右通知ヨリ七日ノ期間内ニ差押債権者カ前項ノ負擔及ヒ費用ヲ辨濟シテ剩餘アル可キ價額ヲ定メ且其價額ニ應スル競買人ナキ場合ニ於テハ自ラ其價額ヲ以テ買受ク可キ旨ヲ申立テ十分ナル保證ヲ立テサルトキハ競賣手續ヲ取消ス可シ

(解) 本條ハ前條ニ規定シアル最低價額ノ必要及ヒ其效果ヲ定メタルモノナリ即チ最低價額トハ評價人チシテ評價セシメタル價格ヲ云フ而シテ裁判所ハ此價額ニ依リ差押債権者ノ債權ニ先ツ不動產上ノ總テノ負擔及ヒ手續ノ費用ヲ辨濟シテ剩餘アル見込ナシトスルトキハ其旨ヲ通知スヘキモノトセリ差押債権者ハ此通知ニ依リ競賣チスルヤ否ヤチ決定スヘキナリ

而シテ右通知ヲ受ケテヨリ七日ノ期間内ニ差押債権者カ前項ノ負擔及ヒ費用ヲ辨濟シテ剩餘アルヘキ價格ヲ定ムルカ又ハ其價格ニ相當スル競買人ナキハ自ラ其價格ヲ以テ買受クヘキ旨ヲ申立テ十分ナル保證ヲ立テサルトキハ競賣手續ヲ取消スヘキモノトス何トナレハ差押債権者ニシテ此手續ヲ盡ササルトキハ不動產ノ競賣ハ效ヲ奏セサル者ニ見做サ、ルヲ得サレハナリ

第六百五十七條 裁判所ハ前條第一項ノ債權及ヒ費用ヲ辨濟シ剩餘ヲ得ル見込アルトキ又ハ差押債権者前條第二項ノ申立ヲ爲シ十分ナル保證ヲ立テタルトキハ職權ヲ以テ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定

メテ之ヲ公告ス

(解) 本條ハ競賣手續開始後評價ノ結果最低價額ヲ知り又其他ノ負擔ヲ調査シテ競賣ニ付スルヲ以テ適當トナスヤ否ヤチ知りタル上ニテ盡スヘキ裁判上ノ手續ヲ定メタルモノニシテ別ニ説明スル處ナシ

第六百五十八條 競賣期日ノ公告ニハ左ノ諸件ヲ具備スルヲ要ス

- 第一 不動産ノ表示
- 第二 租稅其他ノ公課
- 第三 賃貸借アル場合ニ於テハ其期限並ニ借賃
- 第四 強制執行ニ因リ競賣ヲ爲ス旨
- 第五 競賣期日ノ場所日時及ヒ競賣ヲ爲ス可キ執達吏ノ氏名並ニ住所
- 第六 最低競賣價額
- 第七 競賣期日ノ場所及ヒ日時



第八 執行記録ヲ閱覽シ得ヘキ場所

第九 登記簿ニ記入ヲ要セサル不動産上權利ヲ有スル者其債權

ヲ申立ツ可キ旨

第十 利害關係人競賣期日ニ出頭ス可キ旨

(解) 本條ハ競賣期日ニ公告スヘキ要件ヲ定メタルモノニテ第一號ヨリ第十號迄列記セリ然レモ法文明了ナルヲ以テ説明セヌ要スルニ競賣ノ期日ニハ以上列記ノ十個ノ事項ヲ必要トストノヲ明ニシタルニ過キス

第六百五十九條 競賣期日ハ公告ノ日ヨリ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

此期日ハ裁判所ノ意見ヲ以テ裁判所内又ハ其他ノ場所ニ於テ執達吏ヲシテ之ヲ開カシム

(解) 此競賣期日ハ公告ノ日ヨリ少ナクトモ十四日ノ後ト定メタルハ競賣ノイテ數人ノ人ニ告知セシメテ遺憾ナカラシムル爲メ此猶豫ヲ與フルトトナシタリ故ニ裁判所ニ於テ此規則ヲ犯シ十四日以内ニ公告期日ヲ定メタルトキハ關係人ハ異議ヲナスコトヲ得ルナリ

此期日ハ裁判所ノ意見ヲ以テ裁判所内又ハ其他適當ノ場所ニ於テ執達吏ヲシテ之ヲ開カシムルトハ即チ執達吏

ヲシテ其事ヲ取扱ハシムトノ意ナリ

第六百六十條 競賣期日ハ競賣期日ヨリ七日ヲ過クルコトヲ得ス

此期日ハ裁判所ニ於テ之ヲ開ク

(解) 本條ハ競賣終了後競落シタルノ期日及ヒ場所ニ付キ規定シタルモノニテ即チ競落期日ハ競賣期日ヨリ七日ヲ過クルコトヲ得ストシタルハ數多ノ日數ヲ要スル理由ナキニ因レリ而シテ競落期日ハ裁判所ニ於テ開クヘキモノニシテ各關係人勝手ノ場所ニテ開クヘキモノニアラサルナリ

第六百六十一條 競賣期日ノ公告ハ左ノ箇所ニ揭示シテ之ヲ爲ス

第一 裁判所ノ揭示板

第二 不動産所在地ノ市町村ノ揭示板

此他公告ハ裁判所ヲ意見ニ從ヒ一箇又ハ數箇ノ新聞紙ニ掲載スルコトヲ得

(解) 本條ハ競賣期日ノ公告ヲ爲ス場所ヲ規定シタルモノナリ

第六百六十二條 最低競賣價額ヲ除ク外本款ニ掲ケタル賣却條件ノ